

2020年度
貝塚公民館のあゆみ
～人と人、地域をつなぐ公民館～

貝塚市立中央公民館
貝塚市立浜手地区公民館
貝塚市立山手地区公民館

「2020年度貝塚公民館のあゆみ」発刊によせて

成長社会から成熟社会へと移行し、急速な少子高齢化・人口減少が進展する中、地域力を維持・発展させていくには、より多くの市民が支え合うことに意欲を持ち、能力を発揮できるように努めていくことが社会全体の課題となっています。

本市では「第5次貝塚市総合計画」「第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、市民が夢を持ち幸福を実現させるまちをめざしています。また「貝塚市教育大綱」において、確かな「夢」と高い「志」を持ち、貝塚で学び育ったことを「誇」に思える子どもの育成と、市民のたゆまぬ学びの中で「絆」を一層深める取組みを通し「教育ナンバーワンのまち貝塚」をめざしており、生涯学習は地域づくりのかけ橋であることを掲げ、家庭・学校・地域がともに手を携え総合的な教育力を高めていくことをうたっています。

このような理念のもと、貝塚公民館は、1953(昭和28)年5月に開館して以来、市民の学習活動や成果を発表することにより、市民が“つどい、つながる”、また、地域における子育てや青少年の育成をはじめとする多様な生活課題について取組み、学びを通じた自主・協働型コミュニティ創出に努めてまいりました。

特に、山手地区公民館は、2021年に開館30周年を迎えるにあたり、山手地域の要望を汲み取った学習拠点として、学びから創出する「絆」により、館を中心とした人と地域のつながりにより、まちづくりの起点となる役割を果たしてきました。

しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、4月と1月に、「緊急事態宣言」が発出され、“人と人、地域とのつながり”に危機感を覚えました。その結果「第64回中央公民館まつり」をはじめとする多くの事業が中止に至りました。しかし、この事態をものともせず、「新しい生活様式」に沿う中、オンライン活用により取り組んだ「第9回貝塚公民館大会」をはじめ、出来ることを職員・市民相互に見出し、地域の実情に即した多様な事業展開を進め、“人と人、地域をむすぶ”取組みに公民館に集う市民だけでなく、町会・自治会等の地域関係団体とともに深めてまいりました。

人生100年時代を心豊かに生きる上で、多様な学習が求められる中、市民の身近な学習および交流の場として、地域社会との信頼と協調そして共生のもと、「まちの持続可能性を高め、人と人をつなぎ地域を輝かせる」公民館はこれからも必要です。第二次世界大戦後の社会混乱の中に産声を上げた公民館の歴史を顧みて「つどい、まなび、まじわり、むすぶ」公民館活動について、職員はもとより市民が公民館の存在する意義を改めて提起し、学びを通じた「人と地域のつながり」を広げ、今後も地域の持続可能性を高めて、地域力の向上を図る取組みに努めてまいります。

本市公民館における本年度の実践活動の成果と課題について本誌にまとめました。

公民館関係者をはじめ、広く市民の皆様にもご高覧いただき、様々な分野からのご意見等いただければ幸いです。

貝塚市立中央公民館長 寺戸俊二

令和2年度 貝塚公民館 事業総括

はじめに

本年度の貝塚公民館は、日本国憲法・教育基本法及び社会教育法の理念はもとより、本市が策定しているまちづくりの指針「第5次貝塚市総合計画」「第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、また、教育委員会が定めた「令和2年度教育努力目標」を踏まえ、

- ・市民の主体的参画型講座内容の充実を図り、新たな利用者を開拓する。
- ・関係機関と連携を深め、公民館からの広報等の情報発信をより進める。
- ・公民館での学習や交流を通じて、人権意識の高揚と地域の活性化を図る。

の3点を事業展開の基本とした令和2年度貝塚公民館事業方針に基づき、中央・浜手地区・山手地区各公民館（以下、「各館」という）において重点目標を掲げ、多様な講座や事業を展開した。

しかし、本年度、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）による「緊急事態宣言」が、4月と1月の2回にわたり発出され、中止または延期となる事業があった。

コロナにより従来の取組みが困難、かつ、公民館に集うクラブ・グループ員の減少が全国的にも課題となっている中、利用者の新たな発掘を進めるとともに、職員と利用者が協働する「第9回貝塚公民館大会」の企画などにより「つどい、まなび、まじわり、むすぶ」公民館活動の原点に立ち返り、多くの人のつながりの中から課題の克服に向けた取組みを広げてきた。

以下、本年度各館で取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめ総括した。

1. 公民館主催事業

① 青少年対象事業

＜状況・成果＞

従前から、子どもたちが企画運営から関わり主体的に取り組めるよう進めてきた「おばけやしき作戦会議」は、コロナを考慮し開催を見合わせたが、その取組みを作品展示として「明るいおばけやしき」に残した。また、コロナにより市内小中学校が臨時休校また夏期休業の短縮になったため、子どもたちが防災を考える機会とする「コドモ防災塾」、また、人気のある「キッズキッチン」などの料理講座を含む「夏の子ども講座」をはじめとする夏期事業は開講できなかった。そのため各館とも学校休業日における子ども講座、また、宿泊体験を行う「こうみんかんへGO!」などの新たな事業として取り組んだ。

また、青少年の活動を支援していく上で「レッツ TRY 事業」を継続し、新たに自由なたまり場「+(プラス)KOMINKAN」に取組み、貝塚少年少女合唱団は、団員・育成会ともにオンライン練習の成果を定期演奏会の発表につなげた。

＜課題＞

- 子どもたちの主体性を育んだ学校・地域における学年を越えたつながりの拡大。
- 地域で青少年が活躍し集える機会の周知。
- 異年齢異世代間の交流を進めていくためボランティアとの連携。

② 子育て支援事業

＜状況・成果＞

図書館・子育て支援課を中心とする関係機関や学習グループ・団体と連携し、子育て中の親同士の居場所を作り、学習・交流を進めてきた。また、子育てグループの活動支援により地域における子育て支援の輪を広げ、5年目を迎えた「かいづか家族の日」関連事業を含め各館で父子参加の事業に取組み、「パパサロン」にも一定の参加があった。また、令和元年10月からの幼稚園・保育園・認定こども園などを利用する3～5歳の子ども利用料無償化を受け、講座受講者の減少が懸

念される中、コロナ下での開催方法も含め各館の開講時期を見直し、ストレス軽減を図り子育ての悩みを共有できる保育付き講座に取り組んだ。

<課題>

目まぐるしく変化する子育て行政の中で、関係団体と連携しながら公民館としての特性を生かした事業の展開。

③ 成人対象事業

<状況・成果>

各館において「ふれあい料理」「New つるかめ大学」といった定期講座を開講し、生涯を通じた学びの機会を設け、時代の変化や市民ニーズを把握し、若年層・勤労者が公民館活動に興味を持てるようなテーマ設定と開催時間の工夫により「アロマ講座」「ダイエットボクササイズ」などの生活に潤いと活力を与える新規講座を開設し幅広い市民の参加を促した。

また、昨年度に好評を得て開講した「ノルディック・ウォーキング」や「アタマもからだもシャキッと元気体操」「歌声サロン」のほか、本年度はフレイル予防に着目し「歌体操」「編みあみ講座」を高齡介護課との共催事業として開催するなど講座・事業の充実を図った。

<課題>

講座終了後のクラブ化を促進する自主学習の場の拡大。

若年層や勤労者が公民館活動に興味を持てる事業の企画と新たな参加者の発掘。

④ 人権課題事業

<状況・成果>

様々な分野での人権を考える講座を開設し、身近な人権に気づき考える機会とした。

「日本語会話よみかき教室」は、市内企業からの紹介により来日間もない外国人技能実習生を受け入れ日本語習得の学習を、また、大阪府教育委員会との共催により識字・日本語パネル展を開催し、外国人の識字に対する現状課題の広報に努めた。

また、落語家の講演では古典落語を通して日常の生活から気付く人権学習を、また、フルート・アルパハーブの演奏を通して、世界中の人々の生活から人権の尊さを考える「ほっとハートコンサート」を開催した。

<課題>

新たな講座開設にあたり、関係行政機関との情報交換を進めながら連携する必要性。

⑤ 文化振興事業

<状況・成果>

浜手地区・山手地区各公民館でロビーを活用した「ロビーコンサート」の開催、またホールを活用した「歌声サロン」などの参加型の事業を行い、広く市民が参加できる事業を展開した。

一方、中央公民館では、老若男女問わず参加者のあった「七夕・X'mas ピアノリレー」で、個人の学びから館利用者の拡大につなげた。また、コロナ対策により「ジャズライブ」をコスモシアター中ホールにて開催し、多くの参加者に、本市にゆかりのある団体の演奏による音楽文化の発信を行った。

<課題>

クラブ・市民グループ等の発表や広報の場として公民館育成団体の活動をさらに支援し、公民館に集う文化団体の自主性を育み参加者拡大への取組み。

各館で出前事業を中心に地域へ出かけ、地域文化の発信や市民文化を支援するとともに、文化振興事業団や関係課と連携した市民への文化発信の取組み。

2. 人材養成事業

<状況・成果>

「日本語会話よみかき教室」および各館の料理・保育などのボランティアが、公民館主催事業などを通じて人とのつながりを大切にしながら活動を進めている中、新しい人材発掘を図り、公民館や地域活動を支える人材養成に努めた。

また、公民館クラブや各館協議会（連絡会）の活動を通して新しい人材の育成に努めた。

<課題>

三館ボランティアの情報交換の場設定と主体的運営に対する支援。

新規加入ボランティア及び各事業協力ボランティアの活動支援の拡大。

3. 地域連携事業

<状況・成果>

移動公民館では市内各地域の町会等へ出かけ、高齢者や子育て世代の地域における居場所づくりを進めた。また、校区町会連合会や校区福祉委員会、地域教育協議会の行事や会議などにも参加し地域課題や生活課題の情報収集に努めているが、コロナにより機会が減少した。

なお、実行委員会組織で取組み、公民館活動を通して周辺地域だけでなく市域内外を巻き込む交流の場となる公民館まつりは、コロナ対策により中止となった。

<課題>

引き続き移動公民館を通じて周辺地域に出向き、地域課題を把握し、解決に向け地域と連携した事業の展開。

町会等地域と協力し合いながら地域を活性化する事業を展開するとともに、各館の公民館まつりでは周辺地域の住民を巻き込む取組み。

4. 団体支援事業

<状況・成果>

クラブ協議会・連絡会、子育て団体等の各団体の活動が進展するよう支援した。また、市民企画講座では、2団体から「はやりのZoomを体験し、活用してみよう」「りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ」が企画され、広報・学習内容がより多くの人と共有できるよう支援した。

<課題>

子育てサークルメンバーや高齢化に伴うクラブ員の減少に対し支援を行うとともに、新たな活動グループの育成を行う。

学びたい市民に対する市民企画講座をさらに広報し普及させる。

5. 三館連携事業

<状況・成果>

「しゃべり場★公民館」では、公民館クラブ・支援団体とともに公民館活動について考える機会を設け、活動意識の共有を図り、三館利用者連絡会では、クラブ展示交流を行った。

さらに、公民館の課題や将来について考える「第9回貝塚公民館大会」（テーマ：やっぱり好きやねんの公民館ーコロナで知った公民館の大切さー）では、オンラインを活用し3館に分散して開催した。コロナ禍において、できることに取り組む姿勢が、さらに館に集う利用者の結束力を高め、大会の意義を再確認することができた。

<課題>

三館利用者と連携した、貝塚公民館大会をはじめとする各種交流事業の開催。

貝塚市立
中央公民館

目 次

◆年間総括	中 1
◆講座・事業	
□ 青少年対象事業	中 7
レッツTRY事業（中高生の活動支援）	
貝塚少年少女合唱団	
2020 子ども講座【5 講座】（幼児・小学生対象の講座）	
□ 子育て支援事業	中 11
赤ちゃんルーム（0 歳児を持つ親や妊婦の交流の場）	
保育つき講座 おや子教室（春期・冬期）〈春期中止〉	
□ 成人対象事業	中 13
NEW つるかめ大学（おおむね 65 歳以上の方対象の講座）	
夢にチャレンジ（心身に障がいのある方対象の講座）	
ホッとワーク（視覚に障がいのある方対象の講座）	
ふれあい料理（心身に障がいのある方対象の講座）	
介護について語り合う場	
アタマもからだもシャキッと元気体操（高齢介護課共催事業）	
ノルディック・ウォークを体験しよう（高齢介護課共催事業）	
アロマ講座	
気軽に書道	
Stay Home 家にいながらつながろう	
市民企画講座（貝塚ファミリー劇場）「こどもがいきる力を育むために親ができること」	
□ 人権課題事業	中 25
日本語会話よみかき教室（日本語学習支援講座）	
□ 文化振興事業	中 26
クラシックコンサート・ジャズライブ・春一番コンサート	
ピアノリレー（七夕・X'mas）	
□ 人材養成事業	中 29
遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）	
保育ボランティア	
日本語会話よみかき教室ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
□ 地域連携事業	中 33
第 64 回中央公民館まつり	
ロビー活用	
地域出前講座	
移動公民館「健康サロン」	
ほかでもがんばっているよ	
□ 団体支援事業	中 39
中央公民館クラブ協議会	
貝塚学習グループ連絡会	
貝塚ファミリー劇場	
貝塚子育てネットワークの会	
文化団体	

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和2年度 中央公民館 事業総括

はじめに

本年度、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）による「緊急事態宣言」が、4月と1月の2回にわたり発出され、中止または延期となる事業があった。

このような中、令和2年度貝塚公民館事業方針に基づく重点目標を定め、関係機関との連携および広報等情報発信の強化、人権意識の高揚と地域活性化の向上、また、市民の主体的参画型講座内容の充実により、ウィズコロナ・アフターコロナを考え取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめた。

1. 公民館主催事業

市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

<状況・成果>

- ・ コロナにより4月から計画していた講座の中止・延期となる中、講座が動き出したのは6月からとなる。その後コロナの状況を見ながら人数制限等の対応を取り講座運営に努めた。
- ・ 新規利用者の開拓を図るため、勤労者の参加を考えた平日夜間講座および土日での文化事業を開催した。
- ・ 青少年対象事業・子育て支援事業・障がい者が参加する事業などで「中央公民館クラブ協議会（以下、「クラブ協議会」という）」「貝塚子育てネットワークの会」をはじめとする支援団体・ボランティアの協力を得て事業を展開した。
- ・ 市発信の広報紙・ホームページ・Facebook・LINEにより事業の実施・報告に努めた。

<課題>

- ・ 引き続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、学習成果の共有に努める。
- ・ コロナ対策をしつつ講座の開催方法を探る。

① 青少年対象事業

青少年がいきいきと地域で活動し、健全に成長することをめざす。

- ・ 近隣小中学校との連携による事業および異世代交流機会の拡大をめざす。
- ・ レッツTRYの登録団体である中学生および高校生の自主性を高め、現在活動のある音楽・ダンス以外の分野にも広げる。
- ・ 青少年教育課・学校教育課等教育委員会内部はもとより関係行政機関による共催事業の充実を図る。

<状況・成果>

- ・ 本年度のレッツTRY登録は2団体であり、昨年度の3団体から減少した。また、府立貝塚南高等学校の音楽グループが参加する公民館まつりがコロナ対策により中止となり、貴重な活動発信の機会が無くなった。
- ・ コロナ対策による市立学校園の夏休みが短縮されたことにより、例年の「夏の子ども講座」が開講できなかった。しかし、公民館クラブ、グループの協力により冬休みや春休み期間を利用して「2020子ども講座」を5講座開講し、受講者との異世代交流が活発に行われた。
- ・ 貝塚少年少女合唱団は、コロナによる活動自粛中も、リモート活用による練習を行い、つながりの大切さを確認し、工夫をしながら定期演奏会を開催する活動を展開した。

<課題>

- ・ 音楽やダンスだけではなく様々な活動支援ができることの周知。
- ・ 「子ども講座」をはじめとする、子ども・スタッフともコロナに対する安全安心に配慮した講座運営。

② 子育て支援事業

地域ぐるみの子育てを進めていく支援をめざす。

- ・ 子育て講座を通し、家族で参加できる講座展開を図る。
- ・ 新たな参加者の発掘をめざし、各事業とも講座内容の充実を図る。
- ・ 子育て支援課をはじめとする関係行政機関との連携強化を図り、地域への子育て支援活動の拡大をめざす。

<状況・成果>

- ・ 「おや子教室」は、各館の開講時期を見直し、中央では秋期開講とした。コロナ禍の下、昨年度同様子育てのストレス軽減を図り、子育ての悩みを共有できる講座に取り組んだ。また、心身ともにリラックスできるアロマやヨガなども取り入れた。結果、講座への関心が高まり受講者6組のうち2組が全回出席した。
- ・ 「赤ちゃんルーム」は、コロナ対策として毎回最大8組程度の申込制とし、「貝塚子育てネットワークの会」の協力により、多くの子育て情報を共有し、親子で交流することによりコミュニケーション力を高める工夫をした。また、健康推進課・子育て支援課、さらに市内医療機関に広報を拡げ、講座開催の周知に努めた。

<課題>

- ・ 親子で体験する場や子育て期に知ってもらいたい情報の提供。

③ 成人対象事業

生涯を通じて自主的な学びができ、地域の課題を解決するために活躍する人が育つことをめざす。

- ・ 「貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の趣旨に沿った、若い世代をひきつけ、魅力のある講座を継続して取り組む。
- ・ 講座終了受講者に対しクラブ化等学習グループの形成支援を図る。
- ・ 高齢介護課をはじめとする関係行政機関との連携をさらに進める。
- ・ アクティブシニア層が地域とつながる意欲を高める講座内容の充実を図る。
- ・ 受講者の主体的参画と活動を促進し、社会貢献につながる学習の機会を創出する。
- ・ あらゆる成人が対象の公民館活動につながる講座の展開により、社会参加の機会創出を支援する。

<状況・成果>

- ・ 新規受講者を9人迎え開講した「New つるかめ大学」は、フレイル予防やSDGs（持続可能な開発目標）への理解を深める講座を中心に展開した。講座はコロナ対策により2部制とし、時間も短縮して開講したが出席率は高かった。
- ・ 「夢にチャレンジ」では、ギョウザ・陶芸等の料理・創作に加え、健康を考えたノルディック・ウォーク体験に取り組んだ。
- ・ 「ホッとワーク」は、昨年に引き続き料理だけでなくレザークラフト等の創作にも挑戦し「貝塚市障害者作品展」への発表につなげた。また、日本民謡・講談等日本古来の文化に触れる機会を企画し、ガイドヘルパーも講座に参加して受講者、講師との交流を図った。
- ・ 「ふれあい料理」は、コロナ対策のため、参加者を2グループに分け、2ヶ月を同メニューで取り組んだ。
- ・ 「介護について語り合う場」は、現代の介護者とその家族が抱える課題について考える相互学習の場として展開した。特にコロナ禍における介護のあり方や現代の介護をめぐる環境の変化にも注目しダブルケア・ヤングケアラーなどの学習の取組みにつなげた。
- ・ 高齢者の健康増進および介護予防の取組みとして昨年も開催した内容であるが、今年はグループ化も視野に入れて、「アタマもからだもシャキッと元気体操」「ノルディック・ウォークを体験しよう」を高齡介護課と共催した。
- ・ 昨年好評であった「気軽に書道」「アロマ講座」を開講し、勤労者を含む館利用の機会提供に努めた。
- ・ 緊急事態宣言での発出休館時「Stay Home 家にいながらつながろう」で、外出自粛の中、人と人とのつながる大切さにより、不安や情報を共有し心身を元気にする機会の提供に努めた。

<課題>

- ・ 受講者が主体的に取り組める内容の検討と受講者相互の交流を深める。また、これらに協力するクラブ・グループとの調整を円滑に行う。
- ・ 相互の役割分担を考えた責任や達成を感じる後期高齢者の増加を見据えた目的や内容の検討。
- ・ 開講に際し受講人数を超える場合において、関係施設・ボランティアとの意見により内容充実を図る。

④ 人権課題事業

生涯の各時期にすべての市民が人間らしく生きることをめざす。

- ・ 外国人技能実習生を含む海外からの移住者増加に伴い、「日本語会話よみかき教室」への需要が高まる中、支援者の増員を図り、かいつか国際交流協会（KAIFA）などの関係機関とのさらなる連携を進める。
- ・ 「語学力向上」とともに、利用者・市民との異文化理解・交流など公民館活動に即した取組みを進める。
- ・ 市民が気軽に多様な人権課題に触れることができる機会を増やす。

<状況・成果>

- ・ 「日本語会話よみかき教室」では、市内企業からの紹介により来日間もない外国人技能実習生を前年同様受け入れた。
- ・ 大阪府教育委員会との共催により識字・日本語パネル展を開催し、外国人の識字に対する現状課題の広報に努めた。

<課題>

- ・ 外国人の在留資格の緩和による外国人技能実習生の増加を見込んだ講座の展開。
- ・ 他の人権課題への取組みを継続して行っていく。

⑤ 文化振興事業

身近に多様な芸術・文化にふれる機会と文化が生活にうるおいと安らぎを与えられるまちづくりをめざす。

- ・ 文化振興事業団との連携また公民館育成団体の活動機会の充実発展をめざす。

<状況・成果>

- ・ コロナ対策のため開催場所および定員の変更を行い、クラシックコンサート、ジャズライブ、春一番コンサートによる音楽文化の発信を行った。特にジャズライブは、近年参加者が増加していることを見据え、コスモスシアター中ホールでの開催とした。
- ・ 公民館を拠点とする文化団体の発表は、コロナのため開催できなかった。
- ・ 「七夕・X'mas 各ピアノリレー」で個人の学びを活かし、新たな公民館利用者の拡大に努めた。
- ・ 文化振興事業団との連携事業には至らなかった。

<課題>

- ・ 文化振興事業団や関係行政機関との連携。
- ・ 市民個人の学びを活かし公民館活動へつなげていく方策。
- ・ 音楽以外の文化発信の取組み。

2. 人材養成事業

地域コミュニティの活性化と地域課題解決のために市民と協働し、まちを紡ぐ動きを進めることをめざす。

- ・ 各ボランティア養成講座活動への支援と連携の強化を図り、各ボランティアの新たな協力者の発掘と育成を進め活動機会を広げる。
- ・ 各ボランティア構成員が館事業を通じ、ボランティア活動グループとして自主性を育み、他の利用者や多くの市民とつながり互いに支え合う関係を広げる。
- ・ 各「代表者会」を継続し、公民館と利用者団体との意思疎通を図る。

<状況・成果>

- ・ 「保育ボランティア」は、「おや子教室」の保育支援だけでなく、受講者の子育てへの悩みを積極的に考えた安心できる子育て支援の取組みに努めた。
- ・ 「ふれあい料理ボランティア」は、3人が加わり、ボランティア相互の活性化が見られた。また、引き続き受講者との信頼関係に努めた。

- ・ 「日本語会話よみかき教室ボランティア」は、2人のボランティアが加わった。また、ボランティア向けセミナーに参加しスキルアップに努めた。
- ・ あそびボランティア「遊び隊」により、市内の小学校や公民館講座事業へ出向き、地域における貢献度の高い活動が行われたが、コロナにより機会が激減した。しかし、コロナ禍におけるできる理由を考える活動として動画作成に取組み発信した。

<課題>

- ・ 既存加入ボランティアはもとより、新規加入ボランティアが継続して活動できるよう引き続き支援する。
- ・ 安全安心に活動できる場を互いに考え作り出すことの必要性。

3. 地域連携事業

地域課題の解決に活躍できる人材の発掘と養成をめざす。

- ・ 近隣町会との接点を探り、地域との連携を深め、移動公民館のさらなる進展を図る。
- ・ 市民が各々住む地域に関心を持ち、地域コミュニティの活性化につながる講座を地域単位で展開する。

<状況・成果>

- ・ 公民館クラブを中心に市内の学校園や自治会、福祉施設等へ出向き地域貢献活動を展開するものの、コロナによる活動自粛のため激減した。
- ・ 2日間開催の「第64回中央公民館まつり（以下、公民館まつり）」は、コロナ対策により中止となったが、実行委員会組織での取組みにより団体相互の連携がより深まった。
- ・ 移動公民館(出前講座)は、コロナ対策から開催を見合わせ実施に至らなかった地域もあったが、健康サロンについては、5団体で実施し、地域とのつながりが再確認できた。
- ・ ロビーでは、三館利用者連絡会展示交流活動を含めた公民館クラブ・団体が創る作品発表の場とともに、市民も活用できる場として整備し、広報等にて周知に努めた。

<課題>

- ・ 移動公民館(出前講座)の開催にあたり新しい地域を開拓していく。
- ・ コロナ対策が継続する中で考えていく公民館まつりの開催を、実行委員会と十分協議した上で、広く市民に公民館活動を理解してもらえるよう発信していく。

4. 団体支援事業

公民館活動から育っている市民グループ活動や文化活動を支援し、各団体の自主性と地域交流貢献活動の拡大促進に取り組む。

- ・ 各団体の自立的活動を支援する。
- ・ 社会的課題を捉えた市民企画講座をきっかけとする新たな学習グループの発足を促し、学習グループ連絡会の活性化を図る。

<状況・成果>

- ・ クラブ協議会、公民館まつり実行委員会等を通じて各団体の自主性を育成するため支援した。
- ・ 「貝塚ファミリー劇場」と、“こども市”や例会等の開催支援により、子どもを中心にした文化活動の振興に取り組んだ。また、市民企画講座「りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ」に取組み、子どもに対し感動する生の文化を通した大人の寄り添う大切さについて学習した。
- ・ 「貝塚子育てネットワークの会」と、各部会の開催や公民館との共催講座および研修の実施を支援し、子育てを通した地域の活性化に取り組んだ。
- ・ 3団体で構成される「貝塚学習グループ連絡会」は、メンバーの高齢化により1団体が不定期活動になり脱退した。今年度は、コロナにより従来の活動が半減し、共催講座の開催に至らなかった。

<課題>

- ・ 公民館支援団体の自主的活動の推進を図る。
- ・ 市民企画講座の開催による団体学習の促進に努める。

事業区分	講座・事業名	受講者数	期 間	回数	延べ参加者数	
青少年対象事業	レッツ TRY 事業（登録数）		通年	—	—	
	少年少女合唱団・定期演奏会		9/13	1回	91人	
	子ども講座	親子でつくろう エコクラフト動物		12/26	1回	15人
		和楽器の音色を感じよう		3/25	1回	6人
		さをり織でコースターを作ろう		3/26	1回	9人
		ダンボールでオリジナルの自動車を作ろう		3/28	1回	18人
楽しくおどろう HIPHOP			3/29	1回	1組	
支援事業 子育て	赤ちゃんルーム ※5月～6月は中止	21組	6/22～3/22	16回	144人	
	保育つき講座「おや子教室」 ※5月～7月は中止	6組	11/10～12/15	6回	20組	
成人対象事業	New つるかめ大学（前期） ※4月～5月は中止	81人	6/15～7/13	5回	280人	
	New つるかめ大学（後期）	81人	9/7～12/7	12回	627人	
	夢にチャレンジ ※4月～6月は中止	13人	7/18～3/13	8回	46人	
	ホッとワーク ※5月は中止	12人	6/23～3/23	10回	128人	
	ふれあい料理 ※4月～6月は中止	22人	7/31～2/26	8回	176人	
	介護について語り合う場 ※4月は中止	24人	6/22～2/22	5回	48人	
	アタマもからだもシャキッと元気体操 （高齢介護課共催講座）	21人	7/30、8/6	2回	37人	
	ノルディック・ウォークを体験しよう （高齢介護課共催講座）	22人	10/15～1/18	8回	113人	
	アロマ講座	18人	11/13、20	2回	33人	
	気軽に書道	8人	11/10～12/1	4回	29人	
	Stay Home 家にいながらつながろう	14人	4/27、28	1回	14人	
	市民企画講座 りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ～子どもの生きる力を育むために～	33人	3/15、30	2回	62人	
事業 課題 人権	日本語会話よみかき教室 ※4月～6月は中止	23人	6/8～3/30	64回	217人	
文化振興事業	クラシックコンサート	25人	11/8	1回	25人	
	ジャズライブ	181人	1/17	1回	181人	
	春一番コンサート	30人	3/21	1回	30人	
	七夕ピアノリレー	14人	7/5	1回	14人	
	X'm a s ピアノリレー	36人	12/20	1回	36人	
人材養成事業	遊び隊 ※4月～9月は中止	24人	10/3～3/30	6回	330人	
	保育ボランティア ※4月～9月は中止	9人	10/27～3/30	8回	50人	
	日本語会話よみかきボランティア	17人	6/8～3/30	64回	321人	

	ふれあい料理ボランティア	17人	7/31～3/26	9回	153人
地域連携	第64回中央公民館まつり ※注1				
	ロビーの活用		通年	—	—
	地域出前講座 ※注1				
	移動公民館「健康サロン」	83人	8/21～3/19	14回	83人
団体支援事業	ファミリー劇場・例会 ※4月～8月は中止		9/6～3/27	4回	743人
	ファミリー劇場・子ども市		8/30	1回	300人
	共催鑑賞事業「おじさんとおおきな木」		2/28	1回	100人
	貝塚市軽音楽連盟・ライトミュージックコンサート		2/14	1回	100人
	貝塚市民踊連盟・民踊まつり ※注1				
	貝塚市クラシック音楽家協会・クラシックコンサート ※注1				
	貝塚市美術協会・貝塚市美術協会展		9/19～9/20	1回	197人
	貝塚市美術協会・小作品展 ※注1				
	貝塚市日本民謡連合会・民謡フェスティバル ※注1				
	貝塚市合唱連盟・合唱フェスティバル ※注1				
	クラブ協議会・レクリエーション ※注1				
	にっこり展（障がい者施設合同作品展示）		12/12～1/14	—	—
	クラブ協議会・研修会		3/7	1回	60人
	プレーパーク ※春の巻・GWの巻は中止		夏の巻・秋の巻	2回	727人
	貝塚子育てネットワークの会乳幼児部会共催講座				
	園児部会共催講座 「Happy Life～子どもと一緒に～」 ※4月～6月は中止		7/9～12/3	4回	63人
	小学生部会共催講座「子育てのブレない芯をもつ」 ※4月～6月は中止		7/12～12/17	4回	72人
	中高生部会共催講座「思春期をのりきる！！」 ※4月～6月は中止		7/7～11/24	3回	44人
	貝塚子育てネットワークの会・夏の研修会 ※注1				
	貝塚子育てネットワークの会・冬の研修会		2/12	1回	33人
三館連携事業	しゃべり場★公民館		4/13～3/23	17回	216人
	保育ボランティア交流会		2/16	1回	7人
	第9回貝塚公民館大会		2/7	1回	93人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または1回限りの事業

（参加者数は「述べ参加人数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」

※注1は「新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止」

レッツ TRY 事業

<ねらい>

青少年(主に)中高生の活動を行う上で必要な場の提供や活動全般を支援することで、自主性を高める。

公民館に若者を呼び込む。

<状況・成果>

今年度の登録団体数は2団体で、ダンスグループのみの登録となり、軽音楽バンドの登録はコロナの渦中でもあり全くなかった。

現在の利用状況は3公民館を見ても中央公民館まつりやフレッシュサウンドコンテストなどの大きなイベント時以外の参加が非常に少ない。今年度に関してはその事業も中止となり若者との接点が絶たれた感じである。

本来的には青少年の活動全般を支援することが本事業の主旨であるが、数年前よりレッツ TRY 事業の現状をめぐり職員間で話し合いをもとうとしているが、なかなかその時間がもてないでいる。

今後三館で青少年を対象とする事業をどのように進めて行くのかを深く議論し、新しい方針を決め関わっていききたい。①学校へ TRY の PR チラシの配布を依頼する②青少年対象で単発での楽しい講座を行う③貝塚にある二つの高校に定期的に出向き、学校との関係を築き、連携しやすいパイプを作る、等が考えられる。それによって青少年と公民館のつながりを作り、学校ではなかなか体験できない、世代間交流や様々な価値観を知ることによって視野を広げ、物事を考える力を養いたい。

<課題>

学校(中・高)との連携。

継続的に繋がりをもてる人材の発掘や事業の創出。

貝塚少年少女合唱団

<ねらい>

小中学生を対象に、合唱練習や発表を通じて青少年の健全育成をはかり、本市及び地域における音楽文化の発展につなげる。育成会（保護者会）の自主活動の支援も行う。

<状況・成果>

6/21～3/28 40回（練習及び行事）指導者4人、団員19人（男子3人・女子16人）うち新規入団が2人
今年、4月初めに行う入団式がコロナの拡大、さらに4月7日からの緊急事態宣言発出によって開催することができず、練習も開始できない状況が続いた。

緊急事態宣言の解除がいつになるのかわからず、学校の再開時期も不透明な中、合唱団では保護者の協力を得て、リモートによる練習を行い、来る再開の日のために準備を行っていた。

大阪モデルによる自粛要請の緩和が行われた5月末から、数度にわたり保護者及び指導者が集まり、定期演奏会の開催を含め、今後の合唱団活動についての検討が行われた。その結果、歌を歌うことに真摯に向き合い、再開を心待ちにしている子どもたちの想いを叶えるべく、学校が再開する6月15日以降で練習を開始した。また、新しい生活様式にもとづいた間隔を確保するため視聴覚室で活動できるよう、日曜日午前中に日程を変更した。

こうして6月21日によりやく入団式を行い、少年少女合唱団の活動が本格的に再開した。

9月13日には、観客を保護者及び関係者に限って、定期演奏会を開催した。毎年演奏していたオペレッタはできなかったものの、子どもたちの元気いっぱいの美しい歌声が会場を包んだ。演奏会では、リモート映像と実際の子どもの歌声との合唱など、今年ならではの取り組みも行われた。

毎年行っているクリスマス会には、チラシなどで募集した一般参加者数人と一緒にクリスマスソングを歌ったりするなど、合唱団のPRも行った。

しかし、毎年参加していた多くの演奏会がコロナ拡大により中止となり、合唱演奏の機会は減少し、我慢の一年となった。

日程	一年の活動内容
5/23・24	公民館まつり ※コロナの為中止
6/21	第42期生入団式
8/	たそがれコンサート（善兵衛ランド） ※コロナの為中止
8/13・14	第42回定期演奏会に向けた強化練習（中央公民館）
9/13	第42回定期演奏会（コスモシアター中ホール）
11/	泉南地区少年少女合唱団交歓会 ※コロナの為中止
12/20	合唱フェスティバル（コスモシアター大ホール） ※コロナの為中止
12/6	クリスマス会（中央公民館）
2/7	ミュージックブラザ ※コロナの為中止
3/20～21	全日本少年少女合唱祭・全国大会（兵庫県・赤穂市） ※中止



<課題>

公民館主催の青少年対象事業として、団員の増加に努め活性化を図る。

2020 子ども講座

<ねらい>

冬休み・春休みを活用して子どもたちが公民館で体験や学習できる場を提供。
公民館で活動しているクラブやグループとの交流の場とする。

<状況・成果>

12/26、3/25～3/29 5講座 協力：5団体

コロナ対策のため、今年度「夏の子ども講座」が開催できなかった。冬休み・春休みを活用して何か子どもたちが楽しめることはできないかと急きょクラブ協議会や団体に呼びかけた。

夏の子ども講座のように「夏タイムズ」に掲載して学校園への配布もできず、周知手段が市の広報しかなく、参加者集めに苦慮した。

① 親子でつくろう エコクラフト動物 12/26 土曜日 10時～12時

受講者 15人 協力：ろうの花

かごあみの要領で動物の入れ物を大人も子どもも作った。動物の入れ物は一見簡単そうに見えるが、根気と集中力を要するため、みな黙々と手を動かしていた。クラブ員は各テーブルに分かれ、わかりにくい箇所や難しいところを丁寧に接し手伝っていた。時間が経つうちに慣れてきて手早く作業を行えるようになっていた。30分の時間オーバーはしたものの全員仕上げる事ができた。

<クラブの感想>

- ・思っていたよりみなさん上手にできたのでよかった。
- ・楽しいわ！という声がかけてよかった。
- ・自分ができても教えることは難しいなと感じた。

<子どもの感想>

- ・自分でつくるのが楽しかった。
- ・あむのがむずかしかった。



② 和楽器の音色を感じよう 3/25 木曜日 10時～11時

受講者 6人 協力：箏曲クラブ

小学校中学年の子どもたちが多数を占めた。初めてお琴に触れる子どもたちがほとんどだった。

先生を始め部員による丁寧な指導で“さくら”を演奏できるようになった。中学生のクラブ員が講座の指導者として活躍をしていたのが印象的だった。

<クラブの感想>

- ・初めてお琴に触れる子どもたちでも、さくらを演奏できるまでになり楽しくおけいこできたと喜んでいきます。

<子どもの感想>

- ・初めて琴が弾けて楽しかった。きれいな音色が聞けた。



③ さをり織でコースターを作ろう 3/26 金曜日 10時～12時

受講者 9人 協力：リサイクル工房リボン

「さをり織」の名前の由来、クラブ員の手作りキットの説明が終わると、子どもたちは前に並べ

—青少年対象事業—

られた様々な糸から、自分の好きなものを選びコースター作りを始めた。

クラブ員が優しく、丁寧に説明してくれたおかげで9人全員が完成させることができた。「集中して、丁寧に作っているね。」

「色のバランスもいいね。」と声をかけてもらいながら、

2時間があつという間に過ぎたように感じた。

<クラブの感想>

- ・子どもたちが集中して仕上げていた。・丁寧に作業していた。

<子どもの感想>

- ・やさしく教えてくれて楽しかった。
- ・結ぶのが難しかったが楽しかった。



④ ダンボールでオリジナルの自動車を作ろう 3/28 日曜日 10時～12時

受講者 18人 協力：遊び隊

受講対象が幼稚園から可能ということもあり親子での参加が多く見られた。「ダンボール自動車」作りはカッターやハサミで切ったり、ボンドで貼り付けたりと細かい作業が多く時間内に終わるか心配したが、遊び隊員が各受講者に1～2人つくようにし、丁寧な指導のもと全員ケガもなく完成させることができた。遊び隊員は子ども達が自分で作ったオリジナルの自動車をうれしそうに元気いっぱい走らせる姿を見て喜んでた。

<クラブの感想>

- ・対象を幼稚園から小学生まで広げどこまでできるか心配したが、親子で楽しそうに作っている姿を見たらほっとした。

<参加者の感想>

- ・家族のように接してくれたのがうれしかったです。
- ・親切に教えて頂いたので時間内に2つできました。



⑤ 楽しくおどろう HIPHOP 3/29 月曜日 13時30分～14時30分

受講者 1組 協力：大人のHIPHOP チェケラッシュ

親子2組5人の申込みがあったが、1組体調が悪く欠席となり、1組の参加となった。

準備体操の場面では、てれながらではあるが参加していたが、大人の中に入ってのダンスは、てれくささもあつてか、ダンスには参加してもらえなかった。クラブのメンバーは、子どもが興味を持てるような曲を選曲してくれたり、工夫を凝らしてくれた。

<クラブの感想>

- ・お母さんは子どもに気をつかいながらもダンスをマスターされていたので、講座をもてたことは良かったと思います。

<参加者の感想>

- ・久しぶりにいい汗をかきました。年相応に体が動かないことがわかりました。息子は子ども一人だけで恥ずかしかったみたいです。

<課題>

コロナ禍での取り組みを検討。

協力してくれるクラブ・グループの拡大。



赤ちゃんルーム

<ねらい>

0歳児をもつ親や妊婦が、仲間づくりや情報収集などに気軽に参加できる場。

孤独や子育ての不安を和らげるための交流の機会を設け、安心して子育てできるようにする。

<状況・成果>

6/22～3/22 第2・第4月曜日 10時～11時半（全16回）受講者 延べ144人 スタッフ6人
※5/11～6/8はコロナの為中止

21組の登録。コロナ対策のため6月からの開講とした。今年度はコロナにより、事前申し込みの人を優先で毎回、定員を最大8組程度までとし、人数制限を行った。

参加のきっかけは本市ホームページや子育てナビゲーションで知ったり、中央公民館の子育てサークルの現メンバーであったり、以前に上の子を出産した時に「赤ちゃんルーム」を利用して、知り合いから紹介されたと様々である。

子育てネットワークの会の先輩ママはスタッフとして「赤ちゃんルーム」を楽しく安心して受講してもらえるよう企画・運営に積極的に関わっている。コロナ自粛で出かける場所もなくストレスを抱え1人で子育てしている親の気持ちを少しでも軽くしてあげたいという思いから、受講者同士が子育てを通じてつながっていくように講座の始めと終わりに受講者が発言する時間を増やした。

今年度はコロナで人数制限していることもあり、毎回受講者が変わることからお互いの自己紹介から始め、受講者同士がコミュニケーションを取りやすいように工夫している。また、スタッフは自分たちの子育て経験談やコロナ自粛中の家での過ごし方、近況報告などをし、受講者が話しやすい雰囲気をつくっている。プログラムでは季節感のある「水あそび」「ハロウィン」「クリスマス」に人気があった。家ではなかなか取り組むことのできない行事や物づくりを通して受講者間の会話が増えていった。6月の開講直後は受講者も2～3組と少ない回もあったが、次第に参加も増え受講者からはスタッフのあたたかい心遣いに救われたと喜びの声もあった。

今年度はもっといろいろな人に「赤ちゃんルーム」を知ってもらいたいと、宣伝ポスターを作り、図書館、保健センター、子育て支援センターに加え市内の医療機関にも依頼し掲示した。また、本市フェイスブックにもチラシを掲載するなど幅広く宣伝を行った。

<課題>

コロナ禍での講座開催方法や対策。

引き続き講座の周知徹底に努める。

《プログラム》



開催日	内 容	開催日	内 容
6/22	「赤ちゃんルーム」オープン、コロナ感染症対策の説明	11/9	おさんぼ～親子で秋を感じよう～
7/13	水あそび～お水をさわってみよう～	12/14	クリスマス～サンタがやってくるかも～
7/27	水あそび～お水をさわってみよう～	12/28	お正月あそび～手作りおもちゃあそび～
8/24	水あそび～お水をさわってみよう～	1/25	節分～オニさんにボールをボン～
9/14	水あそび～お水をさわってみよう～	2/8	バレンタイン～パパにプレゼント～
9/28	手作りおもちゃ～子どものために作ろう～	2/22	ひなまつり～公民館でおひなさまを見つけよう～
10/12	おさんぼ～図書館へ行こう～	3/8	ヨガ～ママのリラックスタイム～
10/26	ハロウィン～みんなでのしもう～	3/22	お楽しみ会

保育つき講座 おや子教室

<ねらい>

子育ての不安解消をはかり、子育ての悩みを共有できる場とする。

子育て中の日頃のストレスやイライラをリフレッシュし、また子育てに前向きに取り組める機会とする。

<状況・成果>

11/10～12/15 火曜日 10時～12時（全6回） 受講者6組

※5/12～7/14はコロナの為中止

今年度春期に講座を企画し募集したが、コロナ対策のため中止とした。

秋期はここ数年受講者の減少に苦慮していることもあり、3公民館の子育て講座の時期をわけて開催することを試みた。浜手が9月～10月、中央が11月～12月、山手が1月～2月で開催した。

まだまだコロナ感染症の終息は見えず、不安を抱えながらの開講となったが、保育ボランティアとも話し合いをして回数を減らし、時間短縮や、子どものおやつを無くしたりと工夫を凝らして取り組んだ。

プログラムはコロナ禍の中、日頃のストレスやイライラを解消できる

	日程	内容	講師
1	11/10	はじめまして！自己紹介	相互
2	11/17	アロマでバスボムづくり	仲山 幹子 (まちのすぐれもの登録者)
3	11/24	話してみよう…	保育ボランティア
4	12/1	どうしよう・子育て こんなときどうしたらいいの！	すくすく子育て応援隊
5	12/8	ヨガ体験でリラックス	平山 公子(ヨガ講師)
6	12/15	講座のまとめ	相互

ようなヨガやアロマなどを取り入れる一方で、子育ての悩みを共有できる内容にも取り組んだ。

コロナ禍の中ではあったが、受講者は不安を感じさせないくらい熱心であった。講座内容が興味深かったのか欠席も少なく、2組は全回出席であり、次の開催も楽しみにしているとのことであった。

～受講者の感想～

- 自分のための時間、趣味の時間を持つことができる喜び。子どもがいない間は“あたりまえ”だったことが、今ではとても貴重なひと時になっています。もちろん、子どもと過ごす時はそれよりも貴重ですが、心がふっと落ちつく“香り”にふれる機会を持たせていただき大変嬉しく思いました。
- 「自分のための時間」をいかにつくり、充実させるかということを考えさせてもらいました。そのためには、“目標”を親も子も設定し生きていくことでどちらもhappyになれるのでは？とも感じました。実際に経験してみte感じる、わかったこと、苦勞そして喜びを日々味あわせてもらっています。イライラしたり、悩んだり、つらいときもありますが、一歩立ち止まってみるとそれはとても貴重な経験だと思います。
- 自分自身の現状を見つめ直して自分のことを伝えることをさせていただきましたが、少し緊張もありましたが、楽しくお話できて、みなさんのお話を聞いて良かったです。
- ずっとやってみたかったヨガ体験、あつという間に時間が過ぎてしまい、もっとやりたかったです。先生のお話がおもしろくて引き込まれました。普段やらない動きに苦戦しながらもやっぱり体を動かすことは気持ちが良いととても楽しかったです。自分自身を気づかたり意識を向けることがなかなかできていなかったのて、教えていただいたことを少しでも自宅でやっていけたらと思いました。

<課題>

今後も3公民館での子育て講座の開催や内容について検討していく。

コロナ禍での開催について工夫していく。

NEW つるかめ大学

<ねらい>

コロナの時期だからこそ、つながりを大切にし深める。

だれひとり取り残さない社会を目指す。

前期 ※4/7～5/21はコロナの為中止

<状況・成果> 6/15～7/13 月曜日 10時～12時 (全5回) 受講者81人

約2か月遅れで開講した第56期つるかめ大学は、新規受講者9人を迎え81人でスタートした。新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の流行で、4月にスタートを切れず、5月スタートを設定したが、それも緊急事態宣言の発出（4/7～5/21）で流れてしまった。延期を繰り返し6月開講となったが、果たして受講者が集まるのか、その時点では開講時の予測はできなかった。しかし、いざ開講してみると例年通り全体の8割の出席があった。約2か月のステイホーム（外出自粛要請）期間があったにもかかわらず一様に元気で、笑顔で再会を喜び合っており、「待っていた」「よく開講してくれた」「（つるかめ大学が）消滅しないか心配だった」と、この日を待ちわびていたという声が寄せられた。

ステイホーム期間中には電話で個々の生活状態の聞き取りを行ったが、朝晩の散歩、体操、畑仕事などを欠かさずふだん通りの生活をおくっていたという人が圧倒的で、いつもと変わらない生活を保つことが元気の秘訣になっていたようだ。

一方、前期プログラムは大幅に見直しを余儀なくされた。昨年に引き続きSDGsを当初の学習目標においていたが、前期ではいったん取り下げることにした。

講座は「新しい生活様式」に則った形式を用い、全体を2班に分けることで3密を避け換気や飛沫感染予防などを行いながら進めた。滞在時間の短縮も行い1回の講座を60分とし、講師には2回講義してもらうように依頼する回もあった。この様な中で、新会員がつるかめ大学の学習内容や雰囲気を知りたいのに十分な時間が確保できなかった。まだコロナの不安がある中、後期はどこまで踏み込んだ学習ができるのかわからないが、前期に繰り越した内容を学習課題として取り組んでいく。

飛沫感染予防のため、最前列の席に紙製のパーティションを置く



<前期プログラム>

6/15	開講式	相互
6/22	健康体操	高橋智子
6/29	貝塚の水	上下水道部浄水課
7/6	班交流会	相互
7/13	落語	月亭希遊



後期

<状況・成果> 9/7～12/7 月曜日 10時～12時 (全12回) 受講者81人

後期は予定通り9月から開講した。目標を「だれひとり取り残さない社会をめざそう」と前期同様にし、SDGsの理念や取組みを知ることには焦点を当てた。コロナへの心配もあったので、戸外にでかけることや食事会などのレクリエーションを見合わせ、そのかわりに落語に親しむことや身体を動かすことを取り入れた。

講座形態は引き続き2部制を敷いて密な状態を避け、極力私語も慎んでもらった。

参加状況は常に全体の7～8割を占めていた。地域の会合や催しが軒並み中止になっていることもあったが、つるかめ大学に対する期待の大きさを感じた。

しかし、長引くコロナへの不安と行動制限は、高齢者の心身に少なからず影響を及ぼし、この間認知の進んだ方、家族の介護がより必要になった方など、生活面での変化を見聞きすることが多くなった。認知の進んだ方は講座日以外にも頻繁に公民館を訪れては仲間を探したり、講座の日程の確認をしていた。連日の行動を看過できず事態を重く受け、高齢介護課を通じて地域包括支援センターにつなげた。現在は、民生委員などの協力を得て地域での見守りを行っている。つるかめ大学内でも、仲の良い受講者が言動に違和感を覚え、電話をして講座の日を伝えるなど静かな関わりを始めている。

プログラムでは、映画「こんばんは」の鑑賞について「感動した」との声が圧倒的に多く好評であった。夜間中学校を舞台にしたドキュメント映画で、定年後の高齢者がよみかきを一から学ぶ姿と自身の年齢を重ね合わせ共感する部分が多かったようだ。「学びはいつからでもでき、一生続けるものだ」との確信を映画から得て「つるかめ大学を今年度で辞めようと思ったが、映画を観てやはり続けようと思直した。」との感想があがった。

班で交流することも少なかったが、11月30日のミーティングでは、「次年度は全員一斉に講座を行いたい」、「ハイキングや食事会などのレクリエーションを行いたい」など、今まで当然のように行っていた講座に思いを馳せ、希望を出し合った。

疫病の流行で学習の機会が奪われるなど誰が想像しただろうか。密（密接・密集）な状態が高齢者の学習に欠かせないことを改めて知る年度でもあった。

<後期プログラム>



月山先生の講義もこれだけの距離をとりパーティションを設置しています。

9/7	開講式	沖縄三線遊び場	10/26	演奏と紙芝居	まなびーネット
9/14	水間寺の龍掌	月山渉	11/2	体操	高橋智子
9/28	SDGs 地球温暖化	岡見厚志	11/9	映画「こんばんは」	相互
10/5	いすヨガ	津田美穂	11/16	〃	相互
10/12	落語	桂恩狸	11/30	班ミーティング	相互
10/19	フレイル認知症予防	今岡真和	12/7	閉講式	月亭希遊

<課題>

生活の困りごとや悩みを話し合え、支えあえる関係づくりをさらに強める。
共同作業や戸外での活動をふやしフレイル予防に力を入れる。

夢にチャレンジ

<ねらい>

障がいのある青年（年齢を問わない）たちのチャレンジの場、社会参加の場とする。

公民館のクラブ利用者やボランティアとの交流を深めるとともに、関わった人たちの障がい者理解につなげる。

<状況・成果>

7/18～3/13 毎月第3土曜日 10時～12時（全8回）受講者13人 ※4/18～6/20はコロナの為中止
4月から開講の予定でプログラム企画をしてきたが、コロナ感染症の終息が見えない状況が続いている。毎年受講している障がい者施設がコロナ感染の不安から外部との接触を自粛しており、今年度は受講を断念している。

そんな中でも新しい受講者もいて受講登録者の半数での開催となった。

受講者が少ないので毎回の講座もゆったりとしていて、みんなの様子もよく伺えた。

昨年までいつもヘルパーと一緒に参加していた受講者が今年度からひとりで受講するようになった。会話はできないが、担当職員からの話しかけにはうなづいたり、指さしたりしてこたえてくれる。少し職員に対して信頼感が生まれたのかと感じる。また、知的障害のある受講者も昨年までは、講座内容にあまり興味を持ってくれなかったが今年度は積極的に料理などに関わるようになった。

コロナ禍で講師を準備できなかった11月は、黒ひげゲームやトランプなどをして楽しんだ。受講者がルールをどれくらい理解してくれるかなど手探りで進めたが、意外とみんなで楽しめた。

また、新しいプログラムとして「ノルディックウォーク」にも挑戦し、昨年度の3月から延期になって楽しみにしていた「ギョウザづくり」を12月に開催することができた。



今年度は、公民館まつりに模擬店を出すことができず、料理ボランティアとの交流を深めることやその収益を還元するため開催していたクリスマス会はできなかったが、「ギョウザづくり」で楽しむことができ、受講者たちは満足していた。後半は、リクエストの多い陶芸やパンづくりに取り組んで今年度の夢にチャレンジをしめくくった。



<課題>

受講者が積極的に取り組めるような働きかけ。

受講者が興味を持てるようなプログラムの開拓。

<プログラム>

月	内容	講師
7月	うちわに描いてみよう	絵手紙クラブ
9月	ラスクづくり	貝塚の知恵袋
10月	ノルディックウォークに挑戦	浜手ノルディックウォーククラブ
11月	トランプしよう	相互
12月	ギョウザづくり	おやじのシンブルキッチン
1月	陶芸に挑戦①	土曜陶芸クラブ
2月	陶芸に挑戦②	土曜陶芸クラブ
3月	パンづくり	パンづくりクラブ

ホッとワーク

<ねらい>

視覚に障がいのある人たちに多彩な体験や学習の場を提供する。

障がいのある人たちの可能性を広げ、主体性を高めて精力的な日々を過ごす力をつける。

公民館で活動するクラブやボランティアの協力を得て実施することで、障がいのある人たちへの理解や交流を深める機会とする。

<状況・成果>

5/28～3/25 全10回 第4火曜日 10時～12時 ※5/28はコロナの為中止 受講者12人

例年、5月に開講する「ホッとワーク」はスケジュールの変更を余儀なくされた。高齢者が大半のためコロナ禍での開講は不安ではあったが、受講者と連絡を取り合うと開講を待っているとの声が多く聞けた。



まず6月は、この間の生活状況を報告しあった。その後、昨年の講座の振り返りと今年度の予定についても説明を行なった。

講座が夏休みに入る前の「料理を楽しむ」という1コマでは飲食が伴うため、パーテーションを設置するなどコロナ対策について最大限の注意を払った。試食においてはパーテーション越しであるが楽しい会話に笑顔が広がった。

9月は2年ぶりの防災講座とした。コロナ禍での避難について「避難所に行かない避難」という新しい避難のあり方を学んだ。

昨年に引き続きリクエストのあった「レザークラフトに挑戦」では公民館クラブメンバーの丁寧な指導もあり、作品の見事な出来栄に受講者、クラブメンバーも喜び、昨年に続き貝塚市障害者作品展に出品した。

年末には日本民謡を聴き、一緒に謡い各自の故郷に思いを寄せ、新年のスタートには泉州地域でも活躍の若い講談師による講談を楽しんだ。

今後、受講者の高齢化が進む中、毎月の講座内容説明、出席確認の電話連絡は受講者の健康状態を知る貴重な情報となっていこう。

受講者の大半は体調面の不安が積みまとう状態である。しかし、毎月の講座終了時には受講者同士が講座参加の声掛けをするなど講座に取り組む姿勢は前向きである。

《プログラム》

6/23	これまでの過ごし方・今年のスケジュール	相互に話し合い
7/28	料理を楽しむ	ふれあい料理ボランティア
9/29	「貝塚の防災について」の話	危機管理職員
10/27	楽しく元気に体操	高橋智子（健康運動指導士）
11/24	レザークラフトにチャレンジ	レザークラフト
12/22	日本民謡を聴く	五十嵐克州（貝塚市日本民謡連合会）
1/26	講談を楽しむ	旭堂南舟（講談師）
2/16	料理にチャレンジ	ふれあい料理ボランティア
3/23	一年のふり振り返り	相互に話し合い



<課題>

新規受講者、現受講者の積極的な講座参加につなげる内容・広報の充実。

ふれあい料理

<ねらい>

料理を通して障がい者のできることを伸ばす。障がい者の社会参加の場とする。

ボランティアと料理をともにすることで交流を深める。

<状況・成果>

7/31～2/26 毎月第4金曜日 10時半～12時半 受講者 22人 ※4/24～6/26はコロナの為中止
市内5施設(いぶき、どんまい、夢二色、あすなろ、らばん) 一般2人
ふれあい料理ボランティア 17人

コロナの流行により、講座は2020年2月から中止になったままだった。公民館が開館しても飲食を伴う講座ゆえに慎重な判断と徹底した対策が求められた。まずは料理室の人数制限(36人から24人)により受講者を2班に分け、2か月同じメニューで行うことにした。料理中のマスクや手洗いは当然のこと、講座前後の消毒の励行、食事中にはソーシャルディスタンス(身体的距離)を保ち、かつパーテーションで区切りをすることで、受講者とボランティアが安心して活動できるようにした。ボランティアとの事前打ち合わせでもこのことを確認し、コロナ禍下でもこの場を大切にしようと静かな意気込みをもち7月より始まった。



受講人数を減らしたことによる混乱もなく、むしろゆとりが生まれ、ゆったりと料理をすることができた。2か月同じメニューをするのでボランティアは手順を覚え2回目は段取りも早くなっていた。

恒例となっているクリスマス会は中止とし、従来の講座形式で行うことにした。クリスマスの雰囲気だけでもというボランティアの提案で、メニューに工夫を加えた。折り紙でクリスマスリースを作ってくるなど少しでも楽しんでもらいたいという気持ちが表れていた。

<課題>

施設職員やふれあい料理ボランティアと感想や意見を交換し、安全で充実した講座にする。



プログラム

7-8月	カレーライス、マカロニサラダ、コーヒーゼリー
9-10月	サラダちらし、キャベツときゅうりのピリ辛漬、にゅう麺、あんみつ
11-12月	パプリカのポタージュ、自分好みのピザ、サラダ、から揚げ・ケーキ
1-2月	ハッシュドビーフ、マッシュポテト、野菜サラダ、フルーツポンチ

介護について語り合う場

<ねらい>

介護に携わる人たちが互いに交流し、学習することにより、孤立や介護の不安を無くし、精神的な負担を軽減させる。

<状況・成果>

6/22～2/22 偶数月の第4月曜日 13時半～15時(全5回) 受講者 延べ48人

※4/27はコロナの為中止 協力：貝塚市介護者家族の会「コスモスの会」

今年度は緊急事態宣言発出のため4月の開催は中止となり、6月からの開催となった。

本来この講座は、話し合いの中から現在の介護における課題を共有し、互いに共感し合い、また対策について検討・協議する意図がある。しかし、参加者の高齢化が進み、講座では介護者やその家族の問題ではなく、自身が介護されるときが来たらどうするかというような話に終始する状況であった。また、協力してくれている介護者家族の会も会員の高齢化に加え、これまで代表を補佐していた中心人物が逝去したこともあり、活動が縮小していた。

介護者家族はこれまでのように専業主婦が自身や夫の両親を介護するだけでなく、ダブルケア(介護と育児・仕事との両方を負担しているケース)、ヤングケア(学生が親や祖父母の介護を行っているケース)といった多様な形態が増えつつある。介護の問題が山積するなか、介護者家族の居場所づくりは今後ますます重要となるはずで、介護者家族の会及び講座の活性化が喫緊の課題となっていた。

折しも参加者の中からダブルケアのケースについて相談があり、若い人にも介護者家族の会や講座のことを知ってもらうため、新たにダブルケアラー、ヤングケアラー向けの講座を開催してはどうかと提案し、12月の講座では、ダブルケアも含めて介護者家族をめぐる課題について話し合った。その際、これまでの講座であまり発言のなかった参加者の一人が、「今、介護は大変なことになっている。どうにかしないといけないんです」と訴えた。ほかの参加者も同調し、皆が介護の現状に危機感を感じていることを改めて認識することとなった。今後は通常の講座に加え、若い人向けの講座開催を企画する予定である。

<課題>

受講者をさらに増やし、多様な介護についての課題に向き合う講座内容を検討する。そのために社会福祉協議会や地域包括支援センター等との連携を図る。

	内 容	受講者数
6/22	(相互)資料；①面会再開 踏み出す介護施設、②(厚労省通知)介護施設における利用者の状況に応じた対応について	14人
8/24	(相互)資料；厚生労働省 YouTube 動画 「訪問サービスを受ける方のためのそうだったのか！感染対策」 ・あなたが利用者宅にウイルスをもちこまない、・あなたと利用者がウイルスをやりとりしない	7人
10/26	(相互)資料；①介護とわたしたち 母と高齢者住宅へ 70代を前に決断、②サービス付き高齢者向け住宅の登録制度の概要	10人
12/21	(相互)資料；「介護離職ゼロ」掲げる菅内閣へ 現場から届いた声	7人
2/22	「地域包括支援センターって?? ～どんな相談ができるの??～」 講師：中央地域包括支援センター 木下陽子氏	10人

アタマもからだもシャキッと元気体操（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

高齢介護課との共催で市民の健康意識を高める。

コロナ対策による外出規制時でも自宅でできる体操や筋力トレーニングを学び、健康維持に役立てる。

<状況・成果>

7/30・8/6 木曜日 14時～16時 全2回 受講者21人 講師：高橋 智子（健康運動指導士）
定員20人に21人の申し込みがあり、講師と相談し全員を受け入れた。

講座は、半数以上の方が昨年度と同講座を受講していたからか、講師とも顔なじみの様子で開始前から軽く雑談をするなど和やかな雰囲気が進んでいった。

コロナの影響で講座中はマスクをしたままだったが、講師の頻繁な「水分補給をしましょう」の声かけで、熱中症などの体調不良になる人はいなかった。

講座では、今後ステイホームで外出できない環境の中でも工夫次第で体力・筋力を維持できるような体操やトレーニングを選んで体験してもらった。

例えば、身近にあるペットボトルに水を入れたものをダンベルのかわりとして活用したり、タオルを使って簡単にできる筋力トレーニングを学んだ。

受講者からは「コロナは嫌だけど、もしまた自粛になったら家の中でこの体操をするわ」や「雨の日や、暑い日は、積極的に家の中でこのトレーニングをします」との声があった。

高橋先生の講座は人気があり、継続開催を望む声が多いので、クラブ化するためのアンケートをとってはみたが、活動する曜日と部屋の問題やグループ化するには人数が思うように集まらなかったことなどがあり、それ以上の働きかけができなかった。

-アンケート-

- ・コロナの中、開催して頂きありがとうございました。
- ・とても良い体操で良かった。フレイルにならないように、毎日少しずつがんばります。
- ・毎日運動不足なので、体を動かして、みんなで楽しく体操することは良かった。

<課題>

講座からクラブを目指し、受講者が引き続き運動し、交流できる場を作る。

高齢者のニーズに添った講座を開催する。



ノルディック・ウォークを体験しよう（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

公民館や市内の公園を利用し、健康維持や介護予防としてノルディック・ウォークを体験する。高齢介護課との共催講座で貸出用ポールを準備し、より気軽に体験する機会とする。

<状況・成果>

10/15・22・29・11/5・12・19 木曜日 13時半～15時半（全6回）受講者19人

追加講座 12/21・1/18 月曜日 14時～16時（全2回）受講者22人

講師：古澤裕文・宮内千代子（全日本ノルディック・ウォーク連盟公認指導者）

昨年の「ノルディック・ウォーキングを楽しもう」講座が好評であったことや、講座後の受け皿として、中央公民館では自主グループ、浜手地区公民館にクラブができたことから企画した。

高齢介護課が講師謝礼とポールの貸し出し、公民館が講座の企画・運営を担った。講座の中で高齢介護課が挨拶と講座の説明をし、また貝塚イメージキャラクターのつげさんも講座に参加、その時の様子が「広報かいづか」に掲載された。

講座は昨年同様に、6回のうち3回は公用車を利用して「二色の浜公園」の近くまで送迎し、秋の景色を楽しみながらのびのびと歩き、残りの3回は市役所周辺の街中での歩き方について学び体験した。

初心者優先としたところ、19人の申し込みがあり、全員が初心者だった。受講者の中には「ポールを持って歩いている人をよく見かけ、興味がありました」という人や「自己流で歩いていただけ、きちんと教えてもらいたくて申し込みました」「医者から『健康の為に歩きなさい』と言われてるので、いいタイミングでした」などいろいろな理由を持って受講しているという話をウォーキング中や休憩時間に聞くことができた。

アンケートではほぼ全員が「参加して良かった、指導がわかりやすかった、講座中に歩行測定を2度行い、歩き方の上達具合を確認でき良かった」と書いてあり、「今後クラブ化を進めるための講座を開催する場合に協力したい」との欄には13人の名前があった。

講座の最終回には自主グループやクラブの活動日などを伝え、運動の継続を促すとともに12月と1月に追加講座（2回）をして中央の自主グループと交流する機会を持ち、次の活動へのつなぎとした。

<課題>

講座後の受け皿と団体へのすすめ。高齢介護課と連携の継続。



アロマ講座

<ねらい>

公民館を利用したことのない若い世代、働く世代へのアプローチ。

気軽に公民館を利用する機会をつくる。

<状況・成果>

11/13、20 金曜日（全2回） 19時～20時半 受講者 18人

講師 上野 千賀子（まちのすぐれもの登録者）

あまり公民館を利用していない若い世代や働く世代の人たちに講座の受講を通して公民館を知ってもらい、利用につながる機会をつくりたいとアロマ講座を企画した。日中忙しくて来られない人や仕事帰りの人も参加できるよう夜間の時間帯に開催したところ、18人の申し込みがあった。コロナ感染拡大の時期で受講者の減少を心配したが、キャンセルはなく30代から70代と幅広い受講者が集まった。昨年度に引き続き仕事帰りに受講してくれた女性や初参加の男性の受講者も見られ好評を得た。

「1日の終わりに癒しのひとときを」を講座のテーマとした第1回はアロマの効能や暮らしの中への取り入れ方を学び、マスクにも使える「ウイルス対策の除菌スプレー」を作った。第2回では「保湿効果のあるアロマソープを作ろう」と題してホットプレートを使用し、自分たちでデザインしたオリジナルの石けんを作った。各回とも受講者は自分の好きな香りを選びながら自然と会話も弾んでいた。

リラックス作用や除菌効果でも話題になっているアロマセラピー。コロナ自粛で思うように外出できずストレスを抱えている昨今、気軽に参加できゆったり交流できるような講座を今後も企画していきたい。

《アンケートより》

- ・コロナ感染拡大の時期、癒しのひとときとても楽しかった。
- ・アルコールスプレーや石けんづくり等、今とても必要なグッズが作れて楽しかった。
- ・夜の時間帯は仕事の後に参加しやすくてよかった。金曜日の夜は出やすいので良い。
- ・みんなと交流できコロナの時期、ゆったりとできる講座を望みます。

<課題>

夜間の時間帯での講座の充実。

単発講座から公民館を知ってもらい、利用につなげる。



気軽に書道

<ねらい>

書道文化のすそ野を広げる。
新規書道クラブへのクラブ化を図る。

<状況・成果>

11/10・17・24 12/1 火曜日 全4回 13時～15時 受講者8人
講師：西谷麗明（まちのすぐれもの登録者）

「今から始めたい、もう一度学んでみたい。」というサブテーマで昨年に続き書道講座を開催した。講座内容は①冠婚葬祭に役立つ筆②基本から学べる、書ける③一文字書そして今講座のチャレンジとして④心をこめてハガキでご挨拶とした。

細やかで丁寧な指導と前回好評であった講師に依頼した。

年賀状の発送数が年々減少している中、年末に向かう時期での開催でもあり年賀状作成をゴールとした。

講座自体の開始時は受講者、講師ともコロナ禍での開催なのか緊張感が伺えた。しかし、受講者の一人から「自己紹介をしましょう」との発言があり、自己紹介を通じて受講者の緊張感はほぐれた。受講者の大半が久しぶりの書道であり、コロナ禍ではあるが「自宅にこもってばかりでなく何か始めなくては」との受講理由の声が多かった。

講師の指導は書道の型にはめるのではなく、受講者に自由に書くことで書道の楽しみを、また、集中した学びの時間を提供した。

最終回に受講者一人ひとりが感想を述べた。大半の声は「久しぶりの書道だったが楽しい時間を過ごせた」との感想であったが、ひとりの受講者が「コロナ禍での開催であったが、皆と集い学べたことに感謝しています」という発言をした。

コロナ禍ではあるが「集う」ということの重要性を考えさせられた。

書道クラブの紹介、クラブ化への説明は行ったが、講座受講の意思はあってもその先へ進むには至らなかった。

《アンケートより》

- ・久しぶりに筆をもって思うようにはなかなか書けませんでした。先生のおかげで何とか年賀状を書けました。ありがとうございます。
- ・今回の講座のように4回で何か体験できるのがあれば参加したいです。

<課題>

受講した時だけでなく日常的に書道に取り組むことを促す。

講座のクラブ化、及び既存クラブ入部への働きかけ方の検討する。



Stay Home 家にいながらつながろう

<ねらい>

有事の時、家にいても人と人がつながれる機会をもつ

話すことでストレスを発散させ、不安や情報を共有し元気を分かち合う

<状況・成果>

4/27・28 10時～15時（全2回） 14人

新型コロナウイルス感染予防対策により、4月7日緊急事態宣言が発出され国民に行動の自粛が求められた。商業施設や飲食店は店を閉め、テレワークなどの在宅勤務者が増加し、「ステイホーム・おうちで過ごそう」を合言葉に全国一斉に自粛生活が始まった。

公民館でも翌日から閉館となり、クラブ活動を始め、期間中の講座事業がすべて中止となった。

不要不急が叫ばれ、買い物以外に外にでることも儘ならず、数週間経つと家での生活にストレスを感じ、運動不足が社会問題にもなってきた。孤独感や孤立感を持ち、連日のコロナに関するテレビ報道にうつ状態に陥る人も出てくるほどだ。

そのような報道を見聞きし、閉館中の公民館からなにか発信できることはないかと模索し、電話やメールで個々の生活を聞き取ることを企画してみた。家にいても社会とつながっているという実感を持ち、投稿を読んで、みんな頑張っているとの安心感を得られたらと考えた。

広報手段は、ホームページと Facebook のみだった。紙媒体での広報ができず、SNS を利用しない世代には届かない企画でもあるが、どのような状況で生活をしているのか様々な声を拾い集めて生活課題をクローズアップできないものか。相手から電話やメールをもらうという初めての試みであったので2日間限定で行ってみた。実際はメールでの投稿は3通あり、電話はこちらから連絡を取るなどして講座の受講者や子育ての団体に様子を聞いてみた。その結果、子どもとじっくり向き合えることができたと話す子育て世代の母親たちや、生活リズムを崩さず元気にすごしているという高齢者の日常を捉えることができた。また、顔を合わせて話すことの大事さや、公民館という存在の大きさを感じる機会になったとの意見もあった。寄せられた意見はホームページと Facebook に掲載した。比較的元気な方が多く、本当に困っている人の声はこちらに届いてこなかった。

<課題>

中長期に聴き取るなど継続して変化を追う

◆聴き取り内容（一部）

- ・やはりおしゃべりは大事ですね。公民館の人と人のつながりは、この状態でできない今、より一層貴重だったんだと思い知らされます。早く笑顔でみんなに会えることを切に願います。
- ・公民館に行けないので、太極拳の練習ができず浜などについて練習をしている。それでも体力や筋力が落ちていると感じる。やっぱり一人ではなかなか体操や練習はできない。

市民企画講座 りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ

～子どもの生きる力を育むために～（貝塚ファミリー劇場）

<ねらい>

子どもにとって生きる力が育まれる環境とはなにか、について考える。

<状況・成果>

3/15, 30 10時～12時 受講者 33人（大人24人、子ども9人）・29人（大人20人、子ども9人）

講師 成田良治（よろず劇場とんがらし）

当初5月に開催予定をしていた貝塚ファミリー劇場（以下ファミリー）の市民企画講座は、コロナのため延期となった。昨年から企画を練り、講師を依頼し、あとは広報活動のみで多くの人に来てもらいたいと意気込んでいたが、緊急事態宣言を受けファミリーの実行委員会で協議し延期と決めた。その後、コロナの様子を見ながら再度企画を組み直したが、今度は講師の都合がつかなくなった。ねらいは当初のままにして講師を探し続けたところ、成田良治氏が快く引き受けてくれ、3月に開催することができた。



開催当日は子ども同室で行い、実行委員の数人が部屋の後方で保育を行いながら講師の話聞いた。講師は会場の緊張をほぐすために、手遊びや歌を挟みながら会場を笑いで包みながら話を進めた。幼稚園教諭の経験もある講師は子どもの視点で事例を示し、おとなのイライラする感情を否定することなく子どもに寄り添うことの大切さを話した。

子どもが夢中になって遊ぶことが少なくなっている現代に、生の文化にふれることについて以下のように語った。

「文化は人が作ってきたことであり、生の文化にふれるということは人にふれることと同じである」「人と人が集まるからこそ感動が生まれる。子どもにはできるだけ生に近い文化にふれてほしい」と願いを語り締めくくった。30日には講師の話聞いて討議が行われた。アイスブレイクや会員による絵本の読み聞かせなどを取り入れながら、日々子育てで奮闘している母親が頑張りすぎず、日々笑顔で過ごせるよう、共同の子育てや生の文化に触れることの大切さを伝えていた。

プログラム

3月15日（月）	こどもの育つ力を学ぶ 講師 成田 良治
3月30日（火）	親子で楽しむ環境とは グループワーク（討議）



日本語会話よみかき教室

<ねらい>

在住外国人やさまざまな要因で日本語に不自由している人たちに日本語を教え、日本で生活しやすくなるよう支援を行う。

<状況・成果>

6/8～3/30 受講者 25人 ボランティア 18人

※4/6～6/1はコロナの為中止

ボランティアが日本語の読み・書き・会話に困っている人たちに教える講座で、各館の開講状況は下記表の通りである。浜手地区公民館は今年度中国出身の受講希望者があり、3月からボランティアと調整し6年ぶりに開講していくことになった。教室では受講者一人ひとりの学習レベル、要望に応じたきめ細かな指導を行っている。

コロナのため中央公民館（以下、中央）・山手地区公民館（以下、山手）ともに6月からの開講となった。休講中、ボランティアと受講者の状況を確認しながら開講時期、感染対策などを話し合った。開講にあたり、ヘルスチェックシート（日本語版もしくは英語版）の提出や受講者の出身国の言語で記載したプリントを配布し、コロナ対策についての確認を促した。受講者数が多くなれば2つの部屋に分かれて学習する、またボランティアは受講者との会話練習の際に発音が見えやすいようにフェイスシールドを着用するなど工夫をして取り組んでいる。

中央では空港、ホテルなど観光業で勤務する受講者は、コロナ禍で仕事が激減し、生活面に影響が出始めている。山手では福祉、医療、工場のシフト勤務で働く受講者が多く、特に福祉、医療の現場では忙しさに追われ、日本語の学習に十分な時間がとれない。一時帰国も叶わず不安になり日々のストレスを抱えている。まさに生活と雇用の問題に直面している。

ボランティアは日本語学習だけでなく、受講者の仕事や生活面での相談を受けるなど受講者の支えにもなっている。授業日以外でも書類の書き方の指導や子どもの学習についての相談を親身に聞くなど個別に対応している。また、普段の講座に加えて日本文化を知ってもらおうと折り紙や防災グッズづくりをしたり、茶話会や料理を企画するなど受講者、ボランティア間の親睦を深めている。今年度新しく加わったブラジル出身受講者協力のもと料理を企画していたが、コロナ対策のため残念ながら中止とした。

<課題>

コロナ禍での講座開催方法や対策。

午前開講の中央では、受講定員枠に余裕があるため引き続き広報に努める。

開催場所	曜日・時間	回数	受講者数	出身国
中央公民館	火・10時～12時	34	7	ベトナム、中国、 ブラジル、ネパール、 フィリピン
浜手地区公民館	火・10時～12時	4	2	韓国、中国
山手地区公民館	月・19時半～21時	26	16	ベトナム、台湾

文化事業

<ねらい>

芸術や文化に親しむことができる場の提供。

公民館を利用したことのない人たちに公民館を知ってもらう機会とする。

◆クラシックコンサート

<状況・成果>

11/8 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：25人

「貝塚市クラシック音楽家協会がお贈りするコンサート 今こそ聴きたいクラシックの名曲たち」

(出演：貝塚市クラシック音楽家協会)

貝塚市民文化祭およびかいづか家族の日関連事業として実施した。

今年度はコロナ対策として、定員を26人とし、広報・チラシ等で公募したところ、59人の応募者があった。当日、出演者はマウスシールドを着用し、観客席との間には透明のパーテーションを設置する等の感染対策を行った。

コンサートでは、ピアノの連弾やオペラをはじめとした声楽曲など、誰もがどこかで耳にしたことのあるクラシックの名曲が多数演奏された。毎年恒例となっていたカーテンコールでの出演者全員の演奏は中止されたが、参加者は、コロナ禍のなかで良質の音楽に触れることができた満足していた。コンサートのもようは後日YouTubeでも配信された。



◆ジャズライブ

<状況・成果>

1/17 日曜日 13時半開演 場所：中ホール 来場者：181人

(出演：中野ひろしクァルテットとスイングガイズオーケストラ)

毎年多くの観客でにぎわうジャズライブだが、今年度はコロナ対策として密を避けるためコスモシアター中ホールで開催し、中野ひろしクァルテットだけでなく、スイングガイズオーケストラの演奏も行った。

1月14日から再度緊急事態宣言が発出されたが、当日は混雑を想定し、職員全員とシルバー人材センターに委託した2名で対応し、サーモグラフィー検温器や手指消毒の設置、来場者に密になら

ないよう呼びかけを行うなどの感染対策を徹底した。

来場者はフルバンドの迫力あるジャズ演奏を堪能し、「コロナ禍の中にあって開催してくれたことに感謝します」、「中野さんのおしゃべりが楽しかった」という感想が聞かれた。



◆春一番コンサート

<状況・成果>

3/21 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：30人（出演：サザンウインドアンサンブル）

毎年恒例となっている春一番コンサートだが、昨年度はコロナ拡大のため中止となり、今年度は感染予防対策として、定員を35名に限定して開催した。

サザンウインドアンサンブルは、木管五重奏を中心とした楽器編成であるが、今年度は金管楽器や弦楽器なども入って、ドヴォルザークやバッハ作曲の名曲から映画音楽、オーケストラ用にアレンジしたタンゴの名曲などが演奏され、充実した内容のコンサートとなった。

当日は、あいにくの雨で文字通り「春一番」といった天気だったが、2年ぶりのコンサートに来場者からは「ストレス解消してとても心がおだやかになりました」「コロナの流行の中で心が晴れました」といった感想が聞かれた。



<課題>

音楽だけでなく、幅広いジャンルの文化芸術に触れてもらう機会を検討する。

遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）

<ねらい>

近郊の地域に出かけるボランティア活動を支援する。
次世代を担う人材育成。

<状況・成果>

登録メンバー24人（あそび隊20人・折り紙グループ4人）

貝塚市内を中心に小学校・幼稚園・保育所・こども園・公民館の講座事業・介護施設などからの依頼で現地に出向き、子どもから高齢者まで身近な材料でおもちゃ作りや昔あそびをしている。また月1回、中央公民館で定例会を設けスケジュールの調整、おもちゃ製作の勉強会、材料作り、隊員の交流や情報交換の場になっている。

緊急事態宣言を受けた休館中の4月下旬から5月上旬にかけてあそび隊員の協力でビデオ撮影したおもちゃ作り動画を本市フェイスブックで配信した。「タオル人形」「ストロートンボ」作りの動画を2回に分けて配信し、1週間程度で動画再生回数は2000件を超えた。また12月にも折り紙グループの協力で「サンタクロース」作りを動画配信し、「動画を見て一緒に作ってみました」と見た人から嬉しい言葉をいただいた。隊員も動画配信は初めての体験だったが、周りの人からの反響があり挑戦してみて良かったと喜びの声が聞かれた。

今年度の活動（計6回）	
幼・保・こども園・小学校	1回
公民館講座・グループ	5回
施設・他市	0回
地域・町会ほか	0回

今年度はコロナのため思うように活動ができず少しさみしい1年となったが、新しいおもちゃ製作の研究やアイデアを生み出す時間もとれた。まだ活動は完全に元には戻っていないが、隊員はマスクとフェイスシールドを全員着用し、感染対策を徹底し、秋からの活動を再開している。

隊員の高齢化が進む中、新たな隊員の獲得と体制づくりが課題となっている。今年度も隊長候補はなかったが、副隊長の補佐として手をあげてくれる人がいた。他の隊員たちも活動の準備を分担し少しずつ新たな体制も動き出した。引き続きチラシ、フェイスブックによる隊員募集の宣伝を行っていく。

隊員の高齢化が進む中、新たな隊員の獲得と体制づくりが課題となっている。今年度も隊長候補はなかったが、副隊長の補佐として手をあげてくれる人がいた。他の隊員たちも活動の準備を分担し少しずつ新たな体制も動き出した。引き続きチラシ、フェイスブックによる隊員募集の宣伝を行っていく。

<課題>

今後の遊び隊を担っていける後継者の育成。
誰でも運営できる体制づくり。
新たな遊び隊員の獲得。

遊び隊の歴史・・・遊び隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」をあわせた総称。あそび隊は「つるかめ大学遊び隊」と公民館講座の「あそびボランティア養成講座」終了メンバーを中心に平成20年に発足。折り紙グループは平成9年につるかめ折り紙として結成し、平成22年中央公民館クラブ協議会に加入。その後あそび隊と共に活動していく中で平成24年に一緒に活動することとなり、その際に全体の総称を「遊び隊」とした。折り紙グループは、誰でも申込みなしで参加できる「オープン折り紙」事業を毎月第3土曜日に実施している。



保育ボランティア

<ねらい>

子育て中の親の学習機会を保障し、子どもにとって安心・安全かつより良い保育をめざす。
親の気持ちに寄り添い、親への支援を心がける。

<現状・成果>

定期登録 12 人 不定期登録 7 人

おや子教室 9 人

今年度はコロナ感染拡大により、保育付き講座の開催ができず、保育ボランティアの活動もできない状況が続いた。

ようやく、11 月からおや子教室が開催されることになり、10 月 27 日のおや子教室準備会において、久しぶりに保育ボランティアは顔を合わせることができた。

保育において、コロナ予防対策をどうするかが最大の課題であり、準備会でもその件について入念に話し合われた。

その結果、おもちゃは使う分だけを出し、消毒を徹底する、おやつの時間は持たない、子ども 1 人に対し 1 人の保育ボランティアが担当して密を避ける、などの対策をとることになった。

おや子教室開催時は天気の良い日が続き、子どもたちは外で遊んだり、市役所周辺を散歩したりして、おやつの時間が無くても楽しそうに過ごすことができた。一方、当初感染対策として密を避けるため 1 人の子どもに対し 1 人の担当ボランティアを決めて、1 対 1 で保育を行うこととしていたが、動き回る子どもに対しては、ボランティア全員で見守る必要があり、子ども同士、保育ボランティア同士のソーシャルディスタンスの確保は難しかった。

おや子教室では、絵本の読み聞かせや講座の一コマで自身の子育て期の経験談を話したり、受講者の悩みに答えたりして、保育以外でも積極的に関わった。また最終日には、例年渡していた手づくりのメダルに代えて、ボランティアが手づくりした表彰状を子どもたちに渡した。表彰状の作成時には子どもたちもお手伝いするなど、微笑ましい光景が見られた。

受講者からは、「最初は子どもが泣いたりして不安だったが、保育室に戻ると楽しそうにしていたので安心した」、「家に帰ると子どもが保育室での出来事をいっぱい話してくれた」といった声が聞かれた。

保育ボランティア同士の親睦を図るために実施していた反省会は、今年度は叶わなかったが、講座終了後には、保育付き講座の重要性や、参加者減少を改善するために工夫すべき点などが話し合われた。

2 月 16 日には、三館保育ボランティア交流会が開催され、中央公民館の保育ボランティア 3 人が出席し、今年度保育のようすを報告した。

<課題>

コロナ予防対策など、衛生面についての対応策の検討。

より充実した保育内容にするための企画や保育体制についての検討。



日本語会話よみかき教室ボランティア

<ねらい>

日本語会話や読み書きが困難な人たちに対し、学習を支援することで受講者が安心して生活できるようサポートするボランティアを養成する。

<状況・成果>

今年度の受講者は中央公民館は7人、山手地区公民館は16人、浜手地区公民館は2人で全員在住外国人である。浜手地区公民館では今年度中国出身の受講希望者があり、3月からボランティアと調整し6年ぶりに開講していくことになった。対するボランティアは総勢18人、その内の3人は20年以上継続している。ボランティア間でも連携がよくとれており、講座実施日以外にも受講者の要望に応じて個別で対応したり、一緒に料理するなど交流も盛んに行っている。日本語学習にとどまらず受講者のプライベートな悩みに対しても親身に話を聞いていた。

今年度は若手のボランティアが2人加わった。参加のきっかけは「昨年度に実施した日本語指導研修会の受講やホームページを見て知った」とのことで、2人とも山手に参加している。昨年度は山手のボランティアが少なかったため充分に対応することができず、心苦しい思いをしていたが今年度に入り安定してきている。

10月には中央のフィリピン出身受講者が出産で帰国することになり、お別れ会を行った。コロナ対策のため料理はできなかったが、ボランティアが軽食を準備し、受講者と手作りのアルバムをプレゼントした。帰国後も連絡を取り合いボランティア、受講者間での交流は続いている。

研修では10月に田尻町で大阪府教育委員会が実施した人権教育地区別セミナーに参加し、若年性認知症、同和問題、LGBTをテーマにグループワークを通して「正しい知識と理解」「多様性の受容と尊重」の大切さについて学んだ。また、11月にはかいづか国際交流協会(KAIFA)主催の「やさしい日本語ってなに？」をテーマとした講演会にボランティア7人が参加した。昨年度から若手ボランティアも増えてきているので基礎から学ぶことができ良かったと好評だった。今年度はコロナであまり研修に参加できなかったが、3月には大阪府教育委員会との共催事業で「識字・日本語パネル展」を3館の巡回展示で実施した。ボランティアが中心となり受講者と一緒に「日本語会話よみかき教室」の紹介パネルを作成し、日本語教室の存在を地域の人たちに向けて発信した。

このパネル展を通して教室の存在を知らず日本語に不自由している人、支援に興味のある人たちに日本語教室の活動や取り組みを知ってもらおう機会となった。

<課題>

- ボランティアの継続をサポートする。
- スキルアップにつながる研修の機会を設ける。
- 引き続き講座の周知徹底に努める。



ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

障がい者が安心して活動できるようにボランティアのスキルアップを支援する。

受講者との交流を通して障がい者への理解を深める。

受講者が主体となる関わりを心がける。

<状況・成果>

7/31～3/26 金曜日 10時半～12時半 (全9回) 登録17人

ボランティアの多くは長年この講座に携わっているため豊かな経験を持ち、受講者それぞれの個性を把握し、大らかに受け止めて料理をしている。常に受講者が安全に料理を楽しめるような配慮を欠かさず、その人ができることを十分に伸ばすような働きかけがある。受講者との信頼関係も築けており、終始和やかな雰囲気で開催されている。

今年度は、若手女性2名がボランティアに加わり、講座はより和やかな雰囲気に包まれていた。講座準備を終え受講者の到着を待つ時間はボランティアどうしの話がはずみ、互いを知り合う交流の時間にもなっていた。

一方、数年前まで行っていた料理ボランティア研修会は、コロナの影響もあり今年度も取り組むことはできなかった。ボランティアのスキルアップの場として数年に一度でも取り組みたいが、ボランティアからの学習要求も今のところない。新たなメンバー構成になったこともあるので、その意欲を待ちたいところである。

今年度は少し若返った料理ボランティアだが、高齢のボランティアが卒業することを見越して、引き続き次代を担うボランティアを募集していきたい。

<課題>

ボランティアが継続して活動できるよう支援する。

ボランティア募集を行い会員の増加を目指す。

料理ボランティア研修会への機運を高める。



11, 12月のクリスマスメニュー



クリスマス会はできなかったけれど、クリスマス会の雰囲気を少しでも・・・と、ボランティアがリースを手作りし飾りました

ピアノリレー

<ねらい>

ピアノリレーを通じて老若男女を問わず、文化に親しむ機会を提供する。

公民館が身近な場所であることを知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

七夕ピアノリレー

7/5 日曜日 9時～16時 参加者 14人 演奏者 13人

4月上旬より5月末までコロナにより公民館は休館を余儀なくされ、5月開催予定「GWピアノリレー」は中止となった。

2回目となる今回のピアノリレーは7月初旬開催であることから、「七夕ピアノリレー」とした。会場の飾りには6月の開館時より来館者に七夕短冊を作成してもらい完成した七夕飾りを視聴覚室に施した。

公民館とは身近にあり誰もが気軽に立ち寄ることの出来る場所であることを知ってもらうため今回もサブテーマ「公民館に行こう」を掲げ、練習としての演奏もあり、家族だけの演奏会もあり、お互いの演奏指導など自由な時間を提供した。

小学1年生から70歳代までと幅広い層の参加があり、誰もが集う公民館らしいピアノリレーとなった。



X'masピアノリレー

12/20 日曜日 9時～16時 参加者 36人 演奏者 12人



日頃の練習成果を家族に披露する、お姉ちゃんのおねで参加する弟、お辞儀から始まる発表会の事前練習、友達同士の演奏会などほほえましい光景がみられた。終盤にはリクエストに応える演奏など参加者同士の交流は深まった。

参加者からは、「楽しい一時でした」「コロナで大変な中、開催してくれて有難うございました」「クリスマス仕様の飾りも、プロジェクターなど雰囲気も良かったです」など、感謝や次回を期待する声は多かった。

今後も定期開催することで参加者を増やし、参加者が自由に奏でる演奏会、参加者同士がつながっていく笑顔あふれる事業にしていきたい。

<課題>

さらに幅広い人達に参加してもらうためにも、チラシの配布場所、広報の時期などの工夫をする。

第64回中央公民館まつり

<ねらい>

公民館と公民館を拠点に活動する団体が日頃の活動成果を発表する場。
公民館で活動する団体の交流と活性化につなげる。
公民館活動を広く地域の人々に知ってもらう。

<状況・成果>

5/17（日）バザー 5/23（土）5/24（日）※コロナの為中止

例年にならない令和元年12月に第64回中央公民館まつり（以後公民館まつりと表記）準備会を立ち上げ、1月に第1回実行委員会を開催し、公民館まつりが動き出した。

今後、令和2年9月から始まり令和5年まで続く貝塚市新庁舎整備事業工事の関係、新庁舎完成に伴い、今年度以降の公民館まつりにおける開催規模・内容の変更は明白であった。

だからこそ、例年以上の成功を目指した公民館まつり役員会・実行委員会・各委員会メンバーの士気は高く感じられたが残念な結果となってしまった。

公民館まつりのテーマは昨年のラグビー日本代表の活躍もあって、「ワンチーム！！つながろう公民館まつりで」と決定された。

公民館まつり開催に向けた準備は順調に進んでいたが、2月に入ると世間にコロナの影響が始め、貝塚市としてイベントや集会などの自粛方針が発せられた。

コロナ対策も考えながらの開催や開催時期の延期をとの声もあったが、公民館まつりに参加する全員の安全確保ができないとの役員会・実行委員会・公民館の判断として3月に公民館まつり・バザー開催の中止を決定した。

<課題>

新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえた開催運営。

貝塚市新庁舎整備事業に伴い、来年度のまつり規模・内容の考慮。

実行委員会がスムーズに運営できるように支援する。

今後も安全を優先した運営をすすめ、動員（案内係や自転車整理など）の時間単位や暑さ対策を考慮する。

ロビー活用

<ねらい>

クラブや団体の発表の場（展示）、情報収集の場、コミュニケーションを図る場、憩の場等とし、市民がいつでも誰でも気軽に利用できるように整備する。

<状況・成果>

○居場所・コミュニケーションの場として

ロビーは活発に利用されており、昼間は主に雑談、ミーティング、休憩、昼食、クラブ前の自主練習などの場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人が利用している。

部屋が満室の場合は会議などにも使われていることもある。

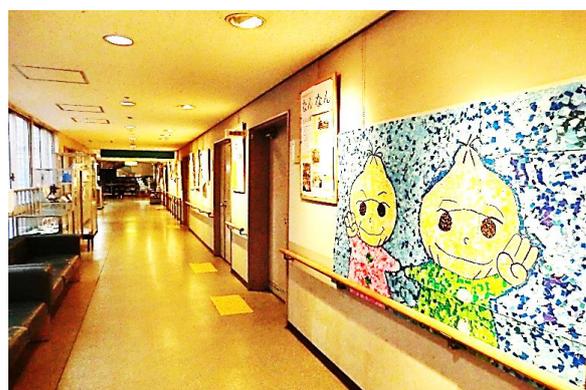
夕方からは受験勉強や中間期末テストに向けて学習をする中高生がやってきて本やノートを開く姿が見られた。コロナで図書館など公共施設の自習室が使えなかった時期もあり例年より多く訪れていた。

ヘルスチェックシートの記入で職員とも言葉を交わす機会が増え、学生たちとの距離も縮まった。学生にとっても地域の大人と接する機会になっている。

○展示場所として

クラブや市民が自由に展示できる場として通路壁面やガラスケースが開放されており、多種多様な作品が年間を通じて展示されていた(右表参照)。クラブについては、市立貝塚病院への展示もあり年間数クラブが出向いていたが今年度は中止となった。また、市内三館ある公民館の交流を目的とし他公民館のクラブと展示交流を引き続き行った。コロナ禍で展示がない時期もあり、閑散とした公民館を少しでもにぎやかにと、人形劇あひるクラブが人形を展示するなど、クラブ員の機転や志によりロビーが彩られ和むことがあった。クラブ協議会主催で障がい者福祉施設利用者の作品展「にっこり展」は時期を遅らせ今年度も行われた。

団体名(内容)	期間
写真展示(個人)	6/27～7/5
月曜絵画	7/6～7/19
コスモ写真クラブ	7/20～8/3
人形劇あひる	8/27～9/10
SDGs パネル展示(環境政策課)	9/28～10/9
市民合同写真展	10/12～10/26
ろうの花	10/13～10/27
文化祭	11/1～11/3
木曜書道	11/5～11/19
月曜絵画	11/24～12/7
かいづか家族の日展示	11/27～12/11
にっこり展(障害者施設展示)	12/12～1/14
貝塚市美術協会(中止)	1/16～1/31
山手木工クラブ(3館展示交流)	1/24～1/30
パッチワーク(山手クラブ)	2/2～2/9
水墨画(水墨画クラブ青法会)	2/12～2/26
善兵衛ランド(天体写真)	3/1～3/15
山手花をたのしむ会(3館展示交流)	3/2～3/8
識字・日本語パネル展	3/19～3/23



にっこり展は、今年度新たに3施設が加わり8施設が参加。力作揃いの作品に多くの人が足を止めた。

○情報収集の場として

様々な情報を提供する場として、公民館主催または共催講座事業のチラシ、市の広報や市内外の各種団体からのチラシを市民が自由に手に取れるよう配架している。また、クラブ協議会のお知らせなど、周知の場としても活用されている。加えて他課事業の情報コーナーとして、貝塚市消費生活センター情報ラック（令和2年12月に撤収）や、男女共同参画をはじめとする人権啓発コーナーが設置されている。各団体や子育てサークルのPRポスターなど手作りのポスターもあり、公民館があたたかい場所であることを代弁してくれているようにあちらこちらに掲示されている。



つげさん（貝塚市公認キャラクター）がにっこり展を鑑賞しているところ。広報かいづか2月号で紹介された。

○コロナ禍の工夫

緊急事態宣言時（4/7～5/25）に休館していた公民館は人の往来もなく閑散としていた。「地域のお茶の間」として親しまれている公民館は住人のいない家のような状態だった。緊急事態宣言が明けた時に「おかえり」と家族を迎えるように、そしてこのコロナ禍を一緒に乗り越えようと「がんばろう貝塚」の文字を階段や廊下に張り出して、利用者みなさんを心待ちにした。解除後、利用者たちからは、「おかえり」の文字を見て「涙がでそうになった」「胸が熱くなった」などの声が寄せられ、公民館活動や学習が市民に必要とされ、待たれていたことを確認することとなった。



ロビー空間においても、いすの間隔を取るなど3密を避ける工夫はもちろん、最低でも昼と夕方は消毒を行うなど予防を徹底して行った。

<課題>

ロビー展示が市民だれもが利用できることのさらなる周知。



各クラブの作品が公民館ロビーを飾った。（上）三館交流として、他館のクラブ作品も登場した。（左）左から木工クラブとパッチワーククラブともに山手地区公民館所属クラブ

地域出前講座

<ねらい>

話題提供を行い、長生会や町会の活性化を図る。

地域の人達に公民館を知ってもらう機会。

<状況・成果>

今年度は新型コロナウイルス感染症流行のために、ふれあい喫茶など地域での活動は消極的であり出前講座への依頼はなかった。

<課題>

新しい地域の開拓と新しいメニューの構築。

移動公民館「健康サロン」

<ねらい>

地域の町会館（自治会館）などを利用して「健康」をキーワードに地域コミュニティの活性化と「絆」を深める機会とする。「公民館を地域へ」の足掛かり、公民館を知ってもらう機会とする。公民館が地域を知るきっかけとする。



<状況・成果>

8月～3月（6回） 延83人

9年目を迎える「健康サロン」はコスモス市民講座のプログラムのひとつ「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を利用した町会や団体からの依頼で実施している。

コロナのために、昨年度から町会・団体の活動自粛が続いた。

そのような状況の中「健康サロン」を実施しようと、コロナ対策について町会役員と職員で相談しながら8月に予定していたものの、直前で市内に感染者が数名出たことから「コロナが心配で老人会の活動を自粛します。」と開催を延期した町会が複数あった。

9月によりやく開催できた加神老人会は、「健康サロン」は初めてで、老人会の役員たちが公民館に来て相談し、コロナ対策も整え開催をした。いつもより参加者が少なかったそうだが、集まるのが大切だと思う役員たちの工夫で開催にこぎつけたことを知った。

訪問し、話を聞くと「コロナは怖いけれど、家の中にもりつきりしているのは、もっと大変なことになるとおもってね。思い切って、開催することにしたの」という役員さんたちや、「すぐ近くに住んでいるのに、こうして話するのは何か月ぶりかしら？元気だった？」とお互いの様子を心配し合う人たちなど、マスクごしに楽し気に話す様子が見られた。

その後、暑い時期にはコロナの感染人数は少なかったが、寒くなるにつれ徐々に感染者が増加し、活動を再び休止する町会から、健康サロン中止の連絡が入った。

今年はコロナで茶話会がほとんどできなかったが、普段は職員も加わり自由に会話を楽しむ一方で、「公民館」を知ってもらう機会としてチラシなどを持参してPRする時間を必ず設けてもらっている。また、公民館でなくとも身近な町会館に集まり、つながることの大切さについても伝えている。

「健康サロン」で訪問することが「地域の活動の一役を担え、同時に公民館を知ってもらう機会となれば良いのでは。」と思いこの事業を続けている。

<課題>

開催に向けての相談を受け、地域の人たちが自分たちの活動を継続するための支援にむけて、情報を収集し伝える。

日	場所
8/21	二色の浜荘園 ブロッコリー 中止
9/20	窪田 シャルマンフジ長生会 中止
9/26	加神 老人会
11/6	東山 いきいきクラブ
11/20	二色の浜荘園 ブロッコリー 中止
11/21	加神 老人会
12/11	東山 いきいきクラブ 中止
12/20	窪田 シャルマンフジ長生会 中止
1/15	二色浜荘園 ブロッコリー 中止
2/13	加神 老人会 中止
2/19	二色浜荘園 ブロッコリー 中止
2/26	畠中 ロコモフレンズ
3/14	窪田 シャルマンフジ長生会
3/19	東山 いきいきクラブ

中央・ほかでもがんばっているよ

中央公民館クラブ協議会や団体の地域での活動

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考 (感想など)
1	10月3日	遊び隊	北小学校祭り	新型コロナ感染症もあり、久しぶりの活動となった。隊員も子ども達も元気に活動できる事を喜んだ。
2	10月8日	人形劇あひる	山手地区公民館	山手地区公民館に人形を展示した。山手に来られている人たちにも見てもらえて良かった。
3	10月27日	ろうの花	浜手地区公民館	クラブ員の作品を浜手地区公民館のロビーに展示し、「ろうの花」というものを広めることができた。
4	11月3日	貝塚ハーモニカクラブ	大阪府立少年自然の家	第35回「オープンデー&音の葉音楽祭」にて演奏し、観客も多く楽しい時間を過ごすことができた。
5	11月8日	人形劇あひる	中央小学校体育館	腹話術、人形劇、顔あてクイズ、手遊びをし、中央校区の交流の場としてきっかけづくりをした。
6	11月12日	人形劇あひる	みらいずこども園	人形劇、腹話術、手遊びをしました。子どもたちは昨年と同じ人形劇であったが、喜んでくれた。
7	11月28日	遊び隊	プレーパーク	子ども達と「かざぐるま」「ヤットコ」などの遊びを通して久しぶりの活動を楽しんだ。
8	12月2日	ろうの花	市民福祉センター 点字図書室	視覚障がい者の文化教室として「ろうの花」を制作してもらい、とても楽しんで取り組んでもらった。
9	12月25日	マジック	放課後デイサービス ムーブすばる	マジックを披露した。子どもたちにも参加してもらい楽しんでもらった。
10	12月28日	遊び隊	中央公民館 赤ちゃんルーム	0才児を持つお母さんを対象に「CD ゴマ」を作った。どうなるか心配したが、無事終了しほっとした。
11	1月8日	遊び隊	浜手地区公民館 新春あそびたい会	コロナ禍で子ども達が集まるか心配だったが、隊員が手を休める事もないくらいの賑わいだった。
12	3月11日	人形劇あひる	貝塚中央こども園	人形劇、エプロン・パネルシアター、手遊び、腹話術を2部制で行い、みんな喜んでくれた。
13	3月30日	遊び隊	プレーパーク	子ども達と「かざぐるま」「ヤットコ」などの恒例の遊びを通して約100名の来場者と楽しんだ。

中央公民館クラブ協議会

<ねらい>

クラブ協議会が文化・学習活動を通して豊かな市民文化の基盤を形成する。

クラブ協議会の円滑な運営及び変革へのサポートをおこなう。

会員の相互交流と理解を図るために事業・研修をおこなう。

<状況・成果> クラブ数 48 クラブ員数 532 人 (役員 10 クラブ 10 人)

今年度はコロナ禍で4月の定期総会が開催できず、異例の書面決議という形で協議会活動がスタートした。その後も役員会は5月末から毎月開催することができたが、定例会はなかなか開催できず、やっと7月に密を避け、各クラブ1名の出席として開催することができた。

クラブ活動についてもほぼ通常の活動に戻りつつあるが、いまだ活動を再開できずにいるクラブもある。そこで、クラブ協議会でも自粛期間中活動できなかったこともあり、クラブ協議会費の前期分を免除することを決定した。

レクリエーション部会は、コロナ禍でのバスツアーやBBQなど開催できないと判断し、この一年をかけて何ができるかを探ることとした。屋外でできるニュースポーツなども検討したが、来年度はボウリング大会の開催を検討するとし、次にバトンをつないだ。

地域担当研修部会は、例年開催している障害福祉施設の展示「にっこり展」を9月展示から時期を遅らせ、12月展示として開催した。また、クラブ協議会委員研修会については、昨年度2月にコロナ対策のため開催できなかった研修会用のパワーポイント「クラブ協議会のしくみ」を11月定例会で見ることにした。また、3月には新役員・新委員向けに研修会を45クラブ60人の参加で実施した。

広報部会では、協議会ニュース「泉のほとり」3回発行を2回とした。発行回数を減らしたことで広報部会からの提案で泉のほとりのクイズ景品数を増やすなど工夫がなされた。また、活動記録「どらせな」の発刊も行った。どらせな原稿についてはコロナ禍で工夫していることや感じたことをテーマとして書くことを依頼した。

コロナ禍でなかなか集まらない中、各担当職員は各部会の役員・部長に寄り添いながらアドバイスや作業を支援した。また、毎回定例会では、クラブの活性化を図るためクラブ体験講座の企画依頼をおこない、市の広報で呼びかけ、クラブ員獲得につなげた。しかし、今年度残念ながら高齢化や部員減少などの理由から4クラブ（民舞コスモス・レザークラフト・土曜民踊・リサイクル工房リボン）が廃部となった。



<課題>

クラブ協議会活動が円滑に進められ、協議会が活性化できるようなサポートをする。

貝塚学習グループ連絡会

<ねらい>

連絡会全体の活性化を図る。
各グループが学んでいることをサポートする。

<状況・成果>

公民館で活動する学習グループが結集して学び、個々のグループの学習進捗状況を報告し情報交換を行っている。2018年から構成グループは「スリーメイト」「あこーる♪」「第三土曜の会」の3グループで活動していたが、「スリーメイト」がメンバーの高齢化や家庭の事情などの理由で5月に同会から脱会した。連絡会からは脱会したが、今後も不定期に活動を継続していくことになった。12月には最初のコロナ緊急事態宣言以降、久しぶりに中央公民館で集まり、近況報告をしながら折り紙の得意なメンバーが講師となり毎年製作している干支を折り紙で作って交流を図った。

「あこーる♪」では女性メンバー7人で活動を行っている。月1回、近況報告をしたり、情報共有を行っている。今年度はコロナのため講座開催はできなかったが、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2020 泉州かいつか」のオンライン開催にリモートで参加するため、メッセージや写真撮影の準備をした。また、来年度の公民館まつりの話し合いも行われている。9月には男性1人の見学者があったが、新規加入には至らなかった。男性メンバーのいる「第三土曜の会」への見学を勧めるなど各グループ間で連携し、新メンバーの獲得に努めている。

「第三土曜の会」では現在9人で活動している。今年度はコロナのため7月からの活動となった。ジャンルを問わず、メンバーが日頃、関心を持ったテーマ「フレイルとサルコペニア」「コロナの感染・増殖メカニズム」「防災リスクマネジメント」などをその回ごとに発表・記録・司会の役割を決め、進行している。また、発足当初から毎月継続しているグループの会報「お元気ですか通信」は1月で第276号をむかえた。学習内容に加え、例会の報告、連絡事項をまとめ情報共有に努めている。コロナで会えなかった期間、お互いに交わしたハガキをコピーし、号外通信も発行した。みんなの想いが伝わり、励まされたメンバー全員が話している。10月には校外学習として和菓子製造業者へ工場見学に行くなど積極的に活動している。

今年度は連絡会全体の交流の場である社会見学がコロナのため中止となり、各グループでの活動が地道に行われる1年となった。

<課題>

各グループの連携強化と新メンバーの募集により各グループの活性化を図る。



スリーメイト・折り紙
作品「赤べこ」

「スリーメイト」…2002年 社会教育課の「生涯学習コーディネーター養成講座」第3期修了者で結成。健康づくりへの意識が高いメンバーが多く、この方面での活躍が顕著。

「あこーる♪」…1989年「公民館保育を考える会」として発足。中央公民館が現在のコスモシアターに移転する際保育室の内容について提言した。2000年から現在の名称。

「第三土曜の会」…1985年に「働く女性の会」として発足。働く環境の問題から関連して女性史、女性問題について学習してきた。20～30年も活動しているメンバーもいる。現在は介護の問題や時事的な問題をメンバー持ち回りで担当し学習している。貝塚公民館つるかめ大学で学連の活動に興味を持った男性が加入した。

貝塚ファミリー劇場

<ねらい>

「本物の舞台鑑賞やこども市などの様々な行事を通じて人と繋がるスキルや自主性を育て、生きる力を身に付けることを支援し、文化豊かなまちづくりを目指す」というファミリー劇場の理念達成を支援する。

<状況・成果>

「貝塚ファミリー劇場」として発足 33 年目になる今年度の活動はスタートからコロナの影響を受けた。会員、スタッフ、演者、関わる人すべての健康を守ることを最優先とし例会を組み立てなければならなかった。

しかし、このような状況においても貝塚ファミリー劇場メンバーは強い団結力・行動力を示した。

「子どもたちの生きる力を育むことや運営に携わることで親も子とともに成長を目指す」貝塚ファミリー劇場の活動は、コロナ禍においても安全を考慮し、「新しい生活様式」を取り入れた会場設営・運営で例会を開催した。

残念ながら開催延期を余儀なくされた例会もあったが、市民企画講座、子どもゆめ基金助成事業なども開催し、年間通じて積極的な活動が行われた。

<課題>

芸術鑑賞だけにとどまらない活動の意義をいかに会員以外の家族に伝えるか。

「新し生活様式」に合わせた、例会形態、会場確保。



4/18	第 35 回総会 ※書面決議
8/30	第 32 回子ども市 36 人 (中央公民館)
9/6	第 129 例会 (全体向き)「ギャングエイジ」121 人 (コスモシアター中ホール)
9/19・10/17・11/14	中高生交流会 (中央公民館) 18 人
10/20	ファミリーひろば・子どもゆめ基金助成事業「日本の季節を感じよう！体験と読み聞かせ・神嘗祭」9 人 (事務所)
10/25	第 1 2 8 例会 (低学年向)「KOYO マイムライブ！～大道芸バージョン～」110 人 (市民福祉センター)
11/20	ファミリーひろば・子どもゆめ基金助成事業「日本の季節を感じよう！体験読み聞かせ・おせち」9 人 (事務所)
11/22	ファミリーキャンプ (全体向け) 36 人
12/15	ファミリーひろば・子どもゆめ基金助成事業「日本の季節を感じよう！体験読み聞かせ・七草」15 人 (事務所)
1/22	ファミリーひろば・子どもゆめ基金助成事業「日本の季節を感じよう！体験読み聞かせ・節分」15 人 (事務所)
1/24	第 130 例会 (低学年向き)「URSHIMA/やぎのおはなし」(市民福祉センター) 延期
2/16	ファミリーひろば・子どもゆめ基金助成事業「日本の季節を感じよう！体験読み聞かせ・桃の節句」16 人 (事務所)
2/28	中央公民館共催例会 (全体向き)「おじさんとおおきな木」100 人 (市民福祉センター)
3/15・30	市民企画講座「こどものいきる力を育むために親ができること」りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ (職員会館・中央公民館) 62 人
3/27	第 131 例会 (全体向き)「あっちこっちサバンナ」196 人 (コスモシアター中ホール)

貝塚子育てネットワークの会

<ねらい>

会の円滑な運営に対しての助言。大人が育つ学習の場と環境づくりを提供。

<状況・成果>

毎日のように公民館に来ていた子育てネットワークの会（以後ネット）のメンバーはコロナによる自粛で3月から活動が止まってしまった。年度替わりの季節ゆえ、新旧の引き継ぎや新委員の顔合わせなどができずにいた。前期の連続講座の計画も立てられず今年度の始動は6月に入ってからだった。

自粛期間中はリモートで役員レベルの会議を試みたが思うようにいかず、やはり顔を見ながら話をしてほしいとリモート活用のハードルの高さを憂えていた。

始動してからも各部会のペースにばらつきがあったが、各部会とも秋からの講座を組み立てた。乳幼児部会を除き、前期に予定していた講座を後期に移行させ、講座が終了する頃には本来のネットのペースが戻ってきたようだった。

<課題>

後継者の育成と新たな担い手の発掘。

運営メンバーの悩みや声に耳を傾け、細やかな対応を行う。

【主な取り組み】

- ・夏の研修会（コロナで見合わせ）・代表者会議、部長会議（毎月）・中央公民館まつり（参画）
- ・公民館大会（参画）・公民館講座事業、地域活動、他団体への協力

乳幼児部会

コロナで外出が怖いという声があり、乳幼児部会としての始動は7月下旬となった。室内での活動に過敏になっているメンバーもいるため、会議を戸外で行うなど工夫をしていた。小さい子どもを抱えるだけに、他部会とは温度差があり今年度の講座には消極的で、結局講座は組まなかった。

昨年度の運営のしんどさを引きずったまま交代したうえに、コロナでの重苦しさを抱え、なんとかこの雰囲気打破できないか正副部長は何度も話し合い、秋に芋ほり、運動会などを開催することで部会全体を盛り上げたいと考えた。行事をすることさえ憚られる雰囲気の中、思い切って開催したところ、「みんなで作り上げることができてよかった」とほぼ全員から好評を得て、胸をなでおろしていた。各サークルにおいては、サークル勧誘を積極的に行ない、どのサークルも安定していた。ただ、次年度になると人数が減るため、存続が危うくなるとの声が聞こえてくる。

<課題>

子育てサークルの会員を増やす。

サークル活動とネット委員の役割などのバランス。

プログラム

サークル体験（前期はコロナでほぼ中止したが後期は開催）・芋ほり・運動会

園児部会

今年度は「Happy Life～子どもと一緒に～」をテーマとし、活動がスタートするはずであったが、コロナの影響を受け、予定していた前期講座のうち6月までの2講座は中止となった。

7月9日に開催されたトークシェアリングでは、「コロナ禍での自粛中に何をしていたか」、「自粛期間中に感じた自身を褒めたいこと・子ども達の成長」、「お弁当のおすすめ」、「子どもの作品どこまで保管している」という4つのテーマで話し合った。

後期は、前期講座で予定していた「子どもの発達を刺激するあそび」、「性教育について」の2講座を開催し、12月に講座の振り返りを行った。

定期開催されているミーティングでは、毎回その日のゴールを決め、グループに分かれて意見を交わし合う。「みんなが話せるように意識する」というグランドゴールを掲げ、メンバーがそれぞれ活発に意見を交わす状況が築かれつつある。時には楽しすぎて時間を忘れて話し合うこともあるが、その中から学びや気づき、自主性も生まれてきている。

コロナ禍で部会役員が運営に不安を感じていたときは、役員経験が豊富な先輩が相談に乗るなど、「みんなで部会を盛り上げていこう」という気運もある。今年度講座の成果から次の学習課題を見つけようともしており、次年度もこのままの流れを引き継いでいけるよう取り組む。

<課題>

子どもが小さな時から、多様な子育てをめぐる社会課題に対し、広い視野を持って取り組むために、講座や会議内容の改善と工夫をはかる。

部会参加者を増やすため、より多くの一般受講者が講座に参加できる内容の充実をはかる。

プログラム

7/9「トークシェアリング」相互 10/29「こどもの発達を刺激するあそび」講師 滝口みどり

11/19「性教育について」講師 浅田昌代 12/3「トークシェアリング」相互

小学生部会

<状況・成果>

「子育てのブレない芯をもつ」を年間テーマに掲げ、5月に「新学期始まって子どもたちどうですか？」のタイトルで座談会を皮切りに6月「うちの子ってなんでこうなん?!」7月には「先輩ママと話す」と新学年への不安や期待を共有できるように講座を予定していたがコロナでスタートが7月の講座からとなった。7月は日曜開催とし、普段仕事などで参加できない保護者が受講できるように工夫をした。その結果、保育で小学1年生が2人いたが他の子ども（1歳と3歳）とも楽しく、またトラブルなく過ごせた。

後期は前期に中止した講座の講師を迎え、学びたかった内容の講座ができた。

11月には、昨年提案されていた浜手地区公民館を会場とし、二色校区の保護者が気軽に参加できるようにしたが、特に受講者が増えることはなかった。12月は先輩お母さん2人を講師に迎え、自身の抱えている問題についての助言をもらった。

講座の合間には、11月に他部会の参加も受け入れて葛城登山を企画運営した。「大人も子どもも一人にならない、一人にさせない」を掲げて秋の一日をたくさんの仲間と自然の中で過ごした。

<課題> 保護者のニーズをくみ取り、他部会や一般参加者が受講しやすい講座の組み立て。

プログラム

5/29 座談会「新学年・子どもたちはどんな感じ?」(中止) 6/21 講座「うちの子なんでこうなん?」(中止) 7/12 講座「子どもに寄り添うってどうゆうこと」 10/23 座談会「うちの子ってなんでこうなん!?!」~話してスッキリしませんか?~ 11/17 講座「うちの子ってなんでこうなん!?!」~みんなちがってみんないい~ 12/17 講座「先輩お母さんの話」

—団体支援事業—

中高生部会

<状況・成果>

令和2年4月7日に政府からの緊急事態宣言が発出され学校が休校となった。受験・入学の準備を経て新生活・新学期に臨む親子にコロナの影響がのしかかり、経験豊富な親たちが集まる中高生部会とはいえ、誰もが経験のない新生活を始めることとなった。

5月末の緊急事態宣言解除後の前期講座はスケジュールの目途が立たず、7月の座談会のみとなった。

中高生部会会議では各メンバーの新生活を情報交換する時間を常に持ち、コロナ禍での新生活を乗り切る為の活動を考えた。

後期にはコロナ禍で臨む受験対策と進学校の情報を得るために講師を招いた。また再開した学校生活の不安を共有し問題解決への足掛かりとなるアドバイスを得るために貝塚の学校教育現場をよく知る元校長も招いた。問題解決の手がかりは教師、子ども、保護者の連携を深め共に経験を積み重ねていく必要性を認識した。

コロナで振り回される一年ではあったが、今年度の学びを通じて一貫して得たものは親も子も流れいく情報に惑わされず、しっかりと物事を見極めること。また、この中高生生活6年間を通して自分自身で進む道を判断していく力を親も子もつけていく。このことがコロナ禍の新生活で出された中高生部会における一つの答えであった。

<課題> ネットメンバー以外の参加受講者を促す内容・宣伝の充実。

プログラム

7/7 座談会「高校あれこれ・選び方」 9/4「子どもに合った進路のを見つけ方」講師：水野保 10/27 座談会「中高生あるあるここだから話せることを話してみよう」 11/24 座談会「もっと知りたい今どきの中高生」アドバイザー：川崎裕子

プレーパーク

近年課題となっている参加数の減少に対し、今年度は広報に力をいれようとチラシ作りに力を注いでいた春先にすべてが中止となった。全校配布分を印刷した後に、春のプレーパーク、ゴールデンウィークの開催が中止となった。夏には何とか実施をしたが、チラシの全校配布はかなわず各施設の配架と個々に手配りするなどで周知を行った。

ステイホーム期間中は、子どもが外にいただけで近隣から苦情がでたり、友達の家に行くと断られたなど、親も子もストレスを抱えたという。まさに3つの間（時間・空間・仲間）や子どもの遊びの大切さを見直す期間になった。反面、子どもの居場所を作れないことのもどかしさを抱え、早く活動を再開したいと待ちに待っていた。秋の2日間は自粛の反動なのか、子どものエネルギーが爆発したかのようにプレーパークは多くの親子でにぎわっていた。子どもたちが走り回り、あるいは1つのことに集中する姿を見、子どもの育ちに遊びが欠かせないものだ と確信し、子どもの遊びについて深く学びたいという機運が高まった。

おりしも昨年度の3月に西川正氏を迎えプレーパーク実行委員の研修会を行う予定が今年の3月に延期している。この研修会でプレーパークを続けることの意義や遊び環境を保障する大人の役割などを学び今後の目標にしていきたい。

2020年:GW 5/9、10(コロナのため中止) 夏 7/23~25 秋 11/28、29 春 2021/3/27~4/2

<課題> プレーパークに関わる人員の確保。 プレーパーク事業を広く伝え参加してもらえる方法。 青少年野外ひろばの安全確認。

文化団体

<ねらい>

市民による多彩な文化活動について、団体それぞれの特徴が発揮され主体的な運営が進められるように働きかける。

各文化団体が公民館を拠点として活動する意義や役割についての理解を深めてもらう。

<状況・成果>

今年度はコロナ拡大により、ほとんどの文化団体主催イベントが中止となった。

コロナ禍のなか、文化は人々の精神的な支えとなり得るため、各団体は最後まで開催に向けて検討を重ねたが、やむなく中止の判断をせざるを得なかった。

そんな中、貝塚美術協会及び貝塚市軽音楽連盟については、展示及びコンサートを開催することができ、訪れた人々の心を癒す時間を与えることができた。

貝塚市民踊連盟 第37回民踊まつり 5/10(日)→10/4(日)変更 中ホール※コロナの為中止

貝塚市クラシック音楽家協会 クラシックコンサート 中ホール 5/17(日)※コロナの為中止

貝塚美術協会 第53回美術協会展 9/19(土)～9/20(日) 視聴覚室 197人来場

今年度は絵画(油絵・水彩画)18点・染色1点・陶芸4点の芸術作品が出展された。

当日は、コロナ予防対策を行ったうえで開催、例年実施する合評会については中止した。

毎年実施している小作品展については、1/16(土)～1/31(日)に中央公民館ロビーで展示開催する予定であったが、コロナの感染拡大を受け中止となった。

貝塚市日本民謡連合会 2020民謡フェスティバル 11/22(日) 中ホール※コロナの為中止

貝塚市合唱連盟 第43回貝塚市合唱フェスティバル 12/6(日) 中ホール→12/20(日)

大ホールに変更 ※コロナの為中止

貝塚市軽音楽連盟 第35回ライトミュージックコンサート 2/14(日) 中ホール100人来場

今年度は3団体が出演し、コロナ対策のため、会場を例年の小ホールから中ホールに変更した。コンサートではオリジナル曲や誰もが口ずさむことができるジャズの名曲などが演奏されると、会場は手拍子などで大いに盛り上がった。

コロナで多くのコンサートが中止になるなか、開催してくれたことに感謝する声が多く聞かれた。

<課題>

各団体の活性化をはかり、会員数の増加にむけ、各団体の課題について検討、改善策を考える。

中央公民館共催事業の位置づけ、各団体と職員の関わりを見直す。

貝塚市立
浜手地区公民館

目 次

■年間総括	・ ・ ・ ・ ・	浜 1
■講座・事業		
◇ 青少年対象事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 6
	明るいおばけやしき 新春あそびたい会 子ども居場所事業（はまて子どもパーク・レッツ TRY など） コドモ防災塾	
◇ 子育て支援事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 10
	パパサロン げんきに子育て 秋 子育てサロン☆ほっとスペース	
◇ 成人対象事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 13
	ふれあい料理講座 シルバーライフ いきいき歌体操（高齢介護課共催講座） ダイエットボクササイズ	
◇ 人権課題事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 18
	気づけば高まる人権意識	
◇ 文化振興事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 19
	人形劇 歌声サロン（高齢介護課共催講座） ロビーコンサート プレ浜手アフタヌーンコンサート	
◇ 人材養成事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 23
	保育ボランティア ふれあい料理ボランティア 図書整理・読み聞かせボランティア ロビーコンサート企画委員	
◇ 地域連携事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 26
	移動公民館「和太鼓を楽しむ」 ふれあいまつり ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー） プレイルーム開放 第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット） パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）/二色校区福祉委員会 【参考】「ほかでもがんばっているよ」一覧表	
◇ 団体支援事業	・ ・ ・ ・ ・	浜 31
	利用者連絡会 利用者団体代表者会議	

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和2年度 浜手地区公民館 事業総括

はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、講座の開催は6月からになった。公民館の各部屋には人数制限があり最大入室制限数を超える講座については2回に分けたり、三密が防げない場所では、前年までの開催場所を変更したりするなど、感染予防に細心の注意を払い、できる内容とできる形態の協議を重ねながら慎重に講座事業を展開した。

多くの人が集まる事業が相次いで中止や延期になった今年、人とのつながりが重要なことを認識できた年となり、浜手地区公民館では人とのつながりが希薄にならないよう事業の展開に努めた。

1 公民館主催事業

- ・受講者が講座運営に主体的に関われるよう配慮し、市民参画型の講座・事業を継続して進める。
- ・引き続き、若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで新規受講者の拡大を図り、講座終了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。
- ・「学習」「交流」を通して地域が活性化するように、地域と公民館のつながり・地域住民同士のつながりを意識した事業展開を図る。
- ・クラブ活動・講座報告も含め、公民館活動を広く知ってもらおうよう、壁新聞・広報・ホームページ・フェイスブック・パネル展示等を通じ広報に努め、新規利用者の開拓を図る。

<状況・成果>

- ・高齢者講座では受講者の声を講座内容に反映させた。
- ・すべての事業において、安易に中止とせずできる方法をさぐり、開催においては感染予防に注意を払い協議を重ねながら開催した。
- ・働く世代が参加しやすい夜間・土日での講座開催をおこない、新規利用者の開拓につなげた。
- ・広報かいつか・ホームページ・フェイスブック等を活用し広報に努めるとともに事業終了後はこれらに加え壁新聞でも学習成果の報告に努めた。また地域の広報紙にも情報提供を行った。

<課題>

- ・引き続き、現代的課題の学習機会の提供と市民のニーズの発掘に努め、様々なツールで学習成果の共有を図る。
- ・若年層と新規受講者の獲得に向けた事業を検討する。
- ・コロナ下においても出来る内容・可能な形態を協議しながら取り組む。

① 青少年対象事業

- ・子どもが公民館を利用しやすいよう環境を整えるとともに、夏休みや土日を利用して様々な体験ができる講座などを開催する。
- ・子どもが、企画・運営にも関わる事業に取り組み、主体性を育む。
- ・異世代・異年齢の人との交流できる機会を設ける。
- ・青少年の自主活動でも利用できることを広く知らせる。

<状況・成果>

- ・「夏の子ども講座」「コドモ防災塾」「夏休みチアダンスチャレンジ」は、感染症の影響および夏休みの短縮等の原因で開催できなかった。
- ・子どもが企画・制作運営に携わる例年のような「おばけやしき」はできなかったが、募集して集まった子どもの作品とボランティアの制作・協力で「明るいおばけやしき」を展示形式で開催した。
- ・レッツ TRY 事業で高校生の館使用があった。さらに広範な青少年の公民館利用促進のため、「+KOMINKAN」として高校生・大学生を対象に、自由に公民館が利用できることを広報した。
- ・「新春あそびたい会」は人が分散するよう1階2階とも会場にし、また出来るだけすべてのコーナーを廻ってもらうようスタンプラリーを行った。
- ・休館中から準備をすすめ開館になって以降もロビーで使用したおもちゃの消毒を欠かさず、卓球は時間制限を設けるなど、子どもが安全に遊べるよう注意を払った。

<課題>

- ・引き続き子どもたちが参加しやすく、安全な講座を開催するため内容と持ち方の検討を行う。
- ・青少年に伝わる広報の仕方について検討する。

② 子育て支援事業

- ・子育て世代対象の講座を企画し、学習・交流を通じて不安を解消し、孤立しないよう仲間づくりを進める。
- ・乳幼児親子の交流の場を設け、父親も含めた親同士の繋がりが広げられるよう工夫し取り組む。
- ・関係各課と連携して、子育てに対する幅広い支援を推進する。

<状況・成果>

- ・「げんきに子育て」は、春の開催は見送り秋から開始した。「子どもの成長とあそび」ほか仲間づくり、子育てが前向きになるような講座を展開した。
- ・18才未満が入館できるようになってからは、「プレイルーム開放」で乳幼児親子が気軽に過ごせる場づくりをするとともに、11月から再開した「子育てサロン」では、参加者増を図るため造形あそびも取り入れた。
- ・「パパサロン」は、7月から再開した。新しい受講者が居場所を求めている様子が伺われ、水遊びや地車・紙のランタンづくりを通して親子と親同士の交流を育んだ。

<課題>

- ・コロナ下における子育ての不安を解消し、親子が安心して受講し子育てするなかで孤立しないような居場所づくりをすることが必要。

③ 成人対象事業

- ・若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで受講者の拡大を図り、また講座修了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。
- ・より広範な市民が関心を持ち、新規受講（参加）者の開拓につながるような事業の、企画・開催に努める。
- ・受講者が講座運営に主体的に関われるよう配慮し、市民参画型の講座・事業を進める。
- ・地域課題の把握に努め、学んだ知識を日々の生活や地域の中で生かし、支え合う人間関係づくりができるような事業展開を図る。
- ・関係各課との連携で、事業内容を充実したものにしていく。

<状況・成果>

- ・高齢者講座では期間短縮や半数ずつの学習など制約のある中、相互の話し合いを重視し、受講者の声を講座内容に反映した。今年度も終了後の自主活動につながった。
- ・高齢者の運動不足の解消とフレイル予防のため、高齢介護課との共催で「いきいき歌体操」などの講座を開催した。
- ・若者層が関心のある内容として「ダイエットボクササイズ」を取り上げ、勤労者が講座に参加しやすい平日の夜間・土日に開催し、新規参加者の開拓につながった。

<課題>

- ・開催日時やテーマを工夫し、新規受講者の開拓に努める。
- ・高齢者が地域の中で生き生きと暮らせるような講座・事業に取り組む。

④ 人権課題事業

- ・多様性社会への理解を広めるとともに、共生社会の課題を考える機会とする。
- ・人権を自身に引き寄せて身近にとらえられる講座の展開を検討する。

<状況・成果>

- ・人権講座を数多く開催している落語家を講師に開催した。日常の何気ない出来事の中でも常に人権に対する意識を持つことを考えるきっかけとなった。

<課題>

- ・人権については、テーマや切り口を変えながら、継続的に取り組むことが必要である。
- ・人権を身近に捉えられるよう様々な方法で人権学習の構築をする。

⑤ 文化振興事業

- ・発表や展示の場を提供し、利用者（市民）の文化活動の活性化を図るとともに、企画に携わる市民ボランティアの拡大など、市民参画の文化事業を推進する。
- ・今年度も気軽に立ち寄れるロビーを活用した催しを開催し、身近に芸術にふれる事が出来る機会を提供する。
- ・ホール等の活用で身近に生の文化芸術に触れる機会を設ける。

<状況・成果>

- ・人形劇は、今年度公民館クラブ1団体で開催した。
- ・4月に予定していた「ジャズコンサート」は緊急事態宣言で開催できなかったが、「歌声サロン」は感染対策に注意しながら開催した。
- ・「ロビーコンサート」は、申込み制にしたり2階のホールで開催したりした。部屋の定員を超えた参加者についての対策も取り9月から開催した。

<課題>

- ・市民の新しいニーズ把握に努めるとともに、参加型の文化事業の継続も検討していく。

2 人材養成事業

- ・クラブやグループ活動の中から、主体的に活動を担う人材が育つよう助言や支援を行う。

- ・ボランティアの研修を実施し、ボランティア活動の充実・人員増を図るため周知する。
- ・公民館利用者の意識を高めるため、公民館に関する課題が認識できるような取り組みを企画・実施するとともにクラブ講師に対しても協力を求めていく。
- ・ふれあいまつりや地域連携事業を通して、新たな人材の発掘・登用を図る。

<状況・成果>

- ・青少年事業では、多くの地域の人たちが関わり異世代交流ができた。
- ・ロビーコンサート企画委員は6月以降毎月会議をし、出演者や公演内容の他、感染対策についても検討した。来年度からの新たなコンサートも今までの企画委員が継続して行う。
- ・料理ボランティアは、コロナの状況をみながら、少人数での調理ができるよう献立を見直したり感染拡大期は開催を中止したりしながら安全な開催に取り組んだ。
- ・保育ボランティアは、出席する人数や子どものおやつのこと等、安全に保育するための話合いにおいては、積極的に意見が出された。

<課題>

- ・継続的にボランティアの人員拡大を図る。
- ・ボランティアの声も聞きながら、安心して講座運営に関わることができるよう支援する。

3 地域連携事業

- ・地域の団体や町会へ積極的に出向き、地域の課題やニーズの把握に努め事業に反映する。
- ・町会館・学校など身近な施設を利用し、普段公民館に来られない人も参加しやすくするよう考慮し、それを通じて地域の繋がりを広げるようにする。
- ・「ふれあいまつり」は、地域団体を含む参加団体で企画段階から話し合いながら広く地域住民への啓発・交流の場として取り組んでいく。

<状況・成果>

- ・近隣地域の各種会議や防災訓練に職員が関わり、地域とのつながりを広げた。
- ・広報で近隣自治会の協力を得ながら、北小学校で「和太鼓を楽しむ」を開催した。参加者が元気になる催しとなった。
- ・コロナ禍で人が集まる事業ができないため、ロビーを活用した取り組みが多かった。「ふれあいまつり」に代わるクラブの作品の展示や演技・演奏の映像発表は、来館者に公民館のクラブ活動の様子を伝えることができた。

<課題>

- ・コロナ下でも人とのつながりが希薄にならないよう地域と連携を図りながら取り組んでいく。
- ・地域の状況やニーズに応じた事業を展開していく。

4 団体支援事業

- ・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援をおこなう。
- ・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。
- ・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

<状況・成果>

- ・講座から生まれた「元気UP体操」は今年度グループ活動を支援し、来年度からはクラブとして活動を開始することになった。
- ・利用者団体代表者会議で公民館活動の意義や重要性を伝えるとともに、クラブと利用団体に対し公民館の利用方法の説明をした。
- ・クラブ活動の「体験」の機会を設けるよう各クラブに働きかけ、広報かいつかを通じて広報し数名の体験があった。
- ・三館利用者連絡会の展示交流に対しては、場所を提供し展示をすることによって、来館者に他館のクラブについても紹介することができた。
- ・コロナ禍での活動が困難になったクラブにも、三密回避の方法を提案するなど支援に努め全クラブが活動できた。
- ・公民館大会の実行委員になった利用者連絡会の役員が初めて大会に関わる中で、重要な役割を果たした。

<課題>

- ・公民館活動に対する認識が深まるよう代表者会議の内容を検討する。
- ・引き続きクラブ活動が維持できるよう支援していく。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY				
	夏の子ども講座 ※注1				
	夏休みチアダンスチャレンジ ※注1				
	明るいおばけやしき		8/22・23	1回	95人
	コドモ防災塾 ※注1				
	+KOMINKAN (高校生・大学生の居場所)		11/1~3/21	6回	1人
	新春あそびたい会		1/8	1回	44人
子育て支援事業	子育てサロン☆ほっとスペース ※4月から10月は中止		11/10~3/23	7回	25人
	親子ふれあい体操 ※注1				
	パパサロン		7/26~12/20	4回	40人
	げんきに子育て 春 (保育付) ※注1				
	げんきに子育て 秋 (保育付)	9人	9/18~10/23	6回	32人
成人対象事業	シルバーライフ	32人	6/18~12/3	14回	342人
	ふれあい料理講座(障がい者の料理講座) ※5~7月、1~3月は中止		9/14~12/14	5回	55人
	いきいき歌体操 (高齢介護課共催講座)	22人	9/15・9/29	3回	54人
	ダイエットボクササイズ	①17人 ②16人	①10/19・26 ②10/31・11/8	①2回 ②2回	①28人 ②25人
題人権事業課	気づけば高まる人権意識		10/29	1回	28人
文化振興事業	Spring Jazz Concert ※注1				
	ロビーコンサート ※4~7月、11・12月は中止		9/10~1/14	3回	140人
	プレ浜手アフタヌーンコンサート		3/18	1回	61人
	人形劇 (せぶん セブン 7) 他		2/20	1回	32人
	歌声サロン (高齢介護課共催講座)		①9/14 ②3/14	2回	①35人 ②21人
人材養成事業	保育ボランティア	13人		8回	55人
	ふれあい料理ボランティア	12人		5回	20人
	ロビーコンサート企画委員会	6人		8回	42人
	図書整理・読み聞かせボランティア	2人			
地域ふれあい事業	プレイルーム開放			10回	25人
	ふれあいまつり ※注1				
	移動公民館「和太鼓を楽しむ」【北小学校】		12/13	1回	82人
	ロビー活用 (展示・図書・コーヒーコーナー)				
	第五中学校区地域教育協議会 (すこやかネット)				

	パークタウン(連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会)/二色校区福祉委員会				
援 団 事 体 支 業	利用者連絡会[29クラブ]	383人			
	利用者団体代表者会議		7/25・7/27	2回	29人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1回限りの事業
(参加者数は「延べ参加人数」欄に記載)、ボランティアにおいては「登録人数」

※注1は「新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止」

《展示事業》

展 示 内 容	期 間
館使用の注意喚起・講座案内映像	5/30～6/30
貝塚の昔話映像	7/2・7/3
浜手地区公民館のクラブ紹介	7/4～8/30
浜手地区公民館 光水彩画クラブ作品展	6/16～7/21
七夕飾り (放課後子ども教室活動)	6/22～7/7
一般市民作品展 【古布であそぶ】	8/6～8/20
一般市民作品展 【布あそび】	9/3～9/17
浜手地区公民館 陶芸こねこねクラブ作品展	9/28～10/12
浜手地区公民館 火曜ペン習字クラブ作品展	10/20～10/27
中央公民館 ろうの花クラブ作品展	10/27～11/10
浜手地区公民館 いけ花クラブ作品展	11/27～12/1
浜手地区公民館 書道木曜会クラブ作品展	11/12～11/27
かいづか家族の日 作品展示 (社会教育課)	11/16～11/27
活動発表映像(サラダボール・太極拳・太極拳Ⅱ・踊るママ御殿・ハーモニカアンサンブルアンダンテ・カントリーダンス)	11/1～11/15
浜手地区公民館 陶芸こねこねクラブ作品展・映像	11/16～11/30
ロビーコンサート映像 (9・10月分)	11/12～11/14
クリスマスツリー (放課後子ども教室活動)	11/15～12/25
浜手地区公民館 光水彩画クラブ作品展	12/15～1/5
浜手地区公民館【私が考える今年の漢字】	12/10～1/25
山手地区公民館 パッチワーククラブ作品展	1/26～2/1
おおぞらこども園作品展示	2/4～2/12
浜手地区公民館 油絵クラブ作品展	2/9～2/20
ロビーコンサート映像(1月分)	2/12～2/14
善兵衛ランド 移動天体写真展	2/21～3/1
識字・日本語パネル展	3/2～3/11
浜手地区公民館 人形劇きしゃぼっぽクラブ映像	3/12～3/18
海洋プラスチック ゴミ問題啓発パネル展(環境衛生課)	3/19～3/30

明るのおばけやしき（展示会）

<ねらい>

子どもや大人が工夫して作ったおばけを展示し、多くの人に楽しんでもらう。

子どもが来年の「おばけやしき」開催への意欲を持つ機会とする。

<状況・成果>

8/22 土曜日 10時～16時 参加者 73人

8/23 日曜日 10時～14時 参加者 22人

ボランティア：5人 打ち合わせ等：8/3（月）・8（土）・15（土）・21（金）・23（日）

夏休みが短縮され、例年のように子どもが主体的に活動し、またボランティアとの世代間交流を目指す「おばけやしき」はできなくなったが、家族や友達と一緒に作ったおばけ作品を募集し「展示会」という形で開催。当日は密にならないよう開催時間を長く設け常時部屋の換気をするなど感染症対策をして行った。

昨年度のおばけやしきボランティアに声をかけると、作戦会議などで子どもと一緒に関わることのないおばけやしきに否定的な意見も一部あったが、それでも5人のボランティアが協力してくれることになり、打ち合わせ日以外でも自主的に集まり次々とおばけ作品を作っていた。子どもが楽しめるようにと少し遊べるおばけを職員が作ったところ、ボランティアもさらにアイデアを出し、おばけで遊べるコーナーは徐々に充実していった。

チラシは二色・西、両小学校に配布し公民館に来た乳幼児親子にも渡した。作品の出展は3組と少なかったものの、展示会の参加者は2日間で95人となり思ったより盛況であった。出展作品には親子一緒に取り組んだ様子や子どもの工夫が見られ、ボランティアも感心していた。

当日は子どもの作品とともにボランティアや職員の作ったおばけが、電気をつけた部屋の中に並び、例年のおばけやしきとは違う光景となった。はじめは「子ども相手に活動したい」と言っていたボランティアも、作品がたくさん並んだ展示会の様子を見たり、参加者からの感想を聞くうちに、最後には「やって良かった」と感想を述べてくれた。

学校、地域でイベントの中止や延期が続き、公民館でも夏の子ども講座がなくなった。全体的に落ち込んだ空気の中、この展示会が子どもたちにとってストレス発散や楽しみの一つとなったことは確かで、またこの時期にできることを考え取り組んだことは職員の励みともなった。

【参加者の感想】

- ・こわくなかった！けどおもしろかった！
- ・遊べる作品が楽しかった！
- ・うちの子は、チラシを見てカレンダーのこの日に○をつけて楽しみにしていました。

【ボランティアの感想】

- ・参加者がたくさん来てくれたのが嬉しい、やって良かった。
- ・展示会という形で、いつものおばけやしきではできないことができたと思う。
- ・とくに子どもたちの作品は、親子で作ったもの、工夫を凝らしたものがありとても良かった。



<課題>

感染症対策を考慮しながらも、子どもたちがより参加・活躍できる場を作るよう努める。

新春あそびたい会

<ねらい>

子どもたちが地域ボランティアから昔遊びやおもちや作りを教わり交流を深める。

昔遊びの伝承。異年齢・異世代との交流。

<状況・成果>

新春あそびたい会 1/8 金曜日 13時半～15時 参加者：44人 遊びボランティア：20人

遊びボランティア打ち合わせ 12/7 月曜日 14時 遊びボランティア：10人

今年はコロナの影響で小・中学生の夏休みも短く、青少年が公民館で過ごせる機会が少なかった。そのため感染症対策に頭を悩ませながらも、開催できる方法を考え3学期の始業式に新春あそびたい会を計画した。「広報かいつか」掲載と二色・西各小学校へのチラシ配布で事業の広報をはかり、遊びボランティア（以下、ボランティア）の募集は別途、ロコミ・ポスター等で行った。

ボランティアとの打ち合わせでは、昨年の内容や配置図などを見ながら、作る予定の工作や遊び道具の確認、各コーナーの場所、ボランティアの人数制限などを話し合って決めた。数年前から、子どもたちの参加が減少しているため、会場は2階のみとしていたが、今年度は密を避けるため、1階の講座室も加え分散して開催することにした。また、どのあそびコーナーにも子どもたちが立ち寄るようにできる工夫として、スタンプラリーを行った。台紙の裏には、遊びの内容と場所を表示し、まだスタンプをもらっていないあそびコーナーへも行くように促した。

当日、1階ロビーで、手指消毒とヘルスチェックシートの記入、スタンプラリーの台紙に名前を記入するなどの受付を済ませ、最初は全員がホールへ集合した。始めるに当たり、感染症の注意事項やスタンプラリーの説明、ボランティアからは遊びの紹介などを行ってからスタートした。

ホールでは、毎年好評のまとあてや昔あそびのコマ回しなどに加え、小さい子どもでも遊べる坂道コロコロ、今年流行したアニメ「鬼滅の刃」の刀作りなどがあり、ボランティアに遊びや工作を教えてもらいながら、どのコーナーも子どもたちで賑わっていた。講座室で行っている折紙や工作は、毎年時間内に終わらないことが課題となっていたため、講座室の遊びの受け付けは30分前までに終了することを、ボランティアおよび子どもたちに周知徹底したところ、時間内に終了することができた。和室では、競技かるた大会に出場経験のある人が急きょボランティアとして百人一首の読み手をしてくれ、子どもたちは読み手の声に耳を澄ませ札と向き合っていた。他の会場とは異なる静かな空気感を他のボランティアと一緒に味わいながら、子どもたちも楽しんでた。

今年の特徴として、どのあそびコーナーでも子どもたちが集中して遊んでいる様子が見られ、次々と子どもが来るため、担当しているボランティアは休憩する暇もなかったようだ。スタンプラリーは、子どもがどの会場にも足を運ぶきっかけ作りとなり、またボランティアにスタンプを押して貰う際にも会話が生まれるなど一つの交流機会となり、ボランティアの反省会でも「今年の新春あそびたい会はよかった」との感想が多かった。

会場	あそび内容			
ホール	まとあて	坂道コロコロ	けん玉・コマ回し	刀作り
和室	百人一首	坊主めくり	おはじき	
講座室	ぶんぶんゴマ、風車などの工作			おりがみ

<課題>引き続き感染症対策をとった開催方法を検討する。



子ども居場所事業

<ねらい>

ロビーを放課後や週末の子どもの安心安全な居場所として提供する。

中高生の自主的な活動を支援するために相談に応じ、交流できる場を提供する。

高校生・大学生の居場所（+KOMINKAN）を作る。

<状況・成果>

今年度は、緊急事態宣言が解除されてからもしばらくの間はロビーに小学生の姿はほとんどなく、たまに高校生や大学生がスマホやパソコンを見ながら勉強したりする程度だった。いつもなら子どもが気軽に使えるようゲームや卓球を貸し出しているが、感染の不安からしばらくの間貸し出し不可としたため、たまに来る小・中学生が手持ち無沙汰ですぐ帰ってしまうこととなった。

ロビーでのコロナ対策としては、マスクの着用と手指消毒、30分以上の利用ならヘルスチェックシートの提出を依頼、また3密を避けるために椅子の数を減らし対面になるテーブルにはパーテーションを置き換気するなどした。ロビーのテレビ画面に「公民館の利用について」をスライドショーで流しつつも、子ども達にはその都度言葉で伝え協力してもらった。

6月下旬からオセロや卓球など一部のゲームの貸し出しを再開し、用具を使った後は消毒を行った。この頃には子ども達自身もマスク着用など対策を心がけているが、複数で遊びに来てゲームや卓球に夢中になったりするとどうしても密になるので、離れて遊ぶように声かけが必要だった。

「はまて子どもパーク」（社会教育課主催の「放課後子ども教室」）については、ボランティアに相談すると、学校が始まっているならやるという迷いのない返事で6/4から再開した。しかし、やはり子どもが折り紙などをすると顔が近づいてくる。時々離れて遊ぶよう伝えるが、またその繰り返しで感染の不安の拭えない緊張の一年であった。特に高齢者が多いボランティアへの不安が大きくなるが、ボランティアの“やりたい”という気持ちを尊重した。これからもボランティアが関わることで成り立っている事業に対しては、コロナの不安や個々の意見が聞ける場を作り、公民館と市民と一緒に考えて進んでいくことを大事にしていきたい。

《レッツ TRY・+KOMINKAN》

レッツ TRY：登録団体 1 組

+KOMINKAN：11/1・15・12/6・1/17・2/28・3/21 日曜日 13時～16時 参加者 1人

夏に高校生からダンスの練習で部屋の利用の問い合わせがあった。レッツ TRY に登録し月 1～2 回のペースで利用していたが、グループのメンバーが来られない時に一人でも練習がしたいとの申し出があった。レッツ TRY では一人での利用ができないことを伝えると、2 ヶ月ほど館に来なくなった。その他にも、コロナ禍で大学へ通えず公民館へ来ていた大学生がいたり、リモート授業が続き外へ出かけることが少なくなったという話を聞き、気になっていた。そこで高校生や大学生が一人で来館しても自由に過ごせる場「+KOMINKAN」を企画し、11月から月 1 回程度、不定期でホールを開放した。ただ、3月に第五中学校の3年生を対象に体験会を開催するも参加者は増えず、これからは参加者を増やすためにさまざまな工夫をしていく必要がある。

<課題>

引き続き感染症対策を講じながら、誰もが安心安全に過ごせる場をつくる。

レッツ TRY や+KOMINKAN 事業ではチラシや声かけで中高生・大学生への周知にさらに努める。

コドモ防災塾

<ねらい>

子どもたちが防災に関する知識を学び、活かせるようにする。

<状況・成果>

9/20 日曜日 13時半～15時 ※コロナの為中止

対象：小学4年生～中学3年生 定員：20人

講師：山本 雅則（気象予報士）

「コドモ防災塾」では、2014年度以来ずっと地震に対する知識・備え・対応について様々な形で取り上げ学習してきた。しかし、地震については学校教育の中で継続して学習していることもあり一定の知識を習得していることから、内容の見直しが課題となっていた。その中で、近年気候の温暖化傾向と相まって台風の大型化・豪雨被害が増えていることから、今年度は「台風まるわかり！」をテーマに講座を開催することとし、講師は、自前でも学校や公民館等に出かけ「楽しいお天気講座」に取り組んでいる日本気象予報士会関西支部に依頼した。

8月、募集開始直後に講師から、本業職場で遠方へ転勤になりコロナ下の移動制限もあって来館できない、関西支部でも検討したが講座開催に必要な人員を確保できないとの相談があった。

しかし、この段階で内容や時期を変更すると広報の関係からも台風シーズンから外れてしまい、講座そのものを一から組み替えなければならなくなるため、今回はやむなく中止とした。

<課題>

内容・時期・講師選定等についての再検討が必要。

パパサロン

<ねらい>

転居の多い地域性を考慮し、新しい参加者の取り込みと、継続した父親の仲間づくりをめざす。また、家族で参加できる機会を設け父親の参加を促す。

<状況・成果>

5月～12月 第4日曜日（8、10月休講 12月は第3日曜日） 10時～12時（全4回）

※5月～6月はコロナの為中止 参加者 13組（30人） 延べ 17組（40人）

月/日	内容	講師（協力）	参加組
5/24	日曜文化サロン／畑づくり	Beatles Band “Beasmil” ／パパサロンボランティア	—
6/28	日曜文化サロン／七夕飾り作り	中央公民館室内楽クラブ／相互	—
7/26	水遊びを楽しもう／トマトの収穫	相互	3組 7人
9/27	段ボール工作でだんじりを作ろう！／さつまいもの収穫	相互／パパサロンボランティア	2組 6人
11/22	さつまいもの収穫／炭でやきいも作り／新聞紙でテントハウス作り／チューリップの球根植え	相互／パパサロンボランティア	5組 12人
12/20	牛乳パックでランプシェードを作ろう！	相互	7組 15人

パパサロンの参加者獲得の為、昨年度は家族参加ができるイベント（公開講座）を数回取り入れたが、思ったほどの参加が見られず、音楽などのイベントの際には、一般の利用者が大人だけで参加してもよいかとの問い合わせもあった。そのため今年度はパパサロンの前半部分を一般参加可の「日曜文化サロン」として一緒に鑑賞し、後半を親子のみを対象とした内容で考え5月、6月の講座を計画した。しかし、感染症による緊急事態宣言が発出されたため、今年度の日曜文化サロンは開催できなかった。3密を避けるため定員は8組に設定し、また1～3月はその他事業との重複・気候・感染症を考慮し今年度は開催しないこととした。

パパサロンは7月から再開したが、初回の水遊びは新しい親子も参加しやすい内容のため、初めての親子が3組参加してくれた。利用制限が緩和された直後で緊張感があったが、元気に親子が遊んでいる様子をみて安堵した。夏・秋の地域の祭りが全て中止となった9月には、段ボールでだんじりを作った。だんじりや工作好きな親子が小学生の兄姉と参加し時間いっぱいまで制作に励んだ。制作しただんじりを「そ～りゃそ～りゃ」と歌いながら担いで嬉しそうに持ち帰る様子が印象的だった。ボランティアと一緒にいる畑づくりは今年で4年目となるが、講座の中止が続いたため、春の苗植えをボランティアと職員で行い、参加者親子には7月にトマト、9月と11月にさつまいもの収穫をしてもらった。11月に収穫したさつまいもは持ち帰ってもらい、当日は事前に準備していたさつまいもを使ってやきいもを作った。火おこしに少々手間取ったが、新聞遊びをしながら出来上がりを待って食べた熱々のやきいもは好評で、「すごく甘くて美味しい」、「家でもやきいも



をしてみよう」と話す参加者もいた。

感染症に加え乳幼児親子の利用が徐々に減ってきているため、積極的な宣伝ができなかった。しかし、コロナ禍で他のイベントの多くが中止となり外出制限等で親子が遊べる場所が少なくなったためか、どの回も初参加の親子がいた。参加者減少に伴い継続開催を一旦休止することも考えたが、コロナ下だからこそ身近な公民館に参加者が戻ってきたようだ。

<課題>開催日時・内容、広報等の工夫。

げんきに子育て(秋)

<ねらい>

子育て仲間と一緒に学んで交流し、子育ての情報を学ぶ機会とする。

<状況・成果>

9/18～10/23 毎週金曜日（全6回）受講者7人 保育7人

「げんきに子育て」は、感染症の影響で春講座が中止となった。感染症に加え3公民館の保育付講座の受講者がここ数年減少していることもあり、3公民館で後期講座の開催方法について話し合った。その結果、これまで3館同時期に開催していた保育付講座を浜手9～10月、中央11～12月、山手1月以降と時期をずらし、また浜手地区公民館（以下、浜手）は回数（9回から6回）、保育定員（15人から8人）、講座時間（120分から90分）に変えて開催した。保育については、おやつは各自持参とし、ボランティア体制、おもちゃや備品・床の消毒について確認を行った。

浜手は、3公民館の中で例年より少し早い9月から先行して開催した。気候の良い時期であったが、感染症の対策など他館の動向をみることが出来ない手探りでの開催に苦慮した。

初回は、保育ボランティアと受講者親子（7組）の顔つなぎの日。ボランティア・受講者・職員がともに感染症に対し緊張感を感じながらのスタートとなった。今年度のプログラムは、昨年度の受講者の声をもとに組まれたが、コロナ禍で家の中で過ごす機会が増えた今年ならではの情報や悩みも含め学習し皆で共有する機会とした。第2回では、あそびから集中力を高める方法やおもちゃの紹介・イヤイヤ期などよくある悩みの解決法（9/25）を学んだ。事前に講師に聞きたいことや悩んでいることなどのアンケートをとり、その質問に時間の許す限り話してもらった。講師と受講者が顔なじみの人が多く、受講者も気軽に質問をしていた。第3回の子どものストレスを解消できる外遊び（10/2）では、久しぶりに子どもたちがのびのび遊べる機会となった。子どもたちが新しい遊びを発見し楽しそうに遊んでいる姿を見て、大人たちも子どもから元気を貰いながら過ごしていた。第4回の小さい子どもがいる家庭ならではの整理・収納方法（10/9）では、子どもが拾い集めた蟬の抜け殻やどんぐりなど、捨てるに捨てられない物が溢れてしまう悩みなどがあげられた。なかなか捨てられない物は写真に残して処分する方法など子育て経験談を交えてアドバイスしてくれた。第5回、6回は、「自分色の世界」や「選択する力」をサブテーマに母親の生き方や自尊感情などにスポットを当て子どもとの関わり方、接し方など子育てで大切にしてほしい事（10/16・10/23）などを学んだ。グループワークでは、子どもが親にされて嬉しい事、嫌な事を実際に体験した。子どもが自分の意志で楽しく行動することが発達につながることを学び、改めて子どもの接し方を考える機会となった。

回数や時間を短縮したので、ゆっくり交流できないことが懸念されたが、受講者同士も顔なじみが多く、自然と交流ができていた様子だった。また、感染症と気候の変化の影響で欠席が2、3組あるときは寂しい状況であったが、

日時	内容（講師）
9/18	はじまり（相互）
9/25	子どもの成長と遊び（すすく子育て応援隊）
10/2	親子レクリエーション（保育ボランティア）
10/9	ストレスのかからない収納術（まちのすぐれもの 藤田真由美）
10/16	乳幼児を育てるお母さんに伝えたい事（NPO法人え〜る）
10/23	乳幼児を育てるお母さんに伝えたい事（NPO法人え〜る）

—子育て支援事業—

講師や受講者同士が気軽に意見交換をしながら過ごすことができた。



【受講者の感想】

保育ボランティアさんが、子どもが好きで、子育て中のお母さんたちを応援したいという気持ちが伝わり、安心して預けられました。今回、おやつ持参になったのですが、家でおやつを自分で選んで「早く行きたい」と言ってくれたので、よかったです。はじめは泣いていたのですが、楽しく通うようになり、成長が見られて嬉しく感じました。／風邪でお休みすることが多く残念でしたが、どの回も参考になる話でためになりました。わきあいあいとした雰囲気の中で話が出来てリフレッシュにもなり楽しかったです。／市民の森での外遊びがすごく楽しかった。ボランティアの方がたくさん用意して下さって子どもがたのしく遊べた。とても感謝しています。

<課題>

引き続き感染症対策を考慮し、他館と保育付講座の持ち方を共有し検討する。

子育てサロン☆ほっとスペース

<ねらい>

0歳から未就園児親子の居場所・交流の場。

子どもの“あそび”について考える場。（子育てサロン de 造形あそび）

<状況・成果>

第2・4火曜日 10時～12時 参加者延べ12組（25人） ※4月～10月はコロナの為中止

「子育てサロン de 造形あそび」：1/26・2/9・3/9・3/23 10時半～11時半

以前より「子育てサロン☆ほっとスペース」（以下、サロン）と「すくすくサロン」の利用者が減っており、昨年度9月からはサロンを一本化し第2・4火曜日の午前に子どもの対象年齢を広げ開催している。ただ今年度、緊急事態宣言が解除されてもしばらくの間は、感染症の心配からサロンは中止とし、乳幼児親子の居場所づくりについてはプレイルーム開放（地域連携事業）で補っていた。

そんなコロナ下でも講座やロビーに来る乳幼児の母親からは、「行き場を探している」という声が聞かれた。“怖いと思う人は来ない、必要な人が来る”という考えのもと感染症対策をしっかりと行い11月よりサロンを再開し様子を見た。また昨年度、サロンの時間帯に学びの要素を取り入れようと始めた「おやつDeサロン」も感染症の心配から内容を変更し、1月から「子育てサロン de 造形あそび」として行うことにした。

サロンを再開した頃は誰も来ない日もあったが、「表のポスターを見て」とはじめての親子がふらりと遊びに来たりして、1月からは3組程度の利用がある。

長期間休止した講座の参加者を増やすことには苦慮するが、館に来る親子への声かけと広報の公民館のページでこまめに情報提供していく必要がある。

<課題>

コロナ下でも安心して参加できるようサロンの内容を工夫する。また、引き続き広報の方法についても検討する。

ふれあい料理講座

<ねらい>

料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供する。受講者とボランティアの交流・育ちの場とする。

<状況・成果>

9/14～12/14 第2月曜日(12月は第1・2週)10時半～12時半(全5回)

受講者 延55人(内、指導員 延20人) ※5～7月および1～3月はコロナの為中止

浜手地区公民館の「ふれあい料理」では、毎回、いぶき作業所・社会福祉法人どんまい・ワークサポートセンターらばんの施設利用者が指導員とともに参加しており、ボランティアの手助けを得ながら、調理・配膳・片付けまでを行っている。

今年度も当初は5月から開催の予定であったが、コロナの感染拡大およびそれに伴う休館措置等の状況を判断し、9月からの開催とした。開催にあたっては、調理・食事を内容とする講座のため細心の注意が求められ、マスク着用・手指の消毒はもちろんのこと、密を避けるために受講者・ボランティア双方の人数を半数とし、食事の際は隣席との間隔を空け対面の人との間にパーテーションを置くなどで対応した。また、“多くの受講者に楽しい思い出を”と希望者を全員受け入れ、料理はボランティアが全員で作っていた例年のようなパーティー形式のクリスマス会は行わないこととし、その代わり開催回数を増やし飾り付けや食事時の音楽等で雰囲気を楽しめるよう工夫した。

初回の9月は、ボランティアが従来半分の人数で対応しなければならなかったため「手順の確認をしたい」ということで自分たちだけで調理することとし、10月からは受講者と一緒に調理するようになった。障がいの程度によって参加できる調理内容に違いはあるが、食事の際ここで覚えた料理をレシピを見ながら家でも作っていると楽しそうに話をする人もいる。

参加3施設ともに例年のような行事・催しが中止となり楽しみが減っていたため、受講者たちは公民館に出かけること・調理し食事できることを楽しみにしているようで、変則的ではあっても講座が開催されることを、指導員もともに喜んでいた。

変則的ながらも順調に進むかと思われていたが、冬場の感染拡大へのボランティアの不安感から「中止」とせざるを得ない状況が続き、改めてコロナ下の調理関係講座開催の難しさを感じた。

月日	メニュー
9/14	カレーライス・ひじきとキャベツのツナサラダ・フルーツゼリー
10/12	カレーライス・キャベツのツナサラダ・フルーツゼリー
11/9	ビーフシチュー・ごはん・コールスローサラダ・フルーツポンチ
12/7・14	ポテトグラタン・ロールパン・マカロニサラダ・具たくさんスープ・フルーツ、(唐揚げは購入)
1/18	クリームシチュー・ごはん・唐揚げ・アイスクリームフルーツ添え <中止>
2/8	鮭寿し・豆腐のおすまし・ほうれん草のおひたし・アイスクリームクッキー乗せ <中止>
3/8	煮込みハンバーグ・ごはん・ポテトサラダ・あんみつ <中止>

<課題>

次年度もコロナ対応が必要になると想定されるため、状況に応じてボランティア・施設指導員とも協議し、中止を含む適切な対応を心掛けることが必要である。

シルバーライフ

<ねらい>

高齢者（65歳以上）の居場所・仲間との絆づくりの場。

社会情勢などに目を向け関心をもつ場。

<状況・成果>

6/18～12/3（8月休講）木曜日 10時～12時 全14回（19日） 受講者32人

※5/14～6/11までコロナの為中止

5/14に予定していた開講式は、コロナの影響で公民館が閉館となったことから1ヵ月ほど延期し、年間プログラムも声を出すものや調理を伴うものは内容を変更しての開催となった。また、部屋の使用人数に制限ができたため、講座室利用の日は受講人数を半分に分け、同じ内容を2日かけて全員が受講できる形とした。

5月に入ってまもなく昨年度からの継続受講者26人、新規の申し込み者6人に電話連絡をとり、開講式延期のお知らせをしてそれぞれの近況を聞いた。外へ出るのが怖いから今年度の受講をやめるといった声や、反面外へ出る機会が減り筋力の衰えや人とのつながりの減少を危惧する声も聞かれた。開講式後に受講したいという問い合わせもいくつかあり、今年度に限り年度途中の受け入れも可としたので、前半は入れ替わりが多く落ち着かない部分があった。

前期は3回の講座となり、2回目の「貝塚の歴史」では戦国時代の貝塚市域について学び、講座後受講者たちは話に聞いた寺内町の様子を実際に見てみよう、自主活動として「みんなで歩こう～貝塚寺内町～」を企画・実施した。また3回目の交流会では、後期にやりたいことを班で話し合った。その後班長4人が集まり話し合うときには、コロナ対策の制限がある中でできる内容を考えてもらった。食事会やバス旅行は見合わせたものの、感染という不安の中でも全員で交流することを望む人が多いことが分かった。

後期は受講者の意向を取り入れた結果、「グランドゴルフ」や自然遊学館のトンボ池見学など野外活動が多くなったが、メンバー同士の交流とずっと続くコロナ禍でのストレス解消にもつながった。特に「グランドゴルフ」は班長を中心に計画や準備を任せただけで、その一連の作業からより一層メンバー同士の親密さが増した。

講義では特に「今日から始める健腸生活」や「認知症予防の話」等で“フレイル（虚弱）”という言葉がキーワードになった。高齢者にとってコロナは怖いけれど、フレイルにならないよう正しく恐れて、生活の中に外出や運動、人とのつながりも意識して取り入れていくよう努めることが大事だという話だった。リアルタイムな話に、聞いている人たちはみな深く頷いていて、「シルバーライフがあって良かった」という人もいた。その様子から、公民館はコロナ禍の中でもしっかりと対策をとり講座事業を運営して、学びを継続させていく必要があると考えさせられた。公開講座として行った「人権講座」は落語家の話がとても聞きやすく「良かった」「感動した」という感想が多かった。「日本経済の話」は受講者の一人が講師となり、話が終わった後も普段のおしゃべりの延長のように質問や意見が出た。特に男性メンバーにとって興味のある内容のようで「また聞きたい」との声があった。

今年度は、ふれあいまつりや三館高齢者交流会が無くなり、また2組に分かれての活動が多かったため、野外活動を取り入れたものの、「例年のように全員で集まってにぎやかに楽しくの雰囲気

は少なかつたかな」と感想にあるように、全体で取り組む活動が例年より少なくメンバー全員の絆作りは難しかった。ただ、来年度も感染症対策は必要だと考えると、引き続き小さな規模から広げる仲間作りを目指して取り組んでいきたい。またシルバーライフ講座においては継続受講者も多く講座期間も長いことから、コロナによる新しい生活様式について等、時期を見て受講者と一緒に考える機会を作り、皆が納得して行動していけるよう心がけていきたい。

回	月日	内 容	講 師
1	6/18	開講式（自己紹介ほか）	相互
2	6/25・7/2	貝塚の歴史	郷土資料室職員
3	7/9・7/16	夏休み前の交流会・近況報告しましょう	相互
4	9/3	交流会・DVD鑑賞「生命のことづけ」	相互
5	9/10・10/8	今日から始める健腸生活	近畿ヤクルト販売株
6	9/17・10/15	簡単な手話を学ぼう	障害福祉課職員
7	9/24	歌声サロン（公開講座）	歌声サロンメンバー
8	10/1	認知症予防の話	今岡真和（大阪川崎リハビリテーション大学）
9	10/22	トンボ池の生物（自然遊学館にて）	自然遊学館職員
10	10/29	人権講座（公開講座）	桂七福（落語家）
11	11/5	グランドゴルフ（市民スポーツ広場にて）	相互
12	11/12・11/19	日本経済の話	町田昌弘（シルバーライフ受講者）
13	11/26	修了式・自主活動について	相互
14	12/3	修了式	相互
自主活動（4回）：1/14「DVD鑑賞・貝塚みずまお夏清十郎ハレッタ」、2/4「卓球バレー」、3/18「みんなで歩く～貝塚寺内町～」、4/8「グランドゴルフと花見」			

【感想】

- ・私は貝塚に来てあまり日がたってないのですが、シルバーライフに来させてもらって本当に良かったと思っています。
- ・コロナで全体で学ぶ事がなく、知人とも会えず淋しい思いがしました。
- ・認知症予防のため、外出をして人とのお話に心がけたいと思います。
- ・来る・来ないがややこしかった。
- ・今年の講座はコロナ感染のため中止の月もありましたが、振り返ってみれば結構講座有りで良かったです。



貝塚の歴史



認知症予防の話



トンボ池の生物

<課題>

引き続き感染症対策を考慮しながらより良い講座運営の仕方を考えていく。
年度途中の受講希望者については、後期にも募集をかけるなどで対応する。

いきいき歌体操（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

運動が苦手な人でも楽しく体を動かすことができる歌体操を知り、60歳以上の健康維持・増進に役立てる。

高齢者が孤立しない仲間作りの場を提供。

<状況・成果>

9/1、9/15、9/29 火曜日 10時～11時半 （全3回） 受講者21人

指導：いきいき歌体操グループひらり

健康維持と仲間づくりをめざし、筋力アップと健康寿命を延ばす歌体操の講座を行った。指導は、「寝たきりにしない、させない、作らせない」をモットーに地域で活動している「いきいき歌体操グループひらり」に依頼した。感染症リスクの高い「歌」と「運動」を伴う歌体操は、講座を計画する段階から開催できるか緊張感がつきまとったが、感染症対策をしっかり取るよう受講者にも声掛けしながら行った。受講することに不安を感じる人もいたが、何もできない日が続いた後のこの時期には、自宅で引きこもる生活に危機感を感じている人も多く、直前まで申し込みが続いた。

各回の曲のテーマを「春」「夏」「秋」とし、懐かしい曲の歌唱や、音楽に合わせて手指の運動から全身運動まで行った。最初のウォーミングアップでは、歌詞を見ながら声を出して脳や肺機能を刺激し、徐々に認知症予防やストレス解消、若返り効果にもつながる運動へと移行していった。学校唱歌から歌謡曲まで馴染みの曲が流れると、少し疲れて座っていた人も、歌に合わせて気持ちよさそうに体操し、時々笑い声もあがっていた。2回目以降には体操の動きを覚えている人も増えてきて、季節を感じながら歌体操を楽しんでいた。

また2回目の講座に広報交流課の取材が入り、10月の市広報紙に掲載する可能性を伝えたところ、紙面に載ることを意識してか、指導グループも受講者も熱心に取り組んでいた。講座終了後に、受講者が「広報に歌体操が載っていたね」と嬉しそうに話してくれ、広報を見てもらう良い機会にもなった。

90分間の歌体操は疲れが出ないかと心配したが、「私たちが来られる場所を作ってもらえてありがたい」「久しぶりに体を動かして気持ちがよかった」とすっきりした表情で伝えてくれた。季節の変わり目で少しずつ涼しくなってきたこと、またコロナ禍で自粛生活が続いた後で体の冷えや低血圧となり講座を欠席するべきか悩みながら参加した人は、講座終了後には体が温まり明るい表情で「気持ちよかった」と話してくれた。

今後もコロナ下での講座の持ち方には工夫を要するが、今回はコロナ禍の中だからこそ受講者も運営側も共に公民館に集い学ぶ喜びと高齢者の継続的な運動の大切さを実感することができたと言えるだろう。

—受講者の感想—

またこの様な体操、楽しみにしています。／どれもこれも知っている歌で楽しく歌いました。／どんな歌でも振付ができ体操ができる事がよかったです。／ゆったりした動きがとてもついていきやすくて楽しかったです。／日本の昔の歌詞とメロディーが美しいと再認識致しました。とても楽しかったです。ありがとうございました。／歌に合わせての動きがスムーズに、とてもしあわせな気分です。3回出席できました。

<課題> 他課との共催講座の継続。高齢者の健康維持につながる講座の充実。



ダイエットボクササイズ

<ねらい>

平日の昼間にあまり公民館の利用ができない働く世代にも関心の高い内容とし、公民館活動を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

① 10/19 月曜日、10/26 月曜日 19時～20時 受講者 16人

② 10/31 土曜日、11/8 日曜日 10時～11時 受講者 17人

講師：梅本道代（Physical Heart® 代表 NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事）

過ごしやすい季節にしっかり運動することで、ストレス発散やシェイプアップにも効果のあるダイエットボクササイズを取り上げ、初めての人でも楽しく気軽に身体を動かす機会とした。今年は感染症の影響により、講座依頼を行った7月は開催できるかどうかの判断に悩む内容や時期であったが、コロナ下の今だからこそ免疫力を高める必要もあり依頼したところ、講師は中止の可能性も含んだ上で快く引き受けてくれた。

働いている世代でも参加しやすいように、月曜日の夜2回と土日の午前2回に分けて募集を行った。土日の申し込みが思ったより少なかったため、月曜日の受講者に呼びかけ、そのうちの数人が土日にも受講してくれた。

ダイエットボクササイズは、いろんなパンチの動きをピッチコントロール機能の付いたアンプを使い軽快な音楽にのせて行った。講座のはじめに受講者に尋ねたところ、「ダイエットボクササイズが初めて」、「運動が久しぶり」の人がほとんどだったので、初日は構えやワン・ツー・フックのパンチの型をゆっくり確認しながらすすめてくれた。二日目にはダッキング（屈伸）、ウェイビング（逃げる動作）などの足の動きや、参加者の動きを見ながらアッパー（パンチ）も取り入れ初回よりもアップテンポのリズムに合わせて行った。土日は月曜同様ウォーミングアップからゆっくり進め、また空手経験のある講師ならではのキックや裏拳などもプログラムに取り入れていた。講座終了時には、ファイティングポーズが様になり、ほぼ全員が半袖で受講していた。しっかり負荷をかけたエクササイズだったのでマスク着用は息が苦しそうであったが、講師が休憩をこまめにとってくれ、運動が久しぶりの人でも楽しく汗を流していた。

講座終了後には、直接講師にダイエットボクササイズはどこで受講できるか尋ねる人や、担当職員にクラブにはならないのか尋ねる等の声もあった。クラブ・グループができることは望ましいが、感染症対策中でもあり、平日の夜や土日には人数が集まりづらい等も考慮し今回は見送った。

—参加者の感想—

楽しかったです。日頃使っていないところが翌日には筋肉痛が……。こんなに気持ちよく汗をかくことがなかったので嬉しかったです。／普段、運動をしていない私でも、何とかそれっぽくついていけるように、まめに休憩をとってもらえたので、ありがたかったです。先生がうまく参加者のテンションをあげてくださる声掛けをされていて、とてもよかったです。／初めてのボクササイズで最初は不安でしたが、とても楽しく2回目がとても楽しみになったし、終わってみて受講してよかったと思いました。



<課題>若い世代に関心の高い内容や開催日時を設定する。また継続的な公民館利用に繋げる。

気づけば高まる人権意識

<ねらい>

普段の生活のなかにある人権課題に気づき理解する。

<状況・成果>

10/29 木曜日 13時半～15時 参加者28人 講師 桂 七福（上方落語家）

今回は落語家として活躍しているだけでなく、日本国内や海外の日本人学校でも人権講座をしている桂 七福さんを講師に招き開催した。講演型の開催でと依頼したが、参加者は高齢者の方が多いと伝えると、「では、舞台を用意してください。着物も着ます。」との話になり、急きょにわか演芸舞台を用意した。

当日、最初の話は街頭でのインタビューの話を出し、「普通の人」という言葉でもその言葉を発した場面や言う人と聞く人の心の在り方で不快な気持ちにさせてしまうことがあると言うものだった。

また「普段親しい間柄で、攻撃するつもりもなく発した言葉でも、相手を不快な気持ちにさせたと思ったら、その時は謝りにくいけどすぐに謝った方がいい。」と話し、言われると少し耳が痛い言葉も落語家らしい言いまわしで自然に聞くことができたようだった。

古典落語のなかに出てくる言葉で今は差別用語としてほとんど使われていないものがある。しかし落語では、前後の話の流れや意味あいからその言葉を使わずに言い替えて話すことが難しい話がある。そのためそれらの言葉が含まれる落語の演目の中には、テレビ・ラジオではできないものがあるとのことだった。「普段、電波には乗せられない話が、今日は人権講座の“例”としての話だったので、久しぶりに思い切り話すことができて、よかったです。」と講師が会場にお礼を述べると、「こちらこそ」と小さくつぶやいている人が何人かあった。

1時間30分の間、講師は立て板に水のごとく話しきり、最後の2分は噺家らしい言葉遊びのクイズで、会場にはクスクスと笑い声がきこえ、参加者の笑顔で終了した。

【アンケート結果】

言葉の大切さ。/受け取り方で相手にすぐに、伝える。/落語の中の上下関係は文化。

「普通」という言葉 /発信した言葉より受け手の言葉が感情に左右する。/人権について考えたことがなかったので、「普通」という言葉すらむずかしいと思いました。

<課題>

人権のことをいろいろな切り口で、わかりやすく考える機会を提供していく。



人形劇

<ねらい>

子どもから大人まで、生の人形劇を楽しむ。

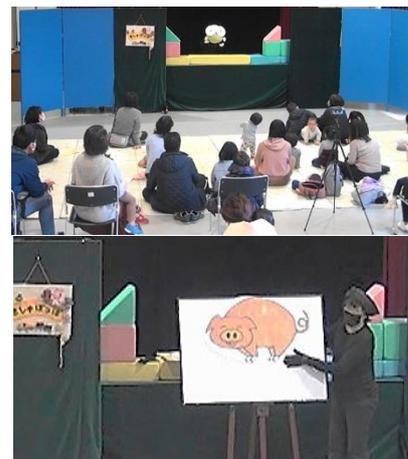
公民館や地域で活動しているグループの交流、発表の場とする。

<状況・成果>

2/20 土曜日 10時半～11時10分 参加者32人

出演：人形劇きしゃぼっぽ（浜手地区公民館クラブ）3人

演目：せぶんせブン7、パネルシアター おおきくな～れ、
「だるまさんが」シリーズ



出演は、浜手地区公民館クラブ「人形劇きしゃぼっぽ（以下、クラブ）」のほか、おおぞらこども園の先生たちのグループ「おおぞら劇団（以下、劇団）」にも依頼したが、コロナ下での人形劇開催であることに加えこども園が園外との接触を断っている経緯もあり、劇団の出演は中止となった。

開催予定の2月はコロナの影響を受けやすい季節であることや、何度も繰り返すコロナの波に不安がつきまとった。万一、事業が中止となった場合でも、人形劇の映像を録画しロビーで流すことも視野に入れ計画した。

演目の確認、当日のプログラムや準備等の打合せを行い、公演は30分で開催することになった。1団体での公演はクラブの負担が大きいのではないかと心配したが、普段から施設訪問等で30分の公演を行っていることもあり、負担は思った程ではなかったようだ。しかし、コロナ下の練習はマスク着用で呼吸が苦しく、夏場は特に大変そうだった。

「せぶんせブン7」は、クラブ員にとって初披露の作品で、前日や当日の直前まで改善・変更を繰り返しながら熱心に準備していた。7人の小人たちが出てくる音楽劇で、小さい子どもたちには少し難しい所もあったが、親たちは子どもと一緒に音楽に合わせて体を揺らしながら鑑賞していた。また、パネルシアターでは、クラブ員が会場の子どもたちに“おおきくな～れ”のかけ声を呼びかけ、一緒に唱えるとケーキやたまごが大きくなる様子に子どもたちが徐々に舞台に近づき引き込まれていた。絵本でおなじみの「だるまさんが」シリーズでは、クラブ員の声に合わせて、親が子どもに語りかけている光景が多く見られた。また今年度は大人のみでの参加も複数あり、世代を問わず人形劇を楽しむことができたようだ。

今年度は劇団の出演やこども園の園児の参加が叶わず、当日の参加者は半分程度にとどまった。しかし、こんな時期だからこそ、人形劇を見ることができたこと、親子で楽しい時間を過ごせたことを喜ぶ声も聞かれた。またクラブ員も、練習やリハーサルにはない本番での子どもたちの反応に応じて、演技にアドリブが増えるほど熱が入り、出演時間いっぱいまで参加者は楽しんでた。

—感想—

せぶんせブン7の雨のお人形がかわいかったです。音楽とよくあっていました。／人形劇は子どもも集中して観ていました。色々なものがでてきて、「あれクマやなあ。カエルやなあ」を話しながら子どもなりに楽しんでいる様子でした。／かわいいキャラクターや楽しいお話でとてもいい土曜日の午前中、家族で過ごせました。ありがとうございました。／1才の子どもでも集中して最後まで見ていました。だるまさんの絵本が大好きで一緒に身体をゆらして見ていました。ありがとうございました。

<課題>感染症に配慮した人形劇開催方法の検討。

歌声サロン（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

ピアノの生演奏を味わいながら、参加者がそれぞれリクエストした曲を歌う参加型の文化事業を楽しむ機会とする。歌を楽しむと共に、体に負担のかからない健康効果を図る。

<状況・成果>

- ・9/24 木曜日 13時半～15時 15分 参加者 35人
- ・3/14 日曜日 13時半～15時 参加者 21人

指導者：ボーカル&司会 深海勝也、ボーカル 村田貴子 ピアノ伴奏：佐藤由行

歌声サロンは、懐かしの曲をリクエストしみんなで歌う参加型事業であり、ピアノの生演奏を味わいながら声を出して歌うことで健康効果も高く、高齢者にも好評である。平成28年度の初回開催を皮切りに、平成29年度は一旦開催を見送ったが、平成30年度からは高齢介護課と共催講座で継続開催し、今年度も9月（シルバーライフの公開講座）と3月に開催した。これまで自由参加で整理券を発行し当日名前を書いて参加してもらっていたが、コロナ対策のため事前申し込み制をとった。また9月は定員40人、開催時間を105分、3月は定員60人、開催時間を90分とし、対象は市内在住者に制限した。

昨年度、継続開催も視野に入れ、曲数を絞って作成した歌集は、コロナの影響による開催中止のため出番がなく、今年度初めて使用することになった。参加者が手元で歌詞が見れる利点に加え、プロジェクター設置等の必要がなくなり準備にゆとりができた。

9月はまだまだ発声を伴う事業の開催は躊躇したが、感染状況がいったん落ち着いてきた時期で催し物がほとんど何もない時期だったので、久しぶりの開催に参加者とともに喜びを感じた。

両日ともにコロナ下での開催となったが、座席の間隔をあげ換気を行い、また前で歌う人にはマイクガードや公民館利用者が作ってくれた大型パーテーションを観客席との間に立てるなど感染症対策に配慮した。9月はシルバーライフの公開講座で行った事と定員を40人に制限していたこともあって一般の参加者枠が少なくなり、申し込みを断った人も数人いた。3月は参加人数が少なかったが、歌や音楽に触れることの好きな人が毎回の歌声サロンを楽しみに参加してくれた。席が離れて一体感がとりにくい状況ではあったが、ピアノ伴奏に合わせて、懐かしのメロディを感じながら久しぶりの合唱を楽しんだ。また、3月は市広報の取材があり、初めは少し硬い表情をしていた参加者も、後半になると前に出て歌う人も増えた。コロナの影響もあり参加者は以前に比べると減少しているが、楽しみにしている高齢者も多い。フレイル予防の観点からも、回数は減らしても事業を継続していきたい。

—参加者の感想—

一日中誰とも話をしない日もあり、今日は楽しく声を出しストレス解消になりました。大きな声を出してとても嬉しかったです。久しぶりのコーラスで心が和みました。ありがとうございました。声を出すことは健康に良いと思います。久しぶりに声を出したような気がします。明日も頑張って過ごします。

<課題>

参加型の文化事業の継続開催。他の文化事業との調整。



ロビーコンサート

<ねらい>

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる機会を作る。

市民と協働で文化事業を実施することで、市民力を公民館事業に活かしていく。

<状況・成果>

毎月第2木曜日 12時15分～13時（8月・3月除く） 参加者 延 140人

※4/9～7/9は、コロナの為中止

月/日	タイトル	内容	出演者
4/9	マリンバ デュオ コンサート(延期)	マリンバ	谷口かんな、横田悠哉
5/14	春の訪れ～はばたく二色パークタウンのホープ～(中止)	テノール・ピアノ	佐々木涼輔、岸元大周
6/11	雄大なモンゴル大草原の響き(中止)	モンゴル音楽	M.サウガゲレル、山本敦子
7/9	<未定> (中止)	アンデス音楽	アントニオ・カマケ
9/10	マリンバ デュオ コンサート(4月分の延期開催)	マリンバ	谷口かんな、横田悠哉
10/8	ピアノであそぼう！	ピアノ	宮崎剛
11/12～14	9月と10月のロビーコンサートの上映(12時～15時)	録画上映	
12/10	クリスマスはやっぱりハンドベル(中止)	ハンドベル	ベルトウッティ ルピナス
1/14	チェロとピアノで奏でる新春の響き	チェロ・ピアノ	伊石昂平、伊石有里
2/12～14	1月のロビーコンサートの上映(12時～15時)	録画上映	

コロナの影響もあり、今年度実施できたのは、9月・10月・1月の3回となった。開催した月の内容については、発声を伴うものや楽器を吹くものを避けた。開催方法については、密にならないよう、ロビーではなくホールを会場とし、定員を設け事前申し込み制とした。

9月・10月はホールの定員が40人と少なかったことから、1階のテレビモニターに映像を映し、座席を設置して、定員15人で鑑賞してもらえるようにした。しかし、申し込みの時点で、ホールが定員いっぱいとなり1階ロビーでの鑑賞になるとわかると、「生で見たいから」とキャンセルする人もいた。結果的に1階ロビーで着席して鑑賞した参加者は、9月は2人、10月は7人となった。ロビーコンサートの恒例で、プログラムの一番最後に参加者全員で歌唱や手話を行っていた「ふるさと」については、9月は実施せず、10月以降はマスクの中で少し口ずさんでもらう程度の歌唱をお願いして実施した。

11月は当初クオレマラソンコンサートを予定していた。発声を伴う内容であり、ついたてを設置する等実施できる方策も探ったが出演者から辞退の申し出があり、別の出演者に急遽依頼することも難しく、中止となった。

12月は部屋の収容人数の見直しもあり、定員を80人に増やして直前まで実施予定で準備を進めていたが、出演者より開催の5日前に出演できなくなった旨連絡があり、実施に至らなかった。

1月はコロナ感染者が増加し、コンサートに参加することに不安を感じる人も多かったようで、定員80人のところ、38人の参加となった。

開催できなかった月にも来館者に音楽に触れてもらおうと、11月と2月は、1階ロビーのテレビモニターでコンサートの模様の録画上映をしたが、この際特に座席は設けず、密を避けるために3日間に渡る上映日程とした。期間中に来館した人から「ロビーでコンサートが上映されていると雰囲気が良い」と好評だった。チラシ等を見て、上映を見るために足を運んでくれた人もいた。

—文化振興事業—

コロナの影響でロビーでの開放的なコンサートはできなかったが、楽しみにしている人も多く、10月は申し込み開始から1週間でホールの定員が埋まる程人気だった。中には、毎回申し込んでくれている人もいた。コンサート中の会場の様子は、コロナで声を出さないように意識していることもあってかとても静かで、参加者は演奏に聴き入っていた。開催後には、「とても楽しみにしていて、コンサートを聴けて感激した」との声が聞かれた。

次年度もコロナの影響が続くと考えられることに加え、企画委員の要望もあり、ロビーコンサートは一旦終了し、次年度からは新たなホールでのコンサートとして実施していくこととなった。

<課題>

今後もコロナ対策を取ったうえで、市民に楽しんでもらえる文化事業を開催していく。



9月マリンバ デュオ コンサート



10月ピアノであそぼう！



1月チェロとピアノで奏でる新春の響き

プレ浜手アフタヌーンコンサート

<ねらい>

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に生の音楽を楽しめるコンサートとする。

市民と協働で企画し、市民力を事業に活かす。

<状況・成果>

3/18 木曜日 12時15分～13時15分 参加者 61人

出演：franc Saxophone Quartet (フランサクソフォンカルテット)

佐藤宏亮・龍田洋佑・新井貴之・玉田敏洋

ロビーコンサート（以下、ロビコン）の精神を受け継ぎ、4月から新たに始まる「浜手アフタヌーンコンサート」（以下、アフコン）のプレ企画として開催した。

開始時刻はロビコンと同じだが、実施時間はアフコンに合わせて1時間とした。サクソフォン奏者4人が華やかな四重奏を奏で、アンコールを含めて11曲に及ぶ、盛りだくさんで充実した内容となった。演奏の合間のトークも楽しく親しみやすいもので、参加者の心を掴んでいた。ロビコンと同様に、最後には参加者全員で「ふるさと」の歌唱や手話をし、会場が一体となるひと時を共有できた。終了後には出演者が参加者の見送りのため出口に立ち、参加者からの、「聴けて良かった。感激した。」という声に、出演者からは、「自分達も皆さんの前で演奏できて本当に嬉しかった。」と応えるなど、双方が思いを伝えあうことで交流も生まれ、新しいコンサートに向けた良いスタートを切ることができた。

<課題>

次年度から始まるアフコンがこれまでのロビコンと開催頻度や時間設定が異なることに留意し、周知に努める。

保育ボランティア

<ねらい>

保育付き講座の受講者が安心して受講できるよう、子どもにとって安全な保育を実践する。
ボランティアが保育しやすい環境を整える。

<状況・成果>

定期登録者 11人 不定期登録者 2人

コロナの影響で、春の保育付き講座は中止となり、9月から始まった秋の保育付き講座「げんきに子育て」の保育を行った。日程は9/18～10/23 金曜日の全6回。受講者の1～3歳の子ども7人を保育した。

9/11に保育ボランティア打ち合わせを行い、いつもの保育の流れの確認に加えて、感染症対策をどう取るか話し合った。ボランティアの不安をできるだけ取り除き、受講者も安心して預けられるように配慮した。

具体的な実施方法は、以下の様にした。

- ・子どもはマスク着用は難しいが、入口で手指の消毒を保護者にしてもらっておく。
- ・ヘルスチェックを保護者に書いてもらう。
- ・おやつと飲み物は各自持参してもらい、向かい合わずに横並びで食べる。
- ・ボランティアは1回8人までに調整してもらう。(プレイルームの定員は期間中16人だった)
- ・おもちゃは使う物だけ出しておき、終わってから消毒する。
- ・プレイルームの床の消毒は、使用の前後に職員で行う。

子どもが体調不良などで欠席する日もあり、子どもよりボランティアの人数が多いこともあったが、手の空いているメンバーで最終日に渡すメッセージカードを作り、子どもも母親も喜んでいた。

おもちゃや使用備品の消毒の手間は増えたが、ボランティアで手分けして行えた。おやつについては、ボランティアと話し合った結果、当初考えていた小袋の物でも取り分けるとリスクがあるということから、保護者に家から持ってきてもらうこととなった。

今回は講座回数が6回といつもより少なく、子ども達が慣れてきた頃に終了したことが少し残念だったが、最初は泣いていた子どもも、ボランティアがうまくあやして、回を重ねるごとに打ち解けていた。終わりの方には子ども同士で声を掛け合って、和やかに遊ぶ姿も見られた。

講座終了後の反省会では、「子どもの人数が少ないのが寂しかったが、子ども達が元気で自分たちも元気もらった。」「コロナの影響で思うように外出もできない状況だからこそ、保育付き講座の必要性を感じた。」との意見が聞かれた。また、ボランティア同士とても良い関係性が築けていて、やりがいを持って保育ボランティアに参加している様子だった。

<課題>

次年度もコロナの影響が続くと考えられ、感染症対策を取った上でのより良い保育の仕方をボランティアと一緒に考え実施していく。



ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

障がい者の料理作りのサポートを通して食の自立への支援を行うと共に、ボランティア集団の学びの場とする。

<状況・成果> 登録者数 12人

4月7日にコロナ対策としての”外出自粛要請”が出され公民館が休館となったことで、例年4月開催のボランティア・施設の指導員・職員の打合せが中止となり、その後もしばらくは料理系の活動は困難と判断し講座の9月開始を決定、打合せは7月に行った。

ボランティアも受講者も半数に減らしての開催・マスク着用等の感染防止対策など、従来とはかなり異なる講座運営への戸惑いや感染への不安を口にするボランティアもいたが、状況に応じて相談し変更する・健康が不安な人は他のボランティアと交代も可、ということで全員了解した。また、人数半減によってボランティアが毎回全員入れ替わり、話し合う機会がなくなるため、レシピの内容や材料の購入分担等の相談についてもその場で併せて行った。

従来の半分の人数で対応するにはどのようなやり方をすればスムーズに進められるか、手順の確認をしたいということで、初回の9月はボランティアだけで調理することになった。その後は、やり方を工夫し、受講者が調理する内容も考えながら進めている。

新たに4人(内1人は2回参加あり)のボランティアが加わり体制が整っていたが、年度途中で健康に不安のあった方が亡くなられたため、再びボランティア募集が必要になっている。

<課題>

ボランティアの補充。ボランティア間で情報共有・調整がきちんとできるよう、気を配る必要がある。

図書整理・読み聞かせボランティア

<ねらい>

ボランティアの協力を得て、多くの人が本に親しみ楽しめる環境を整備する。

ボランティアが主体的に活動できる場の提供。

<状況・成果>

親子連れや子どもたちが絵本や児童書を手に取りやすいように、また探している本が見つかりやすいように、家庭文庫「エルフの森」が週に1回程度、図書コーナーで本の整理を行っている。

公民館閉館中の5月は中止したが、それ以降は感染症対策としてマスクと手袋を着け、「図書整理中、感染症防止に気をつけ作業しています」というミニ看板を立てて作業してもらった。今年度は、閉館が解除されてからしばらくの間も乳幼児親子の入場制限があったからか、例年より図書コーナーに来る親子や子ども達の姿が減ってはいるが、ミニ看板は図書整理についての利用者への案内にもなり良かった。

「まほうの森」による読み聞かせは11月から再開。感染症の不安や開催日時などを一緒に考えるものの、開催日が不定期で告知がほとんどできなかった事と、子どもの来館が少ないことが重なり、参加者がほとんどいない。この現状にボランティアの意欲が下がらないか不安が残る。

<課題>

図書整理について利用者への案内をより工夫する。

読み聞かせの開催日時の周知方法を検討する。

ロビーコンサート企画委員

<ねらい>

公民館と市民との協働でロビーコンサートを企画・運営する過程を通して、公民館事業に市民の力を発揮できる場をつくる。

<状況・成果>

委員は年度当初は6人であったが、8月に1人辞退し5人となった。

企画委員会で前回のコンサートの振り返り、次回の打ち合わせ、今後の出演者の相談・決定を行っている。出演者を決定する際には、企画委員の人脈や、音楽の知識等が活かされている。また、ポスター掲示やその依頼、近隣へのチラシのポスティング等、広報活動を積極的に行っている。

今年度のロビーコンサート（以下、ロビコン）はコロナ対策として事前申し込み制としホールで開催した。コンサート当日には準備・片付け・開演挨拶など従来からの役割に加え、受け付けとコロナ対策のお願いの声掛けも職員とともにいった。

会場をホールに変更してのロビコンが続く中で、次年度からは名称を変えたホールでのコンサートにしてはどうかと、企画委員から提案があった。来年度も会場をホールからロビーに戻す目途が立たないということに加えて、音響の良さ、集中して聴ける環境などから、コロナ収束後もホールでのコンサートにしては、というものだった。この提案について職員間で話し合い、今まで通りの12時15分からの開催では、準備やリハーサルを含めホールを午前と午後に渡って押さえることになり、クラブ活動と館主催事業に影響が出ることから、ホールですら開催時間を午後2時頃からにする必要があることを説明した。館としては、誰もが気軽に立ち寄れるロビーで音楽を楽しむことができるロビコンとして継続していきたい考えだったが、企画委員会の中で話し合った結果、これまでの開催形態から大きな変更となってしまうこともあり、ロビコンは今年度で終了し、今後は新しいコンサートを開催することとなった。企画委員全員に、公民館を訪れた人に「生」で「近距離」で聞くことができる音楽を提供していきたいとの熱意があり、引き続き新しいコンサートでも企画委員として関わることとなった。

<課題>

新しいコンサートにおいても、企画委員に活発な提案や意見交換を促し、協議を重ねて進めていくことが重要である。

移動公民館「和太鼓を楽しむ」

<ねらい>

和太鼓の演奏を聴き、また、演奏体験をして楽しむ。

身近な場所で公民館の事業にふれる機会とする。

<状況・成果>

12/13 日曜日 11時～12時 参加者：82人

出演：阪南太鼓 楽鼓(らっこ)

普段なかなか公民館まで来ることのできない人や、公民館の事業に参加したことのない人も気軽に参加し楽しめるよう、毎年浜手地域に巡回で出かけ出前事業を開催している。今年度は、北小学校の室内運動場を会場として借用し、周辺自治会にも一月前に広報で協力を依頼し取り組んだ。

内容選定にあたっては、出演者と参加者および出演者同士が離れていても一体感があり音量もあって、コロナ下でも楽しめる内容ということで和太鼓の公演とし、阪南市立西鳥取公民館（以下、西鳥取公）で活動している阪南太鼓 楽鼓（以下、楽鼓）に依頼した。打合せをする中で、楽鼓が演奏指導をしている西鳥取公の講座「子ども和太鼓」のメンバーもゲストで出演することになった。

当日、楽鼓の息の合った力強い演奏は、コロナ禍で沈みがちな気分を吹き飛ばし楽しい気持ちにさせてくれた。また、「子ども和太鼓」も2曲を披露。かわいい中にも一生懸命さが伝わる演奏で、楽鼓メンバーから「前日までは不完全だったのに本番ではピッタリ揃った」と感心しながら紹介されると、会場からは温かい拍手が起こった。

体験タイムでは、呼び掛けに応じて約20人が演奏に挑戦。締太鼓・平太鼓から大太鼓まで太鼓の種類や造り方などの紹介の後、リズム打ちや「かえるの歌」の合奏をみんなで楽しんだ。

時期的にはコロナの第3波を迎えていた時期でもあり、マスク着用や入り口での検温・座席の間隔を空ける・体験用のバチは消毒するなど対策には神経も使ったが、換気のための寒さも各自持参してもらったスリッパや防寒着で補い、久しぶりの催しへの参加を楽しんでもらえたようだった。

【アンケートの感想より抜粋】

- ・元気がでた。
- ・迫力ある太鼓の音を生で聞けてよかったです。
- ・体にひびいてステキでした。
- ・体験タイムが良かった。ちいさい子供も上手で感心しました。

<課題>

今後とも、地域巡回で公民館事業に接してもらえる機会を設けていくこと。

早い時期から地域自治会等と話す機会を設け、可能な限り協働で取り組めるようにすること。



楽鼓の演奏と会場の様子



こども和太鼓の演奏



体験タイム

ふれあいまつり

<ねらい>

公民館で活動しているクラブの活動成果の発表の場とする。また、クラブ・地域団体・受講者等が協働して企画・運営にあたり、利用者や広範な市民・異世代間の交流の場とする。

<状況・成果>

10/25 日曜日 ※コロナの為中止

浜手地区公民館ふれあいまつり(以下、まつり)は、利用者連絡会(以下、利連)に加入する全クラブと公民館を利用し活動する地域の団体・施設等が、実行委員会を組織し運営・実施しており、実行委員長など主な役員は利連の中から選出している。例年は、利連総会後の「まつり準備会」において内定し、他団体等も参加する第1回実行委員会から本格的に取り組みを開始している。

しかし、コロナによる緊急事態宣言を受けた公民館の休館措置によって5月末までは活動できない事態となり、見直しを迫られた。

取り組み期間の短縮と「3密」を避ける必要性から、模擬店の開催は難しく小規模開催を考えると他団体の参加は困難と判断し、6/11に館からその旨の案内を他団体に送付した。

利連関係者のみで開催することになった第1回実行委員会(7/11)では、事前に提示していた案(※)について各クラブで話し合った報告を受け協議した。

「提案の方法ならやりたい」「自分たちの発表を密にならずにするのは無理」など明確な意思表示もあったが、初めての事態に戸惑う声も多かった。クラブによっては、活動内容から考えて「展示発表も映像発表も難しい」という声もあり、「発表に参加しないクラブがあってもいいのでは」という意見も出たが、最終的には挙手で決めることになり、過半数の意見により開催中止となった。

(※) ①模擬店は中止とし舞台発表・展示のみ実施 ②外部団体の参加は自粛要請 ③作品展示および演技・演奏の映像発表とする ④従来模擬店で参加のクラブは展示・舞台どちらかに参加

<課題>

次年度もコロナの影響は避けられないため、感染状況等を考慮しながら早期の判断が求められる。また、開催する場合においては、感染防止対策に沿ったまつりの内容・方法を検討する必要がある。

ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）

<ねらい>

市民の憩いと交流の場、学習やグループ活動の場、情報発信・発表・報告の場、また障がい者の社会参加の場として整備し活用する。

<状況・成果>

ロビーは、誰もが自由に利用できる場として開放し、待ち合せや読書・簡単な会議・ゲーム遊び、また2階では卓球など、子どもから大人まで自由に時間を過ごしている。今年は感染症の影響で公民館の利用制限のあるなかで始まり、緊急事態宣言が発出され休館となっている時期を利用し、図書コーナーのイスやソファの補修、卓球やゲーム等遊具の消毒・貸出方法の変更等の整備を行い、利用再開に備えた。

ボランティアグループが運営するコーヒーコーナーは、紙コップを使用するなどの工夫をして徐々に活動を再開したが、マスクを外す飲食のリスクを考え、「いぶき作業所」「社会福祉法人どんまい」の障がい者が運営に参加する日も含め、定期的な開催は控えている。

図書コーナーでは、読みたい本を見つけて借りたり読んだりしている人たちのほか、ボランティアによって綺麗に並べられた児童書や配架台に展示されたお勧めの絵本を見ながら、選んで借りていく親子の姿も多く見かける。感染症対策としては、図書館での対応と同様に、一度触れた本は消毒のため、一旦図書館に返却することとし、図書整理ボランティアも「図書整理中」の立て看板を出しゴム手袋をして作業を行っていた。

ロビーコンサートは、感染症の影響でホールでの開催に変更した（ロビーコンサートシート参照）。

一方、展示でのロビー活用は広がりを見せた。一般市民からの作品展示（古布であそぶ、布あそび）や、クラブ関係ではふれあいまつりの代替措置としての映像展示や作品展示（利用者連絡会シート参照）、三館展示交流の作品展示など盛んに行なわれた。

特にテレビモニターを利用した映像展示は、事業としても多く取り入れた。緊急事態宣言中に職員で作成した貝塚の昔話の紙芝居映像、感染症対策の注意喚起映像、クラブ紹介や講座案内などを流し、またロビーコンサートが開催されない月には、以前の録画を流すなど、公民館を訪れる利用者が自由にロビーで鑑賞できるようにした。

12月から「私の考える今年の漢字一文字」を募集し公民館利用者に記入してもらったものを貼り出した。書くことをためらう人もいたが、一文字を選んだ理由を熱心に読んでいる人も多く、また子どもたちの作品は、「短（学校や塾が短かった）」など子どもらしい視点で書かれており作品を読んだ人を和ませていた。

その他、「はまて子どもパーク」で子どもたちが作った作品の展示、善兵衛ランドの天体写真展など他課・他施設からの展示等もあり、利用者はそれぞれ気軽に鑑賞し楽しんでいた。特にロビーの利用として、市民課がマイナンバーカードの受付を年間複数回行い、特に土日に開催した時には、多くの人が訪れていた。

今年ではできなかった取り組みもたくさんあったが、ロビーを活用することで他のクラブ活動の様子や作品鑑賞する機会を多く持つことができた。

<課題>

感染症対策を考慮した新たな活用方法にも取り組み、多目的に使えるよう工夫する。



プレイルーム開放

<ねらい>

利用のない時間帯にプレイルームを開放し、乳幼児親子が安心して過ごせる場を提供する。

<状況・成果>

6/19～2/14 (10回 延25人) ※4/1～6/18までコロナの為中止

近隣に乳幼児のいる家庭や転勤で初めて貝塚市に住むことになった家庭なども多いため、乳幼児親子が安心して過ごせる場・親子同士が交流できる場として、利用のない時間帯にプレイルームを自由に使えるよう年間を通して開放している。同じ時間帯に他の親子があそびに来た時は一緒に使用してもらうよう伝えている。

5月までは感染症対策として乳幼児親子の利用が制限されたため、プレイルーム開放は6月からの再開となった。しかし6月から11月までは、3密を避けるため1時間に3組までの利用制限を設けた。利用は月に1～2回と少人数で他の親子と交流する機会はなかったが、主に兄弟のいる乳幼児親子がプレイルームを利用して遊んでいた。おもちゃは、プレイルームを開放する前に職員が消毒を行い、プレイルーム使用後は利用者に使ったおもちゃや備品の消毒をお願いした。時々ロビーで子どもが愚図って困っている親に声をかけて利用を促したり、部屋の使用で問い合わせがあった際「プレイルーム開放」について紹介し利用案内に努めた。利用者数は少ないがコロナ禍だからこそ、対策を取りながら乳幼児親子が元気に過ごせる場所が必要である。

<課題>

今後も、乳幼児親子が安心して過ごせる居場所として年間を通してさらに周知を図っていく。

第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）

<ねらい>

校区内の学校、公共施設、地域の団体・住民が情報を交換し、定期的な会議での交流を深めることにより、子どもを中心とした事業の協働を進める。

<状況・成果>

毎年、年3回の会議に出席し、周辺施設、学校、こども園、地域団体の近況報告、課題・問題点の解決のため共通理解を図っている。年3回発行されている「すこやかネットニュース」には「明るいおばけやしき」での子どもの様子等、子ども対象の公民館事業などを記事にして提供している。

今年度の会議は2回になった。情報交換では、学校・子ども園から催しの開催が遅れているものと、開催できないものと、開催したものでも例年より内容を割愛して行っているものが多いとのことだった。同じ社会教育施設の自然遊学館は、今まで他府県からの来館が多かったが今年度はゼロに等しいとの報告があった。公民館からは、同様に苦慮している話に加え、コロナ禍にあっても公民館に来てボランティア活動をしている地域の人に対しての感謝を伝えた。

<課題>

地域の子どものすこやかな成長と見守りのため、積極的に公民館としての役割を担っていく。協議会でのつながりを事業運営につなげる。

パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）/二色校区福祉委員会

<ねらい>

公民館周辺地域の住民との相互交流を図るとともに、地域課題について年間数回の会議の機会を設け、問題の解決・地域の福祉に資する。

<状況・成果>

パークタウン連絡協議会・二色校区福祉委員会に、地域の公民館として、情報交換やその地域独自の課題について共有するため年に十数回の会議に出席している。

今年度、盆踊りは開催中止になった。その他の会議は6月から開始し、公民館の各部屋では、コロナ対策による人数制限のため使うことができず近隣のマンションの会議室で行ったこともあった。会議では毎年のように地域の高齢化が進んでいる話がでてくるが、今年は近隣住民が気軽に集まれないため、安否確認ができずに孤独死があったとの話が出た。

防災専門委員会の会議では、大勢の人が移動する防災訓練に代わるものとして、コロナ禍での避難所の開設に関心が寄せられ、市の危機管理課職員に、感染防止対策に特化した開設方法の話聞くことになった。講座が始まる前に入口で検温する人がいたり、トイレやパーテーションの組み立てをしたりする様子に、全員の真剣に取り組む姿勢がみられ、この地域の防災意識の高さを感じた。

<課題>

昨今の社会状況を考慮に入れ、地域の公民館として何ができるかを検討する。

【参考】ほかでもがんばっているよ 浜手地区公民館利用者連絡会所属クラブの地域での活動

月日	クラブ名	会 場	備考（感想など）
11/13	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立八木南小学校	修学旅行後の平和学習。感染予防のため体育館で行ったので寒かった。児童はとても静かに真剣に聴いてくれた。
12/24	ハーモニアソングアンダンテ	二色小学校なかよしホーム	<コロナ感染拡大を受け 中止>
2/12	朗読ぐるーぷサルビア	二色小学校	6年生の「生き方についての授業」で活動のきっかけ・目的等について話しその後朗読。音源もありよく伝わったと好評。

利用者連絡会

<ねらい>

公民館活動への理解を深め、自主的な活動ができるよう支援する。

クラブが連携して活動に取り組み、課題を共有して活性化できるよう支援する。

<状況・成果>

29クラブ・グループ 会員：383人（役員：9クラブ12人）

昨年度終盤から活動時におけるコロナ感染予防の注意喚起を行っていたが、さらなる感染拡大を受けて役員が協議し4月5日に予定していた利用者連絡会（以下、利連）総会の中止を決定。その代替策として、各クラブ・グループ（以下、クラブ）の今年度の委員に「議決権行使書」の提出を求めた。その後一月以上にわたる公民館休館の影響もあり、全クラブ分が揃うまでには時間がかかったが、結果として多数の承認を得、7月11日今年度第1回の定例会で報告、新体制が発足した。

引き続き開かれた「ふれあいまつり実行委員会」で今年度の中止が決まるなど、行事は何もできない・しない空気に覆われていた。実行委員長に内定していた利連旧役員の「希望クラブのみで発表しませんか」という呼び掛けにも反応が薄く、頓挫してしまいそうになっていた。

そのような状況の中、役員会を開き今年度の取り組みについて協議した際、「ふれあいまつりに代わる発表は、やはり利連として呼び掛け、利連の行事として取り組んでいくべきではないか」ということになり発表の事業化を決定、他の行事についてはアンケートで希望を聞くことになった。しかしアンケートでも、レクリエーションなどはコロナの状況を考えると難しいという声が多く、実施しないこととなった。また、行事の多くが無くなり、顔を突き合わせてのグループトークもしにくい状況のため、定例会は回数を減らして開催することになった。

ふれあいまつりに代わる発表としては、展示：作品または活動の様子をまとめた掲示物の展示、映像：発表形式での演技・演奏の様子を撮影し映像をテレビモニターで流す、こととして希望を募ったところ、①展示6・②映像7・①②両方1のクラブの参加があり、それぞれ発表の仕方や日程の調整などを協議して臨み、「活動の目標ができてよかった」「知人にも見てもらえてよかった」という声が聞かれるなど、コロナ下での貴重な取り組みとなった。

今年度の役員体制は、総会の中止や公民館休館等の影響で前年度役員からの引き継ぎすらできない状態が続き、5月30日ようやく新体制が稼働することとなった。しかし、前述のような状況のもと役員が集まる機会も減った。役員会が不定期になったことと相まって連絡等には前年度同様SNSを利用することが多くなり、情報が入りにくくなるのを防ぐため担当職員も参加させてもらった。連絡にとどまらず、次回会議での提案内容や資料等についての意見を求める際にもSNSが活用されたが、返信がない・返信者が限定的・限られた文字数で考えを伝えるのが難しい等で、なかなか議論が深まらないこともあり、必要に応じて職員も意見を述べ提案等も行った。

三館で取り組んでいる「貝塚公民館大会」には役員2人が実行委員として参加し、記録やプログラム作成・当日の運営など精力的に取り組む、他の役員も各クラブへの参加呼び掛けや当日の運営に関わった。

前年度同様、公民館クラブを広く市民に知ってもらうため「広報かいづか」にクラブ案内を掲載し、また、「クラブ体験講座」の開催も呼び掛けたが、コロナ禍のもと部屋の定員削減等もある中全体的には消極的で4クラブの開催にとどまり、参加者も6人だった。

<課題>

コロナの状況を見ながら、その中でできる取り組みを一緒に考えていく必要がある。

役員間の情報共有や意見交換がしっかりでき一人ひとりの負担が大きくなるよう、役割分担や運営方法についても共に考え支援していくことが大切である。

利用者団体代表者会議

<ねらい>

公民館を利用しているクラブや団体の代表者に、地域での公民館の役割、歴史、現状等を伝えることで、公民館についての更なる認識を深めてもらうとともに、公民館の利用の手続きや注意点等を伝える。

<状況・成果>

7/25（土）11時～12時 参加者 22人

7/27（月）19時～20時 参加者 7人

緊急事態宣言の後だったので、開催時間は例年より短い時間で行い、クラブ間同士の交流はできなかった。更に、出席は各クラブからは1人のみとし、参加者が多い日は2階のホールを使用した。

「戦後の日本で民主主義の広がりや公民館がどうかかわったのか」「貝塚の公民館の歴史」「社会教育について」等の内容を、パワーポイントを使って伝えた。高齢化によるクラブ数とクラブ員の減少、子ども・乳幼児とその保護者の利用者数の減少等、現在の浜手地区公民館の状況についての説明もした。参加したクラブの何人かは初めて委員をする人がいることや、公民館の役割を多くの人に知ってもらい考えてもらう機会の一つとして毎年の開催が大事である。

最後は、使用料の1表・2表の考え方が改まったこと、今年度からクラブ活動での部屋の使用回数を増やせることおよび公民館を使用する際の感染症対策についての話をして終了した。

<課題>

会議で取り上げる内容・資料を検討する。

次回は団体間での参加者同士の交流の場を持てるようにする。

貝塚市立
山手地区公民館

目 次

■年間総括	山 1
■講座・事業	
◇ 青少年対象事業	山 6
こうみんかんへGO!～小学生（高学年）の宿泊体験	
百人一首	
レッツTRY	
親子でつくる～世界でひとつのX'mas～	
①陶芸作品②竹ランタン③鉢植えクリスマスツリー	
将棋倶楽部	
フアフアクラブ	
親子でオリジナルアート	
木工作「木のミニこいのぼり」	
◇ 子育て支援事業	山 12
はじめての人形劇	
かばさんルーム	
絵本ピクニック	
デニム de りめいく	
保育つき講座 プレ ワーキング母（ママ）のススメ	
◇ 成人対象事業	山 15
ことぶきクラブ	
市民企画「はやりのZoomを体験し、活用してみよう」	
ペーパータイリングポインセチアを作ってみませんか	
大人向けランタン作り体験	
公民館でピンポンを楽しみましょう	
ふれあい料理	
台湾をより身近に	
パソコンで年賀状を作ろう！	
ハンドパン体験講座	
高齢介護課 共催講座（ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう・編みあみ講座「ペーパークラフトバンドでかごを作ろう」・編みあみ講座「健康的な布ぞうりを作ろう」）	
◇ 人権課題事業	山 23
ほっとハートコンサート	
◇ 文化振興事業	山 24
ロビーコンサート	
～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」	
ジャズライブ in 山手	
第8回 たまねぎ劇場	
◇ 人材養成事業	山 28
ふれあい料理ボランティア	
おさんぽかばさんボランティア	
保育ボランティア	
かばさんルームボランティア	
◇ 地域連携事業	山 30
ロビー活用	
おさんぽかばさん	
水間末廣座	
【参考】ほかでもがんばっているよ	
◇ 団体支援事業	山 33
山手地区公民館活動協議会	
利用者団体代表者会議	
バンド連絡会	

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和2年度 山手地区公民館 事業総括

はじめに

講座・事業を進めるにあたり、特に意識して取り組むためのキャッチフレーズを、「つながり広げる公民館」とした。また、地域と連携をより一層深め、これまで公民館を利用していない人を呼び込むとともに、山手地区公民館が行ってきたことの再確認も含め、地域へ繰り出し世代間交流のつながりを図る。

1. 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

<状況・成果>

- ・利用者の拡大を図るため、土日の講座・事業を強化した。
- ・青少年対象事業・子育て支援事業などで「山手地区公民館活動協議会」をはじめとする支援団体・ボランティアの協力を得て事業を展開した。
- ・市発信の広報紙・ホームページ・Facebookなどで講座や事業の実施・報告に努め、また申し込み方法にQRコード（メールアドレス）の掲載を試み、若い世代の新たな公民館利用者の拡大につなげた。

<課題>

- ・引き続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、学習成果の共有をしていく。

① 青少年対象事業

- ・大人との異世代交流を通じて、主体的に興味を引き出すような魅力ある講座開催を目指す。
- ・子どもたちの意見を反映させ、主体的な参加意識を高め、継続的な参加につなげる。

<状況・成果>

- ・「将棋倶楽部」は異世代交流の場づくりとなっており、1月には「新春子ども将棋大会」を開催し、熱戦が繰り広げられた。
- ・「こうみんかんへGO!」は、宿泊体験や集団行動で、個々の心豊かな感性を育むことができ、また地域住民と世代間交流の場となった。
- ・「親子でつくる ～世界でひとつのX'mas～」と題して3講座（陶芸作品・鉢植えクリスマスツリー・竹ランタン）を行い、親子で楽しんでもらう良い機会となった。今回からチラシにQRコード（メールアドレス）を掲載し、応募者の半数以上のかたが利用され、特に若い世代の利用が多く、新たな公民館利用者の拡大につなげた。

<課題>

- ・青少年が参加したくなるような魅力ある講座や事業を心掛け、公民館利用につながる環境づくりや広報活動に努める。

② 子育て支援事業

- ・親子の絆を深める取り組みを促しながら、家族のつながり・地域力の向上を目指す。
- ・子どもを持つ親が気楽に来館でき、学びや交流ができる場を提供、親同士のつながりづくりを促す。
- ・関係各種団体、関係課と連携し、それぞれの特性を生かした取り組みを進めながら今後の事業の在り方を検討していく。

<状況・成果>

- ・「プレ・ワーキング母（ママ）のススメ」は、目指していた“自分らしく、自分を大切にしながら両立するための、イメージトレーニング”までには至らなかったが、参加者同士のつながり作りの場となった。
- ・「かばさんルーム」は、年々参加者が減少し、見直すこととなった。
- ・コロナ禍で企画していた講座がいくつか中止となり、思うような講座が開催できなかった。

<課題>

- ・国が促進している子育て関連施策、また貝塚市立認定こども園の充実により、公民館事業への参加が減少していることから、各種関係団体や各関係課と連携し、公民館の特性を生かした取り組みを進める。

③ 成人対象事業

- ・新規利用者を増やすため、幅広い世代に関心がある講座を企画し、講座終了後も継続して自主活動につながるよう働きかけを行う。
- ・障がいのある人が講座に受講してもらい、ボランティアとの交流や、受講者同志の仲間づくりを図れるよう、より良い環境作りに努める。

<状況・成果>

- ・新たな参加者層の拡大のため新規講座として「公民館でピンポンを楽しみましょう」を開催し、自主グループ化につなげた。
- ・介護予防を目的とした高齢介護課との共催で、「編みあみ講座」「ノルディックウォーキング」を開催。「編みあみ講座」は4回にわたって実施し、定員をはるかに超える応募があった。講座終了後の自主活動につなげることはできなかったが、参加者同士のつながり作りの場となった。「ノルディックウォーキング」は、自主グループとなり、現在活動中で11人が参加、来年度も企画する予定。
- ・「ことぶきクラブ」は受講者全員が意見を出し合いプログラムを企画している。受講者が班活動に分かれて、役割分担するなどの工夫により、交流を深めている。
- ・障がいのある人が集う「ふれあい料理」については、コロナ禍の影響により中止となった。

<課題>

- ・講座終了後のアンケートや地域住民との交流を継続することで、地域の課題や要望を把握し、講座に結び付ける。
- ・引き続き公民館を利用していない新規利用者の拡大を図るとともに、自主グループ化等による継続利用につなげる。

④ 人権課題事業

- ・身近な人権講座を企画することで、より多くの人の受講参加につなげ、日常生活における人権意識の高揚を図る。
- ・関係課との情報交換及び連携を強化し、共同での取り組みを進める。

<状況・成果>

- ・「ほっとハートコンサート」を開催。「人権とは何か？」をフルート・アルパハーブの演奏を通して表現。世界中の人々が幸せに生活できる権利・人権の尊さを奏でた演奏であった。今後も継続し、心豊かな人間形成を目指す。

<課題>

- ・気軽に参加することができ、人権を身近なこととして捉えることができる事業を継続していく。
- ・テーマを絞った研修を企画していく。

⑤ 文化振興事業

- ・クラブやグループの発信の場を積極的に提供して、幅広い市民層からの参加と自主活動の推進を促す。
- ・身近に文化にふれる機会を提供する。

<状況・成果>

- ・「ロビーコンサート」は、公民館利用者や市民サービスコーナー利用者が身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会となっている。
- ・「JAZZ コン서트」では、粋なピアノ、激しいトランペット、また心に響くサクソ演奏があり、参加者にJAZZの醍醐味を聴かせることができた。
- ・「～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま“お夏清十郎”」では、プロと貝塚市民との共演は見ごたえがあった。また地域に語り継がれている「お夏清十郎」物語についての再発見の場となった。

<課題>

- ・幅広い市民参加につながるよう広報活動に努めるとともに、新たな企画、イベントの展開を図る。

2. 人材養成事業

- ・利用者や地域に埋もれている人材を発掘し、公民館活動の継続的な参加につなげる。
- ・公民館利用者が地域交流貢献活動に積極的に関わることができるよう働きかけを行う。
- ・ボランティア間の意思疎通を図るため情報交換を行い、ボランティアが自主的に活動に関わることができるような環境作りに努める。

<状況・成果>

- ・「ふれあい料理ボランティア」「かばさんルームボランティア」について、人数は概ね確保し、準備・打ち合わせ等の時間を大切にしていたが、コロナ禍の影響により定期的に行うことができなかった。

<課題>

- ・今後も必要なボランティア登録者数を確保すると共に、定期的な情報交換を行い、活動しやすい環境作りに努める。

3. 地域連携事業

- ・地域コミュニティの促進や拡大を目指し、課題解決に向けた支援や情報提供を行う。
- ・地元地域へ出向き、連携を深め、活性化を図る。
- ・「移動公民館」など地域へ出かける事業の展開と、その後の自主活動への支援を視野に入れた取り組みを行う。

<状況・成果>

- ・コロナ禍の影響により、町会や自治会へのコミュニティ機材の貸し出しはほとんどがキャンセルとなり、「貝塚市立第三中学校区地域教育協議会」も、今年度は活動していない。
- ・「おさんぽかばさん」は乳幼児を持つ親同士の交流を図るため、地域に出かけつながら作りを目指したが、コロナ禍の影響もあり参加者が少なく、そこまでには至らなかった。来年度以降も引き続き行う予定ではあるが、状況を見ながら進めていく。
- ・「山手地区公民館まつり」「移動公民館」はコロナ禍の影響で、開催していない。

<課題>

- ・コロナ禍の見通しが立てば、実情を把握しながら地域へ出向き、また貝塚市立第三中学校区地域教育協議会等、地域の各種団体と連携し、各事業を展開していく。

4. 団体支援事業

- ・公民館施設を拠点として、自主的に活動している団体を支援し、新たな活動グループの育成に努める。
- ・山手地区公民館活動協議会が自主的に活動を推進していくための支援、環境作りに努める。
- ・バンド連絡会や子育てグループ等に対し、公民館としての支援方法を検討する。

<状況・成果>

- ・「山手地区公民館活動協議会」と連携しながら公民館の諸事業を展開した。コロナ禍により役員会、及び定例会などの会議回数を半分以下に抑え、また、公民館のコロナ感染予防対策にも協同で取り組み理解を深めた。
- ・コロナ禍で、音楽室の使用に制限がかかり、各バンドの活動ができなかった。

<課題>

- ・コロナ禍で、クラブの解散や活動を休止するクラブがあり、今後もクラブの減少傾向が考えられるため、コロナ感染予防対策を取りながら、安心して利用できる環境作りに努める。
- ・バンド連絡会の活動の在り方を再考し、検討していく。

【主催講座・事業・共済事業】

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	こうみんかんへGO!～小学生（高学年）の宿泊体験		9/5～9/6	1回	11人
	百人一首 ※注1 4/4～6/6 中止	8人	7/4～3/6	9回	72人
	レッツTRY	3組	通年	4回	12人
	親子でつくる～世界でひとつのX'mas～ ①陶芸作品 ②竹ランタン ③鉢植えクリスマスツリー	11組	11/22・12/6 11/28 11/29	2回 1回 1回	17組 10組 10組
	将棋倶楽部（1月は新春子ども将棋大会）※注1 4/18～6/20 中止	15人	7/18～3/13	9回	68人
	フアフアクラブ ※注1				
	親子でオリジナルアート	2組	2/27・3/13・27	3回	6組
	木工作「木のミニこいのぼり」		3/27 3/28	1回	1組 3組
子育て支援事業	はじめての人形劇		9/27	1回	48人
	かばさんルーム ※注1 4/1～6/15 中止		6/22～3/29	34回	106人
	絵本ピクニック ※注1				
	デニムdeりめいく	5組	3/9・16	2回	17人
	保育つき講座 プレワークキング母（ママ）のススメ	7組	1/14～2/28	6回	31人
成人対象事業	ことぶきクラブ ※注1 4/7～5/26 中止	32人	6/1～12/8	18回	450人
	市民企画「はやりのZoomを体験し、活用してみよう」	4人	11/10～12/15	6回	24人
	ペーパーキリングポインセチアを作ってみませんか		10/20	1回	10人
	大人向けランタン作り体験		11/26	1回	7人
	公民館でピンポンを楽しみましょう	21人	10/19～12/14	8回	68人
	ふれあい料理 ※注1				
	台湾をより身近に ※注1				
	パソコンで年賀状を作ろう！	9人	11/2～11/30	3回	25人
	ハンドパン体験講座		2/21	1回	5人
	高齢介護課 共催講座 ①ノルディックウォーキングで健康寿命を延ばそう 応用編 ②編みあみ講座「ペーパークラフトバンドでかごを作ろう」 ③編みあみ講座「健康的な布ぞうりを作ろう」	16人 15人 15人	9/25～10/30 11/14 1/14・21 1/18・25	5回 1回 2回 2回	80人 9人 30人 30人

人権課題事業	ほっとハートコンサート ～音楽を通じて平和・人権を考えてみませんか～		12/11	1回	43人
文化振興事業	ロビーコンサート ※注1 5/19・7/21 中止		9/15～3/16	4回	150人
	～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」 市民合唱練習 本番	13人	7/3～10/15 10/16	10回 1回	130人 50人
	ジャズライブ in 山手		11/22	1回	100人
	第8回 たまねぎ劇場 ※注1				
人材養成事業	ふれあい料理ボランティア	7人		3回	21人
	おさんぽかばさんボランティア	5人		7回	22人
	保育ボランティア	9人		9回	37人
	かばさんルームボランティア	5人		10回	30人
地域連携事業	ロビー活用		随時	—	—
	おさんぽかばさん		9/29～10/27	5回	17組
	水間末廣座		2/28	1回	75人
団体支援事業	山手地区公民館活動協議会	38クラブ	542人	—	—
	利用者団体代表者会議 ※注1				
	バンド連絡会	2バンド	8	—	—

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1回限りの事業（参加者数）は「延べ参加人数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」

※注1は「新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止」

こうみんかんへGO!～小学生（高学年）の宿泊体験

<ねらい>

コロナ禍でも、子どもが学校外でのいろいろな体験活動を通して、新しいことに挑戦したり、異年齢の仲間づくり、夏の思い出づくりとなるよう取り組む。また、公民館クラブや公民館登録ボランティアの協力を得て地域の大人と交流する機会とする。

<状況・成果>

9/5（土曜日）午後3時～9/6（日曜日）午前9時（全1回）参加者11人

コロナのため、夏の子ども講座や「夏休みあそびスペシャル」が中止となり、それに替わる事業として開催。初めての取り組みということもあり、子どもに楽しんでもらおうとスケジュールは職員で決めた。子どもを見守る協力ボランティアを、公民館利用者や活動協議会役員に依頼した。

子どもたちは2チームに分かれ、チーム名やリーダーを決め、夕食の食材について話し合った後、近くのスーパーへ買い出しに行った。途中、雷や大雨に遭遇したが、決められた予算内での買い物の方に一生懸命だった。買い物ひとつとっても各自の経験を生かして値段や分量を決めていた。

調理では、手慣れている子は積極的にかかわっていたが、何もすることがなく遊んでいる子もいた。また調理台が高くて調理しにくい子もいた。

夕食後は、つげさんとの記念撮影・スイカたたき・花火・くじびき・ビーチバレーボール・卓球・肝だめしと盛りだくさんの遊びで楽しんでいた。

就寝前には、一人ひとりシャワーを浴びたので、時間がかかり就寝時間を過ぎてしまった。広いホールと保育室に分かれて就寝となったが、寝袋初体験の子がほとんどだった。

朝食は、ボランティアがほとんど準備してくれていたもので、自分で好きなものをパンにのせて食べていた。最後に思い出づくりのカードを作成し、前夜撮った集合写真を貼り付けて持ち帰った。

コロナ対策は、初めに子どもたちへ密にならないよう説明し、ヘルスチェック表の記入、手拭き用にペーパータオルを用意、手指の消毒、食事時は一人一脚の長机に座り全員同じ方向を向いて食べたり、使い捨て食器を使用した。

ボランティアにとっては、子どもたちとのかかわりを通して、今の子どもたちの現状を知る機会となり、世代間交流の場となった。また子どもたちにとっては協調性や思いやりなど集団生活に必要な良い経験ができた。アンケートでは、「楽しかった、また来年も参加したい」という感想があり、後日公民館にお礼の手紙も届けてくれた。

<課題>

スケジュールや遊びコーナーは職員ですべて準備したので、子どもが自分たちで準備できる内容にしたり、計画の段階からボランティアにも相談しながらすすめる。もう少し時間に余裕を持たせるような時間配分を検討する。



百人一首

<ねらい>

百人一首の遊び方・覚え方・上達の秘訣を学ぶとともに、日本の伝統文化に触れる機会とする。また、異年齢交流を深め、グループ作りをすすめる。

<状況・成果>

7/4～3/6（全9回）土曜日 13時～15時 受講者8人 ※4/4～6/6はコロナの為に中止

2018年度に連続講座を開催し、その後自主グループ「秋桜カルタ会」を立ち上げ、中学生を中心に活動してきたが、受験勉強やコロナ禍の影響も重なり欠席者が増加。再度公民館の青少年事業として取り組んだ。

以前よりは人数が減り、小学生5人・大人1人・保護者2人となったが、保護者と職員で進め方を相談し、早く覚えられるように“きまり字カルタ”を作成したり、個人戦・グループ対抗で上達を確認したり、時には楽しいイベントも企画しながら交流を深めている。

指導者がいないとマンネリ化になり、低学年と高学年の覚え方にも差が出てくる。

<課題>

子どもたちに百人一首の楽しさを伝えるためには、時には指導者に依頼することも検討する。

また、参加者増加に向け広く宣伝していく。



レッツTRY

<ねらい>

青少年が気軽に公民館に親しみ、利用できる機会を提供し、青少年の活動・交流の場を支援する。

<状況・成果>

今年度は、第三中学校・高石高校・日根野高校の3グループで、軽音楽バンドやダンスでのグループ登録だった。

中学生は1年生の友達同士2人で、ホールの鏡を使ってダンスの練習で利用したいと、母親も一緒に来館して相談があった。定期的な活動には至っていないが、これをきっかけに様々なジャンルの青少年グループの活動に公民館が利用されることに期待する。

軽音楽バンドの利用はコロナ対策で換気が不十分となる音楽室の利用定員の制限が続いており、前年に比べ大幅に減少した。

<課題>

コロナ禍で青少年の活動や交流する場が制限されるなか、自主的な活動を支援できるよう、積極的に“レッツTRY”事業についての情報発信をしていく。

親子でつくる ～世界でひとつのX'mas～

<ねらい>

小学生やその親（若い世代）に公民館を知ってもらいきっかけとする。

親子で一緒に過ごす時間を楽しむ。

作品を完成させることで、達成感を親子で共有する。

<状況・成果>

広報かいつか 10月号で募集記事を掲載した。しかし申込が少なく、急きよ、木島・東山・葛城小学校へチラシ配布をお願いしたところ、3つの講座すべてが満員となった。

また、チラシに添付したメールアドレス（QRコード）を使っての申し込みが半数以上で、若い世代には抵抗なく、利用しやすい申込方法であることがわかった。

コロナ予防対策として検温、ヘルスチェックの実施、手指消毒、三密対策を徹底した。

親の感想には、「コロナで様々なイベントが中止になりどこへも行けない中で、親子での良い時間が過ごせた」との声が多くあった。

①陶芸作品

11/22・12/6 日曜日（全2回）10時～12時 受講者11組

協力：陶芸（夜）クラブ

1日目に土からの成型、2日目に釉薬（ゆうやく）を使っての絵付けをした。陶芸（夜）クラブの講師が子どもたちにクイズを出しながら楽しく進めた。作るだけではなく、陶器の部位の名称を身体の部分に例えて呼ぶことや、絵付けには化学反応が関係していることなど陶芸の歴史や知識なども伝え、子どもたちにとって良い学びとなった。



基本のカップを作るところから始めたので、時間と土の量が足りず、クリスマスらしい作品とはならなかったが、ハート型のカップや、持ち手に飾りを付けたり子どもたちの自由な発想で個性ある作品が多くできた。

親からは、「土からこねて作る機会はなかなか無いので、親も子も良い経験になった」との感想があり、子どもたちも「ぜったいに割らないよう大切に使う」と、本焼き後の完成を楽しみにしていた。成型・絵付けの工程以外にも必要な準備作業が多く、陶芸（夜）クラブが本来の活動時間の一部を充てて協力してくれたおかげで予定どおり完成することができた。

②竹ランタン

11/28 土曜日 13時～15時 受講者10組

協力：木工クラブ

親と子どもの共同作業により、竹の表面にクリスマスのデザインを描いた型紙を貼り付け、型紙に沿って電動ドリルで穴を開けた。出席者全員が、初めての経験だったが、木工クラブの協力により、初めてとは思われない手つきで作業を進め、世界に一つだけしかない作品を完成させることができた。完成したランタンに灯りを入れると幻想的な世界が広がった。コロナ禍で、大人も子どももストレスが多いなかでの癒しの場となった。



③鉢植えクリスマスツリー

11/29 日曜日 10時～12時 受講者 10組

講師：天野英子（花育講師）

ゴールドクレストの木を陶器の植木鉢に植え替え、たくさんある飾りから好きなものを選んで飾り付けをし、植木鉢にもデコレーションをした。

子どもの自由な発想を大切にして欲しい、また制作を通して親子でのコミュニケーションも楽しんで欲しいと、アドラー心理学勇気づけリーダーの資格も持つ講師から「依頼言葉（～して欲しいな）や、良い出し（⇔ダメ出し）を心がけてみましょう」と説明をしてから作業を始めた。

最後に、普段は言葉で言えない気持ちをカードに書いて交換し、親子での時間を楽しんでもらう良い機会となった。

<課題>

親と子どもが一緒に楽しめる講座の工夫をする。



将棋倶楽部

<ねらい>

子どもたちが将棋に親しみ、将棋を通じて仲間づくりをすすめる。また、地域の大人との世代間交流の場とする。

<状況・成果>

7/18～3/13 第3土曜日 14時～15時半（全9回） ※4/18～6/20はコロナの為中止

受講者：15人（1年生/1人 2年生/5人 3年生/1人 4年生/2人 5年生/3人 6年生/3人）

ボランティア指導者：5人

今年度はコロナ感染拡大予防のため前年度の継続受講者を中心に7月からスタートした。コロナ感染予防対策としてマスクの着用や飛沫防止パーテーションを設置し、1局ごとの駒、盤の消毒と子どもたちの手指消毒などを徹底し、参加する子どもたちや保護者へは少しでも安心して参加できるよう工夫してきたが、貝塚市内の感染状況が悪化するごとに受講者数が減る等参加状況も不安定になり、少ないときは子どもとボランティアとの対戦が多くなった。

また、ボランティアもコロナ禍での府下の動向に左右され、“今は外出自粛している” “子どもと接触することでお互い感染させてはいけいけないので行けない”等の理由でボランティアが揃うこともなかった。

＝新春子ども将棋大会＝

1/16 土曜日 13時～15時

昨年度に引き続き、山手地区公民館長杯「新春子ども将棋大会」を開催した。コロナで緊急事態宣言が発出されて、当初10人の参加予定が辞退する子どももあり、5人の受講者の参加となったが、日頃の練習の成果を発揮した。

<課題>

コロナ禍でも受講者の安心安全が確保できるよう対策を徹底していく。



フアフアクラブ

<ねらい>

発達障がいや不登校などの困り感のある小学生とその親を対象に、親も子も小集団の中で自分の居場所を見つけ、その中で自分の意見を言える場とする。

親子で調理や製作などの体験を重視した講座とし、親子・親同士・できたら子ども同士の交流をはかっていく。特に、親も楽しんでもらい、親の悩みも聞いていく。

<状況・成果>

前期：5/16～9/19 第3土曜日 10時15分～13時（全4回・8月はなし）

後期：11/21～2/20 第3土曜日 10時15分～13時（全4回）

講師：松本 啓子 スタッフ：スマイリー有志

※いずれもコロナの為中止。

以下、スタッフとの話し合いの経過

4/2 前期の計画を相談。4月号広報に募集を掲載したが、募集期間中に中止決定。

5/8 5月までの閉館に伴い、9月から再開を決定。コロナ禍でもこの講座は大事であるという判断から、料理はやめて濃厚接触を避けるようなプログラムに変更。

8/20 後期も中止と決定。9月号広報掲載予定だったが断念。

<課題>

コロナ禍での講座再開を含めて、今後もスタッフと話し合いを重ねていく。

親子でオリジナルアート

<ねらい>

親子で共通の学びをすることによりコミュニケーションを増やす機会をつくる。

<状況・成果>

2/27・3/13・3/27 土曜日 13時30分～15時（全3回） 受講者 2組

講師 絵ごころ 馬場 義弘さん

親子で絵を描くことにより「家庭でのコミュニケーションを増やしたい。」「身近にある筆記用具を使って子どもの感性を引き出したい。」という講師の願いにより小学生親子を対象とした3回講座で“親子でオリジナルアート”を企画することになった。

1回目は、好きな絵を描くことから始まり、親が子どもから感性を引き出す方法を学んだ。子どもが鉛筆で絵を描き、「どのような思いで描いたか」話を聞き出し、親が色塗りをした。慣れてきたところで、鉛筆の持ち方や、直線の描き方のコツを教わり『一筆書き（ひとふでがき）』に挑戦した。受講者は完成した絵に満足している様子だった。

2回目は、子どもは自由にホワイトボードや画用紙に絵を描き、親は曲線を描くテクニックを学び一筆書で、オリジナルのハート入りマークを作成した。

3回目は、親子で似顔絵を描いた。いつも以上に親と子が見つめ合い、互いの顔を描くことで、更に親子の絆が深まったのではないだろうか。

<課題>

親子で共通の学びを続けて行けるような工夫や企画を検討する。

木工作「木のミニこいのぼり」

<ねらい>

手作りの木製ミニこいのぼりを親子で共同して作る中で、工具の使い方や様々な木の種類を学び、世界で一つだけのこいのぼりを完成させる。

<状況・成果>

3/27 土曜日・28 日曜日 9時半～12時半 受講者 4組

講師：大島 健、多田羅 進（木工クラブ）

申し込みは、27日1組、28日3組の合計4組があった。

受講者は電動工具の使用は初めてで、説明時から緊張した様子で、まずは工具に慣れてもらうよう端材を使って練習した。様々な木で曲線、直線切りを体験してもらい、木の材質によっては硬く思うように切れなくて何度もトライしていた。

工具の使用に少し慣れてきたところで、こいのぼりの作製を行い、特に電動糸鋸を使っての曲線切りやボール盤（穴あけ機）の操作には悪戦苦闘しながらも必死になって作製していた。時には木工クラブの人に助けてもらい親子で各パーツを組み立て、完成した時には出来栄えに満足した様子であった。

<課題>

子どもたちに木の良さを伝えていくためにも、地元の木を使っての企画講座を検討する。



はじめての人形劇

<ねらい>

幼児期に親子で生の舞台にふれる機会とする。

<状況・成果>

9/27 日曜日 10時半～11時半 参加者 48人 (15組)

出演：人形劇団クラルテ

演目：「○・△・□～なにをあそぼ～」

「赤いめんどり」



今年で5年目になる事業。コロナ禍で、定員50名、先着順とした。締切時点で定員に満たなかったことから、定員になるまで受付をした。当日はコロナ予防対策としてヘルスチェックシートを依頼した。また、子どももソーシャルディスタンスを確保するため、椅子に座っての観劇とした。

幼児にもわかるような○△□の形がいろいろなものに形を変えて想像の世界がどんどん広がっていくような人形劇に、子どもも親も不思議そうに見入っていた。また、「赤いめんどり」では、0～1歳の乳幼児には内容を理解するのは難しいと思われたが、犬や猫が登場する場面もあり、約1時間じっくりと鑑賞することができた。

<課題>

今後も幼児向けに人形劇の楽しさに出会える機会として継続していく。

かばさんルーム

<ねらい>

乳幼児をもつ親や子どもの交流の場として開設し、子育てについての情報収集の場とする。

<状況・成果>

6/22～3/29 ※4/1～6/15はコロナの為中止

毎週月曜日 13時～17時

かばさんタイム：毎月第3月曜日 14時～15時半（変動の月あり） 参加者：延べ106人

かばさんルームは6月22日よりコロナ予防対策を行い、乳幼児親子の自由な遊びと交流の場として保育室を開放したが利用者は2組だった。かばさんタイムは、7月よりかばさんルームボランティアと一緒に遊ぶ企画をし開催したが、毎回1～4組の親子の参加者だった。

全体的に利用者の人数を増やすことができなかった。来年度は、かばさんルームは休止とし事業の内容を見直す。

かばさんタイムの内容（4月～6月はコロナのため中止）			
7月	ヨーヨー釣り	12月	すくすく子育て応援隊による「音の鳴るおもちゃ作り」
9月	模造紙を使って「おえかき」	1月	お買い物バック作り
10月	貝塚市消防本部による「消火器の使い方」	2月	「楽しい折り紙」の折り方紹介
11月	クリスマスリース作り	3月	親子ヨガ

<課題>

公民館の特性を生かした事業を検討し見直す。

絵本ピクニック

<ねらい>

絵本を通して人とのつながり作りをすすめる。

<状況・成果>

5/16 土曜日 11時～14時 ※コロナの為中止

場所：水間公園

共催：貝塚市民図書館・貝塚スバコ図書グループ

前年度取り組んだ、スタンプラリーや展示はせずに「ブックフェスタ 2020 in 関西」の期間に合わせて絵本ピクニックを中心に参加することを決めて進めていた。

貝塚市民図書館よりブックトラックの設置、貝塚スバコ図書グループ所属の各団体でオープニングや読み聞かせの企画を予定していたが、コロナの拡大により中止となった。

（「ブックフェスタ 2020 in 関西」も自体も中止、秋にオンライン開催となった）

<課題>

貝塚スバコ図書グループの幅広い活動につなげるためにも、貝塚市民図書館と協力して事業を展開していく。

デニムdeりめいく

<ねらい>

小さい子どもがいると家では避けてしまう裁縫を、公民館に来て気軽に楽しむ。

子育て中の親にも、物づくりを通じてSDGs（持続可能な開発目標）を学ぶ機会とする。

<状況・成果>

3/9・16 火曜日 9時45分～12時 受講者：5組

協力：おさんぽかばさんボランティア

秋に実施した“おさんぽかばさん”でマスク作りをしたとき、「裁縫に集中できて楽しかった。」との参加した乳幼児親子の声が多くあった。「子育て中のお母さんにも裁縫を楽しむ時間を提供したい。」とのボランティアの声と、“着れなくなった子ども服の活用方法”として、履かなくなったジーンズをリメイクして小物入れを作る内容とした。古着は受講者に家があるものを持参したので、それぞれ風合いの違ったオリジナルの作品が完成した。

最終日には、今回の講座をきっかけに、日々の生活でもSDGsを意識してもらえるよう、簡単な説明プリントを作成し、配布した。

【受講者の感想】

- ・なかなか時間のとれない日々を送っておりますが、楽しいひとときでした。
- ・今まで捨てていたジーンズを可愛い小物入れに大変身させることができてとても楽しかったです。
- ・学んだことを活かし、家でもまた作ってみたいと思います。

<課題>

子育て世代が興味のあるテーマから、身近な問題としてSDGsを理解・意識できるような講座の企画。

保育つき講座 プレ ワーキング母（ママ）のススメ

<ねらい>

育児休業中や、子育てしながら復職・再就職を考えている方が働きながらの子育てに対しての不安を話して共有できる場をつくる。

手抜きじゃなくて「自分らしく&楽しく 仕事する・子育てする・家のことをする」を目標にメンタル面や実践方法を学ぶ。

<状況・成果>

1/14～2/28 木曜日（全6回） 10時～12時 受講者7人 保育5人

今年度はコロナ感染拡大の影響で、春期の保育つき講座「子育て×自分磨き」は中止となった。秋期は10月頃の実施であるが、例年3館の保育つき講座が同時期に実施されていることから、3館の担当職員で話し合い、受講者が参加し易いように時期をずらして実施することになった。

内容は子育てをしながら仕事復帰を目指す母親を対象に“自分を大切にしながらの両立”をテーマにして、親子ヨガ体験やサンキャッチャーカラーセラピーでの自己分析、家の片付けやお金のこと、入園に向けた準備や子どもとの関わりで大切にしたいことなどを学んだ。

受講者は2人以上の子どもがいて、来年度中に仕事復帰予定の母親が多かった。受講動機は「1人目の時より仕事復帰に向けての不安が大きいから。」「コロナで外に出ることが少なく、子どもが家族以外の人と接する機会が少ないことを不安に思ったから。」などであった。

緊急事態宣言が発令されたこともあり、7人のうち1人が2回目以降を辞退した。

コロナ対策を考慮したプログラムの組み立ての中で、受講者同士の交流をどのように図るか、が1番の悩みであった。1日目・2日目は保育室で子どもと一緒にできる内容で受講者同士お互いを知る時間とし、各講座の最後には感想をみんなの前で話してもらうようにした。その他もリラックスした雰囲気を受講できるよう、和室を使用するなどの工夫をした。

講師も小学生までの子どもがいる子育て中のかたばかりだったので、受講者も親近感を持つことができたのか、悩みや不安を相談することが多くみられた。それに対して受講者同士が共感し合っ

<受講者感想>

- ・手づくり講座に学習とあり大変楽しく良い時をすごさせていただきました。
- ・自分の時間が作ることができる機会があったのは本当によかったです。
- ・毎回、帰りは嬉しそうに話をする我が子がいて、私も嬉しさを感じておりました。

<課題>

ニーズの把握と、学習の要素も入れたプログラムの組み立て。

受講者同士、悩みや不安を共有しやすい雰囲気づくり。

月 日	内容	講師・協力
1/14	講座・保育説明	保育ボランティア
1/21	親子ヨガでリラックス	朝ヨガクラブ講師 西村寿子
1/28	サンキャッチャーカラーセラピーで 子育て×仕事をポジティブに	サンキャッチャーカラーセラピー・チャイルド心理カウンセラー SUN
2/4	親子でハッピーな園生活のために	すくすく子育て応援隊
2/18	お家のお片づけ～10分以内でほらっ☆元通り！～	お片づけ教室 「リビング・ホーム」主宰 谷地 愛
2/25	お金のお片づけ ～将来を考えて整理すれば不安も減る～	

ことぶきクラブ

<ねらい>

65歳以上対象の講座で、受講者自ら企画したことをみんなで協力しながら運営していく。

生き生きとした高齢期を過ごせるよう、受講者同士で支え合う関係づくりをすすめる。

<状況・成果> 毎週火曜日 10時～12時（全18回） 受講者32人

※4/7～5/26はコロナの為に中止

コロナのため中止していたが、6月より開催し、新規受講者5人が加わった。

しかし、コロナ禍で、不安を抱く人もあり当分欠席するという人もいた。

三密を防ぐための対策として、会場はホールとし、時折り扉を開けて換気したり、毎回その日の受付担当者が検温とヘルスチェックを行い、講座時間も短縮した。

プログラムは、受講者全員から要望を聞き、代表者3人と職員でまとめている。以前は茶話会や料理実習・バスツアーなどで交流を深めていたが、三密を避けるため距離をとって全員同じ方向を向いて座るなどの対策をし、ビデオ鑑賞や講義を多く取り入れた。また、「ことぶきだより」を毎回発行し、受講者の自己紹介や講座の様子を掲載した。

他にグランドゴルフとみかん狩りを取り入れ、久しぶりに野外活動ということで、会話ははずみ楽しい表情だった。

小物づくりでは、時間内に完成することができずに、後日受講者2人が他の人の作業を手伝った。

最終日に距離をとっての反省会を行ったが、他のグループの声が聞こえ、またマスクごしだったため話が聞こえづらそうだった。



月日	内 容 ・ 講 師
6/1	ことぶきクラブ開講
6/23	「貝塚の歴史」講師：公民館クラブ講師 南 藤甫
6/30	「業平道と伝説」講師：月山 渉
7/7	早川 一光さんのビデオ鑑賞
7/14	落語 落語家：桂 恩狸
9/ 1	つげさん体操とつげサンバの練習・脳トレ
9/ 8	百人一首「恋うた」 講師：野路 義幸
9/15	盆踊りを楽しみましょう（音頭と簡単な踊り） 講師：泉州・江州・河内音頭交流会 龍粋
9/29	健康体操 講師：公民館クラブ講師 坂上 紀子
10/ 6	グランドゴルフ【東山グランド】
10/13	早川一光さんのビデオ鑑賞
10/20	～アニメーションに挑戦～物語の登場人物になりきろう 講師：池西 千代子
10/27	愛用のめがねを描こう 講師：馬場 義弘
11/10	みかん狩り
11/17	南京玉すだれ・よさこいの練習
11/24	クラフト紙バンドで小物づくり 講師：高井 眞弓
12/ 1	折り紙～2021年の干支“うし”をつくろう～
12/ 8	童謡をうたおう 講師：公民館クラブ講師 堺 正子 今年度を振り返っての話し合い

12月で一旦終了となったが、3月に次年度の取り組みについて話し合うこととなった。

<課題>

三密を避けながらの講座運営は、交流することが難しい。

特に自由席にすると仲の良い人同士で固まってしまう。

コロナ禍での班活動の持ち方について検討する。

市民企画「はやりの Zoom を体験し、活用してみよう」

<ねらい>

市民グループの企画を支援。

<状況・成果>

11/10～12/15 火曜日 19時～21時 (全6回) 受講者4人

企画：市民グループ「Zoomを学び活用する会」

講師：鳥居 伸利 (IRグループ)

コロナ予防対策で三密を避けるために、Zoom (オンライン会議システム、以下 Zoom と表記) を使った遠隔会議の必要性を感じたメンバーが、活用の仕方についてもっと学びたいとの問題意識をもち、広く一般市民にも呼びかけ共に学ぶために取り組んだ。コロナ禍で、Zoomに興味を持っている人も多いと予測したが、意外と受講者は少なかった。

受講の動機は、「全国にいる会社のOB会で使いたい。」「公民館大会でZoomを使うので参考にしたい。」「今以上に活用方法を学びたい。」という声があった。使用機種は、パソコン及びスマートフォンのどちらでも対応できるような指導であった。

内容は、Zoomのメリット・デメリット・トラブルへの対処方法・バックボード(背景)の作り方などであった。また、ホスト役でZoomの場を進行するためには、メンバーの特徴をタイプ別に知り、コミュニケーション戦略をはかることが大切という講師の助言のもと、性格タイプ分けアンケート(コーチング)を実施した。5回目までは講師がホスト役だったが、最終回は受講者の1人がホスト役となり、講師と他の受講者を自分の会議室に招待する形をとった。Wi-Fiの中継が切断したり、音声が遅れたり、画像が制止するなどのトラブルがあった。

講座の形式は、6回のうち公民館での講師による対面講義と、受講者の自宅でオンラインを用いた復習となった。初回到講師とは面識があるので、2回目のオンライン終了後には、画面を通してではあったが、「今まで講師が側にいたかのように感じられた」との感想もあった。

<課題>

今後ほかの講座でも、さらにオンラインの必要性がでてくるので、インターネット環境の整備を充実していく。

回	月日	場所	テーマ	内 容	講座形式
1	11/10	公民館	基礎講習	Zoomの設定・使い方をパソコン、スマホ共に習得します。またZoomに関するセキュリティや便利な機能を学びます。	講義 実習
2	11/17	受講者の自宅	基礎確認	前回習得した内容の復習とZoomの利用確認を、Zoomを使って行います。	実習
3	11/24	公民館	応用講座	Zoomを趣味や生活をよりよくするための活用方法と、ビジネスでの利用に際しての注意点などを学びます。	講義 実習
4	12/1	受講者の自宅	応用確認	前回習得した内容の復習とZoomの利用確認を、Zoomを使って行います。	実習
5	12/8	公民館	発展講座	Zoomについての啓発と活用レクチャーができるレベルの知識と実践力を習得します。Zoom活用に必要な自己PR能力も学びます。	講義 実習
6	12/15	受講者の自宅	発展確認	前回習得した内容の復習と、Zoomの利用確認をZoomを使って行います。	実習

ペーパークイリングポインセチアを作ってみませんか

<ねらい>

新しい趣味を見つける場とし、物作りの達成感から自己発見につなげるきっかけとする。

<状況・成果>

10/20 火曜日 13時～15時 受講者 10人

協力：ペーパークラフト・クルクル（活動協議会役員有志）

新しい趣味を見つける場とし、西洋技法で作る紙細工、ペーパークイリングで「ポインセチアの額」を作る講座を開催した。受講者全員が初めての体験だったので、紙の巻き方のコツや用具についても質問が出て、活発な講座となった。また、受講者全員が、同じ材料・テーマの作品に取り組んだが、それぞれ個性のある作品が完成した。受講者同士が作品を見せ合い、良い雰囲気が出た。また、新しいことへの挑戦と物作りの達成感を感じてもらえたようだった。

<課題>

今後も利用者同士が学び合い絆を深める場づくりをめざす。



大人向けランタン作り体験

<ねらい>

コロナ禍における「癒しの場」「学びの場」づくり。

<状況・成果>

11/26 木曜日 9時～12時 受講者 7人

講師：木工クラブ

コロナ禍で不安やストレスを感じる人も多い中で、自然の竹にふれながら和のイルミネーションを手作りする企画をした。木工クラブに協力してもらい、初めて工具を使う人でも、安全に電動ドリルで竹に穴を開ける方法やスムーズに工程を進める方法を検討し、講座を開催した。受講者は、時間内でランタンを完成させることができた。完成後、和室に移動し、ランタンに灯りをともして初対面同士が作品について感想を語り合うコミュニケーションの場となった。受講者からは、「木工クラブに興味を持った。」「コロナ禍での癒しの講座だった。」といった感想があった。

<課題>

参加者同士が交流し学び合い、趣味や特技を生かせる活動の場づくりをめざす。



公民館でピンポンを楽しみましょう

<ねらい>

卓球人気が高まっており、公民館で活動している2つの卓球クラブも定員に達しており、新規の受け入れができないという課題解消のために取り組む。また、広く一般市民に公民館に親しんでもらい、新しいグループ作りをめざす。

<状況・成果>

10/19～12/14 月曜日（全8回）15時半～17時 参加者 延べ68人

公民館ホールを開放し、申込みなしで自由参加。21人の登録があり、毎回8人ぐらい集まったので卓球台を5セット用意した。自分たちでメンバーチェンジをしながら、回を重ねるごとに参加者同士の交流も深まっていった。体力のある人は休憩もしないで、夢中で練習していた。

卓球クラブのメンバーがボランティアで協力し、玉拾いやフォームのアドバイスをを行った。

新しいグループ作りについて話し合った結果、半数のメンバーが残ることとなり、火曜卓球クラブの空き待ちの人にも参加を呼び掛けた。名称を卓球クラブ「だるま」とし、金曜日の12時半から活動することとなった。

<課題>

今後も各クラブに課題が生じた場合、その課題解決に向け解消するように支援していく。



ふれあい料理

<ねらい>

障がい者自身が料理実習を通して、主体的に参加したいと思える場づくり。

受講者同士やボランティアとの交流を深める。

公民館利用者への障がい者理解を広めるための接点をもつ。

<状況・成果>

5/15～3/19 第3金曜日 10時半～12時半 (全10回) ※コロナの為中止

障がい者施設・料理ボランティア・公民館職員の打ち合わせは例年4月に開催していたところ、6月19日開催となった。その時点では、2つの施設が外部の人との接触を避ける為、外出禁止となっており、料理実習参加も不可能、10月をめどに参加予定ということであった。あとの1つの施設は、その時点では外出可能だったので、7月から講座を予定。開催するにあたり、料理室の人数制限があり「月1回」の開催を各施設ごと順番に参加してもらうこととした。しかし、再びコロナ感染拡大となってきたので、結局今年度の開催は全て中止となった。

<課題>

コロナ予防対策をとりながら受講者が参加できるような体制づくり。

台湾をより身近に

<ねらい>

東京五輪・パラリンピックで台湾の女子卓球チームのホストタウンに登録されている貝塚市。五輪選手を迎える雰囲気盛り上げるとともに、おもてなしの心で迎えるために料理実習と簡単なあいさつ、風習を学び、台湾文化を理解する機会とする。

<状況・成果>

6/21 日曜日 10時～13時 ※コロナの為中止

講師：蘇 意雲（そ いうん）（台湾の台中市出身、来日7年目）

台湾出身の人を探すために、かいつか国際交流協会に相談し、講師を紹介してもらった。料理実習の献立や材料費についても講師と打ち合わせを重ねてきた。

広報かいつか5月号に募集を掲載し、数名の応募もあったがコロナのため募集期間中に中止を決定した。応募者にも中止の連絡を行った。

<課題>

山手地域にも日常生活の中で外国のかたを見かけることが多くなっているため、今後、異文化を理解するための機会を広げていく。

パソコンで年賀状を作ろう！

<ねらい>

自作の年賀状を作り、送ることを目標に、パソコン操作を学び、パソコンに親しみ、学ぶ機会とする。

<状況・成果>

11/2～11/30 月曜日 10時～12時 (全3回) 受講者9人

講師：PCサークル「絆」 岸田 一雄

PCサークル「絆」の協力の下、パソコンを使って自作の年賀状を送ることを目標に行った。

受講者は、パソコンは持っているが、インターネットしか使ったことがない人やバージョンの古いパソコンで参加する人、また今回の講座にわざわざ新しくパソコンを購入して参加する人等で、事前に用意していた教材を使うことができず、バージョンを統一するのに時間がかかった。

初回は、受講者同士も話すこともなく、黙々とパソコンに向かっていたが、回を重ねるごとに受講者同士で教え合い、交流しながら受講者全員がオリジナルの年賀状を完成させることができ、何とか年賀状を送ることができた。

講座を通じて受講者とPCサークルメンバーとの交流もでき、講座終了後PCサークルに加入する人もいた。

<課題>

講座に参加する人のパソコンが多様となるため一律のソフトでは限界があり、バージョンに合わせたソフトを準備していく。

ハンドパン体験講座

<ねらい>

外国のめずらしい楽器演奏を身近に体験することで異文化にふれる機会とする。

受講者相互の交流を深める。

<状況・成果>

2/21 日曜日 13時半～15時 参加者5人

出演：ハンドタップス Handtaps (kenshi&caon)

最初にハンドパンの由来の紹介・たたき方や注意事項の説明があった。5台のハンドパンを準備してくれたが、一つひとつ手作業で作られているので、微妙に響きが違うようだ。

出演者がたたいていると簡単そうに見えるが、実際各自がたたくとうまく音が響かなかった。しかし、慣れてくると心地よい響きが聴こえてきて、最後はみんなで合奏することができた。

「自分でたたいてみて全然響かなかったが人差し指で鳴るようになりすごくうれしかった。無心でたたけるのがすごくリラックスします。イヤなこと忘れられそう。」という感想があった。

<課題>

今後も新しいジャンルの音楽の紹介と体験を組み込んだ講座を企画していく。



高齢介護課 共催講座

<ねらい>

介護予防・健康づくりに役立て、それらを地域で推進していくために高齢介護課と連携して取り組む。

①ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう

<状況・成果>

9/25～10/30 金曜日 10時～12時 (全5回) 受講者 16人

応用編(日帰り 行先:京都) 11/14 土曜日 参加者 9人

講師: 松田 浩一 (NPO法人日本ノルディックウォーキング協会公認インストラクター)

当初は春の開催講座で、広報かいつか3月号での募集には12人応募があったが、コロナのため延期となった。再度8月号広報で募集し16人の参加となった。受講者は全員60代以上で、動機は「体力作りのため」「医者より歩くようにすすめられた」「ポールを持っているが基本をマスターしたい」ということだった。

講座開始当初は、ポールをつくことに慣れていなくて、同じ側の手足が同時に出てしまう人もいたが、徐々に慣れてきて表情も明るくなってきた。5回中、雨天が3回あったが、参加率は高かった。

2種類のポールを用意していたが、最終回ではレキ(運動効果の高いポール)を好む人が半数以上で、各自ポールを購入し、今後自主活動へと発展していくこととなった。

(アンケートより)

- ・背すじが伸びて軽快に歩くことができうれしいです。今後も是非続けていきたい。
- ・両ひざを手術したので歩くことに不安はありましたが、ポールを使うとバランスもとれて歩く練習になりました。
- ・通院していますが、この講座を受講するようになってから、医師が驚くほど肩もあがるようになってリハビリ効果大です。



②編みあみ講座「ペーパークラフトバンドでかごを作ろう」

<状況・成果>

1/14・21 木曜日 13時半～15時半 (全2回) 受講者 15人

講師: 高井 眞弓

定員15人のところ応募者19人で抽選を行い決定した。三密を避けるため長机に一人一台で着席。巻テープを必要な長さに切るところから始めた。クラフトバンドを無駄なく使うための裁断方法があり、受講者にとっては頭の体操となった。かごの形に編んでいく作業も交互に間違えないようにと無言で取り組んでいた。全員完成することができ満足そうであった。かご作りの楽しさを実感したのか講師に追加の材料を分けてもらい2つ目に挑戦する人や、知り合いに教えるという人もいた。

—成人対象事業—

(アンケートより)

- ・このような生活にうるおいを与えてくれるような講座を今後も企画して下さい。
- ・けっこう上手にできてうれしかった。
- ・実用的なのでうれしいです。クラフトバンドのクラブがあったらよいと思う。



③編みあみ講座「健康的な布ぞうりを作ろう」

<状況・成果>

1/18・25 月曜日 13時半～15時半 (全2回) 受講者15人

講師：上野 千賀子

自宅で自分一人でも作ることができるように、布をひも状に切断するところから始めた。ハンガーとビニールひもで編んでいく道具を作り、ひもを編んでいく。両足分を編み上げて第1回は終了した。

第2回は、鼻緒作り。ビニールひもを芯にして布をまつる人、三つ編みにする人などやり方は人それぞれで工夫していた。先に完成した人は、まだ未完成の人に教えるなど相互に教え合っていた。

(アンケートより)

- ・布ぞうりをずっと前から作りたいと思っていたので、とってもうれしいです。
- ・親切でわかりやすくとても良かったです。夏になり素足になるのが楽しみです。
- ・また自分でもやってみたい。家族の分も作りたい。
- ・難しかったけど、できたらうれしい。

<課題>

今年度は3講座開催したが、継続を要望する講座もあり、今後も介護予防につながるような取り組みを継続していく。



ほっとハートコンサート ～音楽を通じて平和・人権を考えてみませんか～

<ねらい>

音楽や楽器の歴史を通して様々な人権課題を考える機会にする。

<状況・成果>

12/11 金曜日 13時半～15時 参加者 43人

講師：アンサンブル“瑞音”（みずおと） 上田 賢一（フルート）、濱口 富子（アルパハーブ）

今年はアンサンブル“瑞音”を迎え、人権週間に開催した。

今回は、コロナ感染予防対策として定員も40人とし、ソーシャルディスタンスの確保をしてホールで実施した。

“瑞音”の主宰者であるフルート奏者上田賢一さんの長年の海外生活から、アメリカでの人種差別問題や民族問題を日常の生活の中で目の当たりにし、日本を含むアジア人への差別の現実や、今なお残る黒人への差別の厳しい現実とそれに対する反差別の運動や取り組みの話があった。そして、今回は企画の段階で講師の方から何か曲のリクエストは？との話があり、国間による紛争や戦争の悲惨さ、愚かさに視点を当てるために“ハナミズキ”をリクエストした。

この曲の作られた経過として、9・11アメリカ同時多発テロ事件が起き、多くの人が被害にあわれた人の思いや残された家族や仲間の想いをつづった曲であることを説明してもらい、国と国との争いや悲惨な戦争によって人の命を奪う最大の人権侵害であることが訴えられた。

また、東日本大震災時の被災地支援に様々なジャンルのミュージシャンと共に参加したときの話として、「現地で温かく迎えられ、被災した人たちの思いや、被災者同士の仲間の絆や助け合い、頑張っている姿に感銘を受けた」との話があった。

最後に、最近マスコミなどでも取り上げられているSDGs（持続可能な開発目標）を知り、学ぶことで“皆さんの生活を見直していくきっかけになるのでは？”との投げかけがあった。

参加者は、フルートやアルパハーブの演奏に魅了され、特にアルパハーブは普段聴く機会が少ないため興味深く聴いていた。

<課題>

コンサート形式での研修と共に課題を絞り学ぶ機会も考えていく。



ロビーコンサート

<ねらい>

身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会とする。

市内で活動する音楽家の発表の場とし、内容の企画・運営についても自主的に進める。

<状況・成果>

奇数月 第3火曜日 12時半～13時半 全4回 延べ150人 ※5/19・7/21はコロナの為中止

コロナのため、5月・7月は中止となった。9月から参加人数制限をし、会場も拡大してソーシャルディスタンスの確保と検温、ヘルスチェックを行い実施。

企画に関わる2グループとコロナ禍の中で何ができ、どんな形でロビーコンサートを実施出来るのかを相談した。

参加人数の制限や出演関係者への声掛けや広報を最小限に抑え、密を避けるためにプログラムの手渡し、アンケートも無くすなどの工夫を凝らして行なった。

参加した人たちからは、コロナ禍で音楽を聴く機会も少なくなった中、“公民館でのロビーコンサートが行われ、楽しいひと時を過ごせたのがよかったし、癒されました”との声が聞かれた。

<課題>

より多くの人に参加できるようロビーを最大限活用し、幅広いジャンルのコンサートを企画していく。

月日	内 容 下段：出演者	企画	参加人数
5/19	コロナのため中止	B	
7/21	コロナのため中止	B	
9/15	～あなたのところに～懐かしの童謡コンサート 岡野玲子・佐東理絵・西上裕恵・北野知子・武絃子	ク	40
11/17	Autumn concert ～心和むとき～ 北川菜美子・中田真一郎・南川真希	ク	40
1/15	新春を唄う ～箏とフルート～ 岡部雅浪・今川知恵子	B	30
3/16	スプリングガーデンコンサート ～モネの庭から～ 待谷翠・奥村由起・松原裕子・西上裕恵	ク	40

※「企画」欄のB=アンサンブルBUNS、ク=貝塚市クラシック音楽家協会



～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」

<ねらい>

山手地域の水間に伝わるお夏清十郎の伝説の音楽劇（オペレッタ）を通して、地域の良さを再発見する機会とする。また、一般市民を募集し、この事業を協同で作りにあげていく。

<状況・成果>

市民合唱練習期間 7/3～10/15 金曜日（10/15のみ木曜日）（全10回）19時～21時

市民合唱（村人合唱団役） 13人

指導：声楽家 角野 芳子、ピアノ 安枝 まなみ

本番 10/16 日曜日 19時～20時半 参加者 50人

第一部 「世界の様々な愛を歌う」、第二部 貝塚みずま「お夏清十郎」（オリジナル曲）

村人合唱団役として6月に市民オーディションを行い、13人を選出。7月から毎月2回練習してきたが、ほとんどの人がオペレッタは初めてで、「歌うだけと思って参加したが、セリフや踊りもあるとは思っていなかった。」と不安に思う人もいて、練習中は歌と踊りが同時にできなかつたり、セリフを忘れるなど苦労している様子だった。9月からプロの声楽家が加わるとその迫りに圧倒され、合唱団の声が吸収されるほどであった。舞台下では、楽器の生演奏者も参加し、合同練習も数回行った。各自持ち寄りの衣装を身につけると、メンバー同士役名で呼び合ったり、お互い励まし合い、つながりが深まった。

「すいてつ沿線魅力はっしん委員会」とともに、宣伝や当日の運営を行った。本番では、水間寺の映像を舞台上に映写し、舞台下では楽器演奏者による生演奏があった。また、休憩時にお夏清十郎についての歴史を社会教育課職員に解説してもらい好評であった。

本番を録画し、後日貝塚市のYouTubeで流した。またDVDに録画し、出演者全員に配布した。本番終了後の市民合唱メンバーの感想では、全員「楽しかった」の一言が聞かれた。また、「コロナ禍で合唱はリスクが高く活動休止や分散練習を余儀なくされています。そんな中、今回の機会をいただけて大切な時間を提供していただけたのは、とてもありがたく思っています。貝塚市民として地域の歴史を知り、この催しに参加できた事に感謝しています。」という感想があった。

<課題>

今回の作詞・作曲はこの事業のために作られたものである。今後録画したDVDを山手地域の活性化に活用していく。



（練習の様子）



（本番の様子）

ジャズライブ in 山手

<ねらい>

ジャズの生バンドの演奏を通して文化に親しむ機会を提供し、日ごろ公民館を利用していない人たちにも公民館を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

11/22 日曜日 13時半～15時半 場所：ホール 参加者 100人

出演 中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ

昨年度はコロナのため中止となり、約2年ぶりの開催となった。

コロナ感染症予防のため定員を100人とし募集したが、1週間でほぼ整理券がなくなり問い合わせが多くあった。

ライブは、スウィングガイズのフルメンバーが出演し、第一部7曲、第二部7曲にアンコール1曲で途中休憩を挟みながら2時間の構成で開催。MCの絶妙な進行と客席とのやり取りによって参加者も口ずさみながら会場全体が盛り上がり、パワーバンドの迫力ある演奏を楽しむ機会となった。

<課題>

スタンダードナンバーだけでなく、若い世代にも受け入れられる曲も取り入れ、気軽にジャズを楽しめるよう工夫していく。



第8回 たまねぎ劇場

<ねらい>

市民グループの発表の場として、皆でひとつの事業を企画・運営する。

地域で活動しているグループに発表の場を提供することにより、貝塚の文化の裾野を広げる。

<状況・成果>

4/12 日曜日 13時半～15時半 ※コロナの為中止

第8回開催に向け、5つのグループが集まり、実行委員会会議を3回行った。初参加では浜手地区公民館クラブ「カントリーダンス」が加わった。

チラシ作成担当・出演順・役割分担を決め、チラシ印刷代を各グループから集めて業者に印刷を依頼した。アンケートの内容も観客が記入しやすい方法を相談した。途中、コロナのため朗読劇グループ「ことの葉」が辞退。こ本番が近付いてきた頃、感染拡大のためやむなく開催中止を決定した。しかし、その後も練習を重ねているグループもあり、発表の機会があれば再度挑戦したいという意向もある。

出演グループ	内 容
朗読劇グループ「ことの葉」	朗読劇
しえるバレエクラブ	バレエ
ビートルズバンド「ビースマイル」	軽音楽
グループ雅	お箏
カントリーダンスクラブ&サンディーズ	ダンス

<課題>

次回開催日の検討。新しいグループの掘り起し。

ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

受講者が主体的に取り組めるよう、個々に合わせた支援を考える。

ボランティア同士の交流を深める。

<状況・成果>

定期登録者 7 人

登録者が昨年度より 3 人減少となった。(体調不良や他市へ引越の為)

コロナ禍で、講座再開に向けて打ち合わせの日を延期した後、6 月に障がい者施設職員・料理ボランティア・公民館職員で話し合う場をもった。講座再開に向けては、料理実習する際の調理器具の消毒の大変さや三密に対する不安、また食中毒への不安を抱いている人もあった。

今年度講座は中止となったが、何かできることはないかと模索する中、料理ボランティアだけでも集まってコロナ対策の研修をしようと 11 月と 3 月に実施した。今後講座を再開する時には、「新しい生活様式」にそった実習となるので、調理や食事時に注意する点など確認しながら料理実習を行った。ボランティアからは「久しぶりに料理実習できたし、みんなに会えて楽しかった。」という感想があった。その他に講座再開にむけて会計の引き継ぎや食品庫の整理を行った。

<課題>

新規ボランティアの確保。

講座再開するまでボランティアの意欲を持続するためのしかけが必要。

おさんぽかばさんボランティア

<ねらい>

ボランティアが、より主体的に活動できるよう支援する。

<状況・成果>

活動メンバー：5 人

今年度は、春に実施予定だった水間寺客殿での「おさんぽかばさん」はコロナ感染拡大のため中止、例年協力している「夏の子ども講座」も実施できず活動の場が少ない一年となった。

メンバーのうち 1 人はコロナ禍での活動に不安があると、当面の間、休むことになっている。そんな状況でも、「小学生宿泊体験」では調理ボランティアとして協力、秋の「おさんぽかばさん」では感染予防しながらできる方法を考え、おやつ提供の代わりに“マスク”や“くるみボタンヘアゴム”を参加者と一緒に手作りする新しい形で開催することができた。また、子育て中の母親が子どもと一緒に来て、ものづくりや交流ができる場としてボランティアの提案をもとに「デニム de りめいく」を開催した。

来年度に向け、コロナ禍でも乳幼児親子や子どもたちが安心して参加できる場を作りたいという思いでアイデアを出しあい、前向きに活動を進めている。

<課題>

今後の活動につながる情報提供や、学びの機会の提供。

保育ボランティア

<ねらい>

子どもが安心・安全に過ごせる保育環境作り。
ボランティアが主体的に関われるような場の提供。

<状況・成果>

定期登録者 5 人 不定期登録者 4 人

保育付き事業：プレワーキング母のススメ

5月に打ち合わせを予定していたが、コロナ禍で中止となった。あらためて11月に打ち合わせを行い、コロナ対策としておやつ準備やおもちゃの取り扱い、手指消毒などについて話し合う場もあった。ボランティアからは、「自分が預かる子どもたちに感染をさせてしまったらという不安はある。」という思いを抱きつつ、保育の現場では、泣いている子どもをあやすために抱いて、どうしても密は避けられなかった。

講座では、子ども4人に対してボランティア4人でマンツーマンの保育であったが、保育者の人数が不足する時は、不定期登録者にも依頼した。定期登録者からは、「もう少し登録者を増やしてくれたら急用時に休みやすい。」という声があった。

毎回講座終了時には、ボランティアの反省会を行い、各自がその日の保育で気がついたことなどを出し合い、ボランティア間で共有し、次回の保育に役立てた。

三館保育ボランティア交流会での他館のやり方を参考にし、保育の様子をビデオ撮影し、最終回の講座時に母親たちに見てもらった。その中には、おやつやボランティアが連絡帳に記入している様子、子どもたちが楽しそうに遊んでいる映像があり、母親からはあらためてボランティアへ感謝の言葉をかかわしていた。ボランティアからも、「お母さんたちが、私たちボランティアを信頼して預けてくれたことがよかった。」という感想があった。

<課題>

今後もコロナ禍で受講者が安心して預けられる保育を、ボランティアとともに考えていく。
定期登録者を増やすための宣伝。

かばさんルームボランティア

<ねらい>

かばさんルームボランティアがより主体的に活動できるように支援する。

<状況・成果>

活動メンバー 5人

かばさんルームは、4～6月はコロナのため中止となり、7月から開催した。メンバーとコロナ禍に対応した企画を提供するための話し合いを行い、家の中でも楽しむことができるおもちゃ作りや、親子ヨガを取り入れた年間スケジュールを考えた。

メンバーは多忙の中、連絡を取り合い企画当日は参加してくれたが、事前の準備については、時間を取ることができず、職員で対応することが多かった。かばさんルームは休止することとなった。

<課題>

ボランティアの思いを受け止め活動できるように支援していく。

ロビー活用

<ねらい>

いつでも誰でも気軽に利用でき、交流できる空間づくりに努める。

文化事業や気軽な作品発表の場、啓発や事業案内などの情報提供の場としても活用する。

<状況・成果>

ロビーでは遊び道具を用意し、これまでは小学生から高校生が放課後や休日に公民館に来ては遊ぶ姿があったが、コロナ禍で来館者は少なかった。

また、例年ならクラブの利用者が活動前後に歓談したり、地域で活動するグループが打合せや集合場所として利用していたが、その姿もほとんど見られなかった。図書コーナーでも同じく本を借るなど子どもから大人まで読書や学習に利用できる多目的スペースも使えなかった。

例年行っている、障がい者施設“ほっこりの里”の「ふれあい喫茶」はコロナのため中止となり、常に最新情報の啓発チラシやパンフレットの配架をしている情報コーナーでも、行政機関や文化施設・市民グループ主催の講座・イベント等の情報を探す人の姿が少なかった。



今年度のロビー展示については、コロナの影響で例年より少なかった。

昨年に引き続き三公民館クラブの交流を目的として、自館にないクラブの作品展示を行った。また、公民館まつりの中止に伴い、協議会で日ごろの活動の成果を発表できる場としてロビー展示、映像発表を企画した。

クラブ以外では一般利用者の展示として絵画・写真や市の啓発展示などを行った。

その他にもクラブの周年展示会や音楽などのロビー発表を呼びかけた。宣伝告知一切なしのロビーでの“ゲリラライブ”は、出演したクラブ員にとっても初めての取り組みだったが、コロナ禍でも工夫した発表ができたことに自信を持ち、他のクラブにも影響していった。

また、例年行っているクラブ展示は、関係クラブで調整し、予定を組んだがコロナ禍で活動ができていないため出展も少なく、見に来てくれる人も少なかった。

■ロビーコンサート（別掲）

<課題>

今後も、地域の人たちが気軽に利用できるような工夫。

ロビー展示だけではなく、ミニライブやコンサート等様々な催しができるように広く周知する。

【クラブ展示】

※「陶芸」は(昼)と(夜)で調整

※「花を楽しむ会」は随時

6月	陶芸・ろうの花・絵手紙
7月	陶芸・ろうの花
8月	水墨画・陶芸・ろうの花
9月	水墨画・陶芸・ろうの花
10月	人形劇「あひる」中央公民館
12月	陶芸
1月	陶芸・パッチワーク
2月	手編み工房
3月	水墨画・陶芸・木工

【みんなのロビー展】

期 間	内 容
5/31～6/30	絵画展（馬場義弘作品展）
7/10～7/19	竹田城写真展（則岡耕治作品展）
7/20～7/31	絵画展（村井絵利子作品展）
9/6～9/27	こうせい展(村上こうせい作品展)
10/15～10/29	絵画展（馬場義弘作品展）
11/10～11/24	書を遊ぶクラブ結成 25 周年記念展
11/30～12/11	「かいづか家族の日」受賞作品展 (社会教育課)
12/5～12/12	木工クラブ展示
1/18～2/12	海洋プラ啓発展示（環境衛生課）
2/15～2/22	天体写真展（善兵衛ランド）
2/25～3/9	切り絵作品展（中野多加子作品展）
3/11～3/18	識字・日本語パネル展（中央公民館）

おさんぽかばさん

<ねらい>

乳幼児をもつ親の交流をはかる。また、地域でのつながり作りを目指す。

<状況・成果>

■水間寺客殿 9/29～10/27 火曜日 10時～11時半（全5回）参加者：延べ17組

春に予定していた水間寺客殿での“おさんぽかばさん”はコロナのため中止となった。

コロナ禍で地域の町会を借りることは困難と判断し、秋の会場も水間寺客殿とした。

コロナ予防対策として、ボランティアが作るおやつ提供はせず、その代わりに“手縫いのマスク”や“くるみボタン”の制作をして交流することにした。

0歳から3歳の親子の参加があり、子育ての話など、楽しくおしゃべりしながら制作できた。

参加した母親からは「小さい子どもがいると家ではできないから楽しかった。」と完成した作品にとっても満足していた。子どもたちはボランティアと水間寺の境内を散歩し、落ち葉拾いをしたり、メダカの池をみつけたり、毎回楽しみに来ていた。



<課題>

開催場所の選定と確保。

コロナ禍で予防対策を取りながらの企画内容を検討する。

水間末廣座

<ねらい>

身近な場所で、また生の舞台をとおして古典芸能にふれる機会を提供する。また、地域住民の交流の場とする。

<状況・成果>

2/28 日曜日 13時半～15時 場所：ホール 参加者75人

出演：桂 文昇（落語家）、桂 雪鹿（落語家）、松旭齋天蝶（マジシャン）

今年は三密を避け、山手地区公民館ホールで開催した。コロナ対策として整理券を事前に配布し、当日氏名・連絡先を記入して持参するという方法をとった。入場の際は、サーモグラフィーで検温を行った。

毎回、日本の古典芸能「落語」の他に趣向を凝らした演出を文昇さんが考えてくれており、今年は伝統手品の和妻（わづま）のひとつ「浮かれの蝶」の松旭齋天蝶さんに依頼。この演目は、観客全員初めて見るということでじっと見つめていた。

コロナ禍のため集客数を心配していたが、場所を変更しても、毎年参加してくれていたかたの参加もあり、この催しを楽しみにしているようだった。

<課題>

コロナの感染状況に応じて開催会場を考慮する。



【参考】ほかでもがんばっているよ

山手地区公民館活動協議会所属クラブやグループの地域での活動

NO	月日	クラブ・グループ	会場	備考（感想など）
1	12/19	コーラス山の手	北小学校	トーンチャイム演奏（クリスマスソング・他）
2	5/14	邦楽クラブ ～桜～	東山一・三丁目自治会館	箏・尺八の演奏

山手地区公民館活動協議会

<ねらい>

活動協議会の主体的な活動を支援し、協働・連携をはかっていく。

クラブ運営における様々な課題をみんなで考え、解決できるように共に考えていく。

<状況・成果>

クラブ数 38、クラブ員 542 人（11 月 1 日現在）、役員 10 人

昨年度より 3 クラブが廃部となった。（クラブ員の減少とコロナ禍による）

役員体制は、5 人が新しく入れ替わった。

今年は、コロナ禍でのスタートとなり定期総会も書面での議決となった。また、年間の事業計画を決定するも各部会での話し合いにより中止となった。協議会の最大の事業である“公民館まつり”も中止となり、各クラブ活動の成果発表の場がなくなる中で、形を変え、規模を縮小してでも発表やロビー展示をしようと役員会で企画し、クラブが練習の様子などを動画に撮りロビーで放映したり作品展示を行った。

7 月の定例会では「新委員勉強会」を行い、公民館クラブの活動の意義や活動協議会の必要性、委員としての役割などを伝えた。

例年、定例会・部会・役員会・公民館まつり実行委員会の会議には、全職員が関わり、助言や問題提起を行ってきた。定例委員会も変則的になり、事業の中止や部会会議もなくなったので担当職員だけが関わることとなった。

役員会議については、定例委員会の開催に関わらず 5 月から定期的開催し、役員間の事務連絡や情報交換を行い、協議会ニュースを毎月発行することで、クラブの紹介や情報提供などを通じた相互交流を図ってきた。

<課題>

役員とともに登録団体で活動協議会未加入の団体への加入を促進する。

コロナ禍で定例委員会の持ち方や役員会の持ち方等、新しい生活様式の中で組織活動の在り方を考えていく。



利用者団体代表者会議

<ねらい>

公民館を利用する団体が公民館活動の理解を深める場、また他の団体を知り・交流する場とする。

<状況・成果>

3年前から活動協議会主催の新委員勉強会と同日開催していたが、実施時期にコロナ拡大防止による緊急非常事態宣言があり、公民館が臨時休館となったため実施出来なかった。

<課題>

コロナ禍による新しい生活様式の下、公民館利用の在り方などを啓発するとともに利用団体が公民館活動の理解を深める場として実施していく。

バンド連絡会

<ねらい>

登録バンドの自主活動の支援。

<状況・成果>

年度当初からコロナ禍で音楽室の使用制限もあり、各バンドの練習ができなかった。6月14日に開催予定していた「泉州地区高校対抗フレッシュサウンドコンテスト」（以下、「コンテスト」）運営会議などには積極的に関わってきた。

コンテストはコロナのため延期となり3月に行った。大きなトラブルはなく無事に終わることができたが、バンド連絡会の人手不足で一部メンバーの負担が大きかった。

公民館は、長年のと取り組みの経緯もあって各参加校への呼びかけや連絡窓口など事務的なことを中心に運営に関わり、アドバイスしてきた。

その他、バンド連絡会が例年音響スタッフとして関わってきた「三中校区ふれあいフェスティバル」はコロナのため中止、また、自主ライブについても見送ることとなった。

<課題>

バンド連絡会の活動の在り方を再考していく。個々のバンドとして継続して活動できるよう支援方法を検討するとともに、新規バンドの加入に向け情報発信していく。

三 公 民 館 共 通

目 次

- 三館連携事業 三館 1
 - ・第9回貝塚公民館大会
 - ・しゃべり場★公民館
 - ・三館保育ボランティア交流会
 - ・三館高齢者交流会

- 会議・資料 三館 5
 - ・貝塚市立公民館運営審議会
 - ・阪南公民館運営研究協議会（阪公運）
 - ・阪南地区公民館利用者連絡協議会（阪公連）
 - ・三館利用者連絡会（三館利連）
 - ・K（研修）部会
 - ・大阪府公民館・関連施設連絡会（府公連）
 - ・講師交流研修会
 - ・社会教育実習受け入れ
 - ・貝塚主事会
 - ・新型コロナウイルス感染症への対応と公民館の動き
 - ・広報
 - ・利用統計

第 9 回貝塚公民館大会

やっぱり好きやねん♡公民館 ～コロナで知った公民館の大切さ～

<ねらい>

いろいろな人・世代が集まり、お互いを知る・気づきを得る・共有する場とする。

自分たちの活動について課題を解決するために考え、語り合う場とする。

利用者と職員がともに学び合う機会とする。

<状況・成果>

2/7 日曜日 13時～15時半 アドバイザー：村田和子(和歌山大学教授)

場所：メイン会場 浜手地区公民館（中央公民館および山手地区公民館オンライン同時開催）

参加者：93人(浜手：29人、中央：40人、山手：24人)

昨年の第8回公民館大会が、感染症の拡大のため中止となった経緯を受けて、会場を三館に分けることで感染症対策を取りつつ、コロナ下の今年だからこそ感じたこと、工夫したこと、これからの公民館活動について皆で意見を出し合って開催することとした。

実行委員会に関わるメンバーは、人数を制限し、各館クラブ協議会・連絡会および貝塚子育てネットワークの会・貝塚ファミリー劇場から各2人ずつと、しゃべり場☆公民館からは交替で2人ずつの出席とした。また、公民館大会が初めての実行委員には、会議録やプログラム作りに関わってもらった。

コロナ禍という今までに経験したことのない中で、公民館活動も十分にできず、活動するか否かに悩み、話し合い、我慢の時期を乗り越え、改めて公民館があつてよかったと実感できたことを公民館大会のテーマにおき、各団体で工夫した活動などを話し合う機会とした。活動の工夫の中には閉館中や感染が心配な人でも活動を続けられるよう、オンライン会議システム（以下、オンラインと表記）やSNSを取り入れている団体もあった。今大会はこれらを視野に入れ、やっぱり実際に集まり顔を見て話しをすることを主としつつ、新しい取り組みとしてオンラインを取り入れ、従来のやり方とオンラインを併用した公民館活動の新たな取り組みに挑戦することになった。

実行委員の中でも、オンラインがどのようなものか、またどのように公民館大会運営につなげていくかイメージがわからない人も多かったので、実行委員会のメンバーでオンライン活用の研修会を行った。研修会では、本番を見据え中央・浜手地区・山手地区の3公民館をオンラインでつなぎ、テレビモニターやプロジェクターを通した視聴や対話を体験した。また、個人のスマートフォンから実際にオンラインを体験した人もいた。モニター映像の長時間の視聴は不慣れで疲れること、公民館にある備品でオンラインを活用するには、環境の整備（音声・映像など）が必要であることが確認できた。

当日は、オンラインで主催者・来賓挨拶を視聴した後、各館でパネラー発表・グループトーク・グループ発表を行い、その後、再びオンラインでつなぎ発表するという形態とした。

パネラー発表では、ふれあいまつりが中止となった代替措置として利用者連絡会で行った取り組みについて（浜手）、子どもの遊びを確保するため母親たちが話し合いながら行ったプレーパークについて（中央）、活動のモチベーションが下がっている中で、工夫したクラブ活動について（山手）、が各館で紹介された。他館のパネラー発表については時間短縮のため、オンラインにはつなげず、当日配布したプログラムでの確認に留めた。

一三館連携事業一

引き続きグループトークでは、各館4～10人ずつグループに分かれ話し合った。参加者には事前に「グループトーク発言メモ」を手渡し、当日はそれをもとに全員が発言し、パネラーの発表を受けた感想等も含め話し合った。その後、各館でグループごとに話し合った内容を、慣れない雰囲気緊張しながらも自分の言葉で発表をし、それらを館内で共有した。

再びオンラインでつないだ各館ごとの発表では、映像と音声で確認しながら、それぞれの館で出た話を全員で共有した。発表中は他館の音声を「消音」にしているため、反応が分かりにくいこともあったが、映像で確認するなど工夫した。

発表では、オンライン・SNSの活用や戸外での活動の紹介、緊急事態宣言解除後の活動が不安だったがクラブ員の顔を見たらほっとしたこと、家でも絵をかいたり演奏はできるがやる気が起きず何もできなかったこと、活動再開時に、人と話し悩みを聞いてもらえるのが嬉しかったこと、公民館は不要不急ではない等の話があり、活動のモチベーションや会って話が出来ることの重要性、コロナ下での活動をどうするかなどしっかり話し合えた良さを再確認することができた。

発表後、和歌山大学教授の村田和子先生からまとめ、「集い、交流する機能」と「学習機能」としての公民館の役割についての話を聞いた。今回の公民館大会は、皆が普段慣れ親しんでいる公民館が「命綱」になっているということと同時に、公民館に来たくても来れない人たちの存在に着目して公民館の新たな可能性を探っていく必要がある等示唆に富んだ話だった。

3公民館をオンラインでつなぐという新たな取り組みの第一歩としては、途中オンラインが途切れたり、コロナ下での開催への配慮などで実行委員の負担はあったものの、新たな試みに利用者・職員が共に取り組めたことが成果であり、次年度以降の公民館活動や事業につながる貴重な経験となった。

<課題>

実行委員が大会の企画・運営の過程にやりがいを感じられる会議の進め方。

各館のクラブ員など公民館利用者への参加を促進する。

公民館の意義や役割をどのように伝えるか。

感染症対策を踏まえた大会の持ち方。

《大会当日スケジュール》 (敬称略)

■開会 挨拶

13:00～ ■ 主催者挨拶 貝塚公民館大会実行委員長 土井良子
来賓挨拶 貝塚市長 藤原龍男

■内容

13:10～ パネラー活動紹介
13:25～ グループトーク
14:00～ 各館内で発表
14:25～ ■ 三館で発表
14:55～ ■ 講師まとめ 和歌山大学教授 村田和子

■閉会

15:25～ ■ 閉会・終了・片付け
※ ■ 三公民館オンライン中継



会場：中央公民館



会場：山手地区公民館



会場：浜手地区公民館

しゃべり場★公民館

<ねらい>

公民館利用者及び市民と職員が共に公民館について語り、考えていく場とする。

<状況・成果>

メンバー14人（職員4人含む）である。

コロナの影響で、前年度から計画していた第8回貝塚公民館大会を受けての講座兼第1回スタッフミーティング（4月）は中止となり、7月になってようやく集まることができた。

初回ミーティングで今年度の活動について話し合い、しゃべり場のクラブ訪問の継続、「しゃべり場★REPORT」の発行、貝塚公民館大会（以下、大会）への参画を目標とした。

クラブ訪問では、今まで公民館に来たきっかけなどを中心に聞いてきたが、今年度はコロナで公民館活動ができなかった時のことや、公民館やクラブが自分とどうつながっているのかを考える機会とするために、クラブを再開した時の話なども聞いた。中には「クラブが出来ない時期も問題なかった」という人もいたが、大半はクラブ員同士の再会が嬉しいと感じていたようだ。

またクラブ訪問を続ける中で、それぞれの歴史や一人ひとりが大切に思っていること等、公民館のあり方にも関わる話がたくさん聞いた。その内容を多くの人に知ってもらうためにも「しゃべり場★REPORT」の発行が大切だと確認する良い機会となった。

大会についてはしゃべり場メンバーの一人が今年も実行委員長をすることになった。コロナで実行委員会の持ち方が変化し、今までは何人でも会議に参加できたが、3密を避けるため1団体2人と制限された。メンバーは交替で会議に参加し、しゃべり場の意見をあげるために、今まで以上にメンバー間で情報の共有に努め、丁寧な会議の報告をそれぞれが心がけた。

<課題>

公民館利用者はもちろん、公民館を利用していない人にも公民館を知ってもらう場作りをさらに広げていく。



月日	内 容	会場・人
4/13	講座・第1弾「私を変えた公民館活動～公民館から地域へ～」 松岡美代子さん（貝塚市老人クラブ連合会役員）	コロナで 中止
7/3	スタッフミーティング①	中央・11
9/10	スタッフミーティング②	中央・13
10/6	スタッフミーティング③	中央・14
11/13	スタッフミーティング④	中央・13
11/24	クラブ訪問（山手・男のヨガ）	山手・15
11/27	クラブ訪問（中央・ホロホロウクレレ）	中央・16
	クラブ訪問（中央・彫金クラブ）	中央・13
12/3	クラブ訪問（中央・人形劇あひる）	中央・15
12/8	スタッフミーティング⑤	中央・12
1/19	スタッフミーティング⑥	中央・12
1月末	しゃべり場★REPORT31の発行	
2/4	クラブ訪問（中央・貝塚ハーモニカクラブ）	中央・16
2/5	クラブ訪問（浜手・川柳）	浜手・13
2/12	クラブ訪問（山手・金曜ストレッチ）	山手・19
2/18	スタッフミーティング⑦	中央・11
2/20	クラブ訪問（浜手・囲碁）	浜手・12
3/23	スタッフミーティング⑧	中央・10

三館保育ボランティア交流会

<ねらい>

3 公民館の保育ボランティア同士の交流。
コロナ禍での保育の在り方を考える機会。

<状況・成果>

2/16 火曜日 10 時～11 時半 参加者 7 人

今年度、どこの館でも保育ボランティアは、コロナの不安を抱えながら保育に関わってきた。講座が終わると職員間ではその館の様子を他館に伝えることができるが、ボランティアはそのような機会がないため、それぞれの気持ちを共有する場を作り、他館の保育の様子を知り今後活かす機会にしようということで、今年度も交流会を行った。

当日は、各館の保育の状況とコロナ禍で工夫したことや不安な点などの意見を出し合うことで、それぞれが講座前に感染症について話し合い対策しながら保育を行ったことが分かった。「はじめはコロナの不安もあったが、ボランティアも受講者とその子どもも手指消毒などの感染対策をきちんとして公民館に来ていることがわかり、不安はなくなった」という発言もあった。

また、保育付き講座を受講する人が減っている現状を心配し、受講者を増やすアイデアや「子どもが来てくれる限りはボランティアを続けたい」「公民館は自分（親）が育つ場、その良さを伝えていきたい」という前向きな発言もあり、保育付き講座がボランティアの熱い思いに支えられていることを再確認する機会となった。

他にも、0 歳児の保育の受け入れ方や館によっては就業などの理由でボランティアが減っていることなども話し合われ、充実した時間となった。

【参加者の感想】

- ・とても充実した時間でした。三館それぞれ工夫していてスゴイなと思いました。
- ・三館それぞれ、子どものことを考えてコロナの対策をしていることが分かった。
- ・何より、公民館は学びの場であることを再確認した交流会になりました。私もボランティアを通して学んで成長することができたらいいなと思いました。
- ・ボランティアに対する熱い思いはみんな同じですね。

<課題>

引き続き、感染症対策を講じながら行う保育の在り方について 3 公民館で共有する。
養成講座か交流会か、年度ごとに必要性を考え企画する。

三館高齢者交流会

<状況・成果>

例年、3 館の高齢者講座が年に一度交流を目的に集っていた。一緒に歌を歌ったり、戸外でグラウンドゴルフを楽しむなど、その年担当にあたった館が中心になって企画進行をしていた。毎回終わる頃には和やかな雰囲気になり話も弾んだが、今年度はコロナのために交流会は中止となった。

<課題>

新しい生活様式に則った交流会を模索する。

貝塚市立公民館運営審議会

<ねらい>

今後の公民館のあり方、新たな利用者の開拓、地域課題の解決に向けた講座・事業を展開できるように諮っていく。

<状況・成果>

今年度は緊急事態宣言による休館により7月開催が第1回となった。昨年度の議題でもあった公民館利用者アンケートの報告を通して議論を交わした。アンケート結果を通して現状の利用者状況を把握し、そこからみえた利用経験の浅い人がどのようにして公民館利用につながったのかが、公民館利用促進の一つのポイントであると考察された。

また、新たに公民館利用者促進に際し助言をする「貝塚市立公民館利用促進アドバイザー」(以下アドバイザー)設置について報告を行ない、今後のアドバイザーと公民館運営審議会の関係性などについて議論を深めた。

3月の審議会終了後、アドバイザーと公民館運営審議会委員で意見交換を行い今後の協力体制を構築した。

<貝塚市立公民館運営審議会>

区 分	委員氏名
学校教育の関係者	北 野 久美子
社会教育の関係者	中 野 俊 彦
	西 田 陽
	黒 井 政 信
	木 村 恵美子
	中 野 伸 和
	谷 口 和 紀
家庭教育の向上に資する活動を行う者	井 上 誠 一
学識経験のある者	麻生川 美 紀
	萩 原 雅 也

<会議・研修の状況>

開催年月日	案 件
令和2年 7/17	第34期(令和元年・2年度)公民館運営審議会委員委嘱について 委員長、副委員長の選出について 審議会の進め方について 令和元年度第3回貝塚市立公民館審議会会議録の承認について 令和2年度の事業方針・予算について
10/9	令和2年度第1回貝塚市立公民館審議会会議録の承認について 3館事業報告・事業予定について 貝塚市立公民館利用促進アドバイザーの設置について
12/11	令和2年度第2回貝塚市立公民館審議会会議録の承認について 3館事業報告・事業予定について 貝塚市立公民館利用促進アドバイザーの設置について
令和3年 3/13	令和2年度第2回貝塚市立公民館審議会会議録の承認について 3館事業報告・事業予定について 「一年の取り組み」について

<課題>

引き続き公民館運営審議会を設置し、市民各層の代表者から知識や経験に基づく率直な意見を聞き、公民館運営に反映できるようにする。

公民館利用促進アドバイザーとの今後の連携を探る。

阪南公民館運営研究協議会（館長会・実務担当者会含む）

<ねらい>

「阪南公民館相互の緊密な連携のもとに、公民館運営の研究並びに職員の研修及び親睦をはかり、公民館活動の振興に寄与する」という会の目的が十分果たされるよう、積極的に参加・協力する。

<状況・成果>

阪南公民館運営研究協議会（以下、「阪公運」という）は、現在4市2町（高石、岸和田、貝塚、阪南、忠岡、田尻の各市町）にある公民館で構成されている。

阪公運には、館長会・実務担当者会（以下、「実担会」という）の2つの部会があり、今年度の会長（館長会代表兼務）は本市、実担会代表は田尻町が担った。

例年、館の運営や講座・事業また大阪府公民館・関連施設連絡会に関する事項等幅広く情報交換を行っているが、年度当初からのコロナにより書面表決となった総会から始まり、常にコロナを意識した活動となった。また、指定管理者制度導入予定の近隣市町館との情報交換は、コロナ以前の既存施策や事務事業見直しにかかる「選択と集中」という行財政課題の中、看過できない事柄であり、今後も注視する必要性を感じた。

阪公運の職員研修として、実担会の働きかけにより、2/26の予定で、泉佐野市立日根野公民館への視察を企画した。この公民館は2019年4月に新設供用され、図書室と市営プールが併設される複合施設であり、運営は指定管理者である。管理と事業について、公民館部分の指定管理者と泉佐野市生涯学習課双方との情報交換を期待していたが、コロナによる緊急事態宣言の発出により中止となり来年度に延期した。

実担会は、5回会議を開催し、所属館における事業運営の問題点等活発に情報交換を行った。

特に、昨年度から企画していた公民館職員交流会を阪公運未加入の市町館にも声をかけ8/20に開催した。コロナ禍における事業運営をはじめ多岐にわたり活発に意見・情報交換を行った。なお、2/26に予定されていた前述の研修は中止になったものの、事前打ち合わせを行うなど積極的に取り組んだ。

館長会は、会議のあり方を考え回数を減らした。

各市町の館長・実務担当者が入れ替わることにより組織活動は難しいところもあるが、今後も、積極的に3館担当者が可能な限り参加し活動を支え、館職員の資質向上と社会教育・生涯学習の発展に努め、公民館活動の振興に取り組んでいきたい。

<課題>

阪南公民館の活動振興を見据えた、阪公運未加入市町館とのネットワーク創出
協議会の組織維持

阪南地区公民館利用者連絡協議会

<ねらい>

情報交換・交流をはじめ、文化・学習活動を通して公民館活動の推進及びまちづくりを目指すことを目的に活動を進める。

<状況・成果>

阪南地区公民館利用者連絡協議会（以下、阪公連）は高石市以南の公民館で活動している利用者団体（貝塚市（中央）、岸和田市、阪南市（東鳥取）の三者）で構成されている。

平成 29 年度末から岸和田市の中心メンバーが体調不良になってからは、一度も定例会議を開催できないままである。その岸和田市が令和元年に条例改正があり、今年度クラブ連絡会が解散という事態が起り、実質阪公連脱退となった。

昨年度末に貝塚市から岸和田市、阪南市に連絡を取り、一度開催することになっていたがコロナ対策の緊急事態宣言で中止となった。今年度に入ってから何度か電話でのやりとりはしているが、会議を持つことはできていない。

<課題>

実質阪公連は解散状態ではあるが、阪公連の活動の記録等、どのように残していくか今後の終い方を検討したい。

三館利用者連絡会（三館利連）

<ねらい>

公民館を活動拠点とする三館の利用者団体が集まり、各館の特色を活かし、連携と交流を図り、共通課題に取り組んでいくことを支援する。

<状況・成果>

三館の利用者団体相互の交流と親睦を深め、広く地域社会へ公民館活動の啓発・発信を行う事を目的に平成 25 年 4 月より「三館利用者連絡会申し合わせ」をもとに、年 3 回程度集まり情報交換や互いの事業について話し合いをしている。

例年 4 月に前年度と今年度の役員で引き継ぎ会を行うが、公民館臨時休館等で各協議会・連絡会（以下、各会）総会ができないため延期となった。また、コロナの第 3 波で再び緊急事態宣言が発出された 1 月の会議も延期になるなど、例年と比べ安定した活動ができなかった。その中、昨年度好評だった「展示交流」と「第 9 回貝塚公民館大会」に協力して取り組むこととし、それを中心に活動の情報交換を行った。

第 9 回貝塚公民館大会については実行委員会にも積極的に参加し、他の役員も当日に関わった。

今年度は、コロナ禍で制約される中での活動となり、展示交流以外取り組めず各会からの情報交換に終わった。

<課題>

今後も各会共通の課題について話し合い、連携して事業に取り組むことを促し支援する。今年度取り組めなかったクラブ案内の見直しに協力する。

【表 1】 展示交流協力クラブ

所属館	クラブ名	展示場所
中央	人形劇あひる	山手
	ろうの花	浜手
山手	木工クラブ	中央
	花を楽しむ会	
	パッチワーク	浜手

K（研修）部会

<ねらい>

職員の資質向上を図る。日頃の課題を共有する。職員の情報交換の場を設ける。

<状況・成果>

今年度は、コロナによる影響で、一人ひとりの生活環境が一変し、公民館も一時、臨時休館となり、コロナ対策が必須となった。そのため、今年度はコロナ禍での公民館活動についてのテーマが多くなった。

浜手地区公民館・山手地区公民館が避難所となっていることから今までも防災関連の研修を実施してきたが、7月には今年新たな課題として浮上してきたコロナ対策を踏まえた避難所運営の仕方について考えた。一般避難者と体調不良避難者の出入口や部屋の区分けなど、館内配置図に書き込みながら具体的に考え、職員の意識向上につながった。また翌月には、コロナによる休館中および再開後、他府県・他市の公民館では、どのような取り組みが行われていたのか職員全員で調べた事例をもとに、コロナ第2波・3波に備えて「公民館として何ができるのか」について話し合った。

さらに9月には、コロナ下での事業実施や来館が難しい利用者への対応などに活用できる遠隔会議システムについて、その活用方法や便利機能などを学んだ。オンライン環境が不十分で、動きが止まったり個人のスマートフォンからの接続ができなかったりしたため、予定していた内容を十分習得するまでには至らなかったが、新しい取り組みにつながるきっかけとなった。

11月には、公民館講座等で学習するテーマのひとつとして、最近よく耳にするSDGs(持続可能な開発目標)について研修した。基礎知識についての説明を聞いた後、今までの取り組みをSDGsの各目標に関連付けて考え、「誰一人取り残すことのない社会の実現」につながることを確信するとともに、今後の事業や講座を企画するきっかけとなった。

12月は、8月から就任した公民館利用促進アドバイザーと今後、良好な関係で相談また助言してもらえるよう、相互理解・交流の機会とした。自己紹介を相互に行い、アドバイザーの経歴や研究テーマを通した公民館への思いを聞いて質疑応答し、交流を深めることができた。

	テ ー マ
4月	自己紹介(各自1分) 4つの窓 ～すきなものバージョン～
5月	<緊急事態宣言に伴う休館中のため実施せず>
6月	社会教育DVD『こんばんは』視聴(92分)
7月	コロナ対策をふまえた上での公民館避難所運営の仕方について
8月	『コロナと公民館』他府県・他市公民館の取り組み事例をもとに話し合う
9月	Zoom講習会 講師：花村奈々(浜手・踊るママ御殿)
10月	新任職員の「教えて」「知りたい」をみんなで考えよう
11月	SDGsについての学習 講師：中川知子(中央公民館職員)
12月	公民館利用促進アドバイザー：室谷雅美さん(豊岡短期大学准教授)を迎えて
1～3月	<今年度総括のためK部会なし>

<課題>

3館の職員が集まり公民館職員としての資質向上を図る貴重な場として、毎月できる限り研修の時間を確保する。社会的課題や職員の関心事について、認識を深め実践に生かせるよう取り組む。

大阪府公民館・関連施設連絡会

<ねらい>

大阪府内の公民館・関連施設等の連携により、豊能・三島・北河内・中河内・南河内・泉北・泉南の府内7ブロック及び大阪市との情報交換を行い、学び合い講座を通して職員の資質向上を図る。

<状況・成果>

大阪府公民館・関連施設連絡会（以下、「府公連」という）は、2013年、以前の大阪府公民館振興協議会（以下、「府公振」という）が解散し、近畿公民館連合会脱退を経た中、府内公民館等社会教育施設職員の交流、情報交換、さらに資質向上を図るため府公振残余金の活用により「学び合い講座」を継続開催する組織へと生まれ変わっている。今年度、本市は幹事（会計）となり運営に加わった。

学び合い講座では、今年度は、コロナ対策により、例年使用できた大阪教育大学天王寺キャンパスが学外者の立ち入り使用を見合わせている等会場設定が困難な中、大阪市内の市民学習センターやホテルを会場にして昨年度同様3回の「学び合い講座」を開講した。しかし、北摂地域を中心に府下公民館や社会教育施設職員の集まれる機会とする地域交流研修会は、コロナ対策を含めた会場・講師の都合上、開催に至らなかった。

なお、運営会議・企画委員会の開催は、コロナ対策の中、関係者の移動負担を考慮し最小限にとどめた。

<課題>

各市町村の府公連に対する理解を求めていく

公民館等社会教育施設の情報交換の機会創出を考えたネットワーク構築への協力

府公連事業の宣伝や実践報告を強化していくためのSNS活用による発信

事業

○第1回学び合い講座

10月13日（火）「青少年のこれからと社会教育・生涯学習の役割」

講師：京都女子大学教授 岩槻知也さん

○第2回学び合い講座

11月27日（金）「人の心に響く講座のタイトルとは」

講師：コトワークス（株）代表取締役 さわらぎ寛子さん

○第3回学び合い講座

2月18日（木）「Web会議&リモート講座・・・どないしたらええのん!」

講師：Doors 自習塾主宰 井手口尚子さん

会議

月日	内 容	場 所
5/28	第1回運営会議	大阪府庁新別館会議室
7/10	第2回運営会議	
8/13	第3回運営会議・企画委員会合同会議	
11/19	第4回運営会議・企画委員会合同会議	

講師交流研修会

<ねらい>

公民館の現状と課題、クラブ活動での講師の役割について共通理解をはかる。

三館のクラブ講師の交流を深める。

<状況・成果>

今年度は、コロナにより開催を見合わせた。

以下、令和元年度開催の研修会が『2019年度貝塚公民館のあゆみ』に記録されていなかったため、ここで記しておく。

R2/2/19 金曜日 13時半～15時 参加者24人 19時～20時半 参加者7人

前回から3年経過し開催した今回の研修は、今後の公民館活動と情報交換を主に進めた。

その際、貝塚公民館の歴史をパワーポイントにて資料が無くても視覚に訴える方法で説明し、貝塚公民館が盛り上がっていきける方法について自由に意見を出し合った。

その結果、講師中心に動かず、公民館活動の意義や良さを活かした活動に努めている姿勢が見受けられた。

今後とも、講師・クラブ員が一体となり、“人と人、地域をむすぶ”公民館活動が担えるよう講師とのコミュニケーションを図っていきたい。

講師からの意見

各々のクラブ・講座が高齢化の問題を抱えている。地域に出かけることをさらに考えてほしい。

公民館の役割・意義（設立）・歴史を知ってもらう大切さを講師に。ここから、地域の学びへ発展する役割の大切さを知ってほしい（「文化は社会の肌」）。

近隣市町の公民館と比べ、貝塚の方が一段と暖かいです。

講師をしての悩みを話し合える必要もある。交流を深め、ディスカッションできる場を深めてほしい。

<課題>

数年に渡り不参加の講師に参加してもらうための方策を検討

社会教育実習受け入れ

期 間	学校名・学部名	実習内容	その他
10/22～11/29	和歌山大学・教育学部	社会教育実習	1名
1/16～1/24	大阪樟蔭女子大学・学芸学部	社会教育実習	1名

※令和2年12月9日締結 「大阪樟蔭女子大学・貝塚市教育委員会 社会教育実習に関する協定書」

貝塚主事会

<ねらい>

社会教育関係各課（施設）の情報や課題を共有し、連携する方法を模索するとともに、貝塚市の社会教育のあり方を考える。

<状況・成果>

貝塚主事会（以下、主事会）は、貝塚市の社会教育関係課（施設）^(※)職員が年数回集まり、ねらいに沿って会議を行っている。

(※)社会教育課・郷土資料室、青少年課・青少年人権交流館・スポーツ振興課、図書館、公民館（中央・浜手地区・山手地区）

1985年に社会教育専門職制度の確立により発足、1989年からの社会教育計画づくりでは、主事会が中心となり、現状分析等様々な実務を担当するなど、貝塚市における社会教育の実践において大きな役割を果たしていた。

本来は、教育委員会内の社会教育関係課長会（当時）と緊密な連携をもちながら、社会教育関係部署がまとまり、社会教育（生涯学習）の実践にもとづく市民の学習活動とまちづくりに寄与していこうという意義を持って活動していたものであった。

しかしながら、当時中心となっていた職員の異動や退職による専門職（正規職員）の減少により取りまとめを担当する社会教育課を含めて、主事会発足当時の意義を知る職員がいなくなったこともあって、近年は本来の意義を見失い、参加率も低い状態が続いていた。

昨年度、今年度ともに一度も開催されず、課題の多い主事会であったが、中央公民館の呼びかけにより、社会教育課長、図書館長、中央公民館長が集まり、主事会の今後について話し合いが行われた。その結果、来年度から「主事会」という名称も含め検討を重ねつつ、新たな道を探っていこうということになった。

<課題>

改めて貝塚主事会の意義と必要性を確認し、今後の具体的な活動方針について社会教育関係課（施設）職員で協議する必要がある。

新型コロナウイルス感染症への対応と公民館の動き

年	月	日	国・府・市の動き	公民館の動き
R2	1	24	【府】新型コロナウイルス対策本部設置	
		30	【市】新型コロナウイルス対策本部設置	
	2	20	2/19 第8回対策本部会議でイベント等の取り扱いについて3/20までの方針決定	公民館利用のクラブ・団体に活動自粛要請
	3	2	公立小中高校の一斉休校(～4/7)	18歳以下(大人同伴の場合も含む)の利用不可(～3/24)
		3		感染拡大を考慮し、公民館大会実行委員会で第8回貝塚公民館大会の中止を決定
		23		18歳以下(大人同伴の場合も含む)の利用不可延長(～4/7)
		26		中央公民館まつりの開催中止を決定
	4	7	【国】緊急事態宣言発出【府】外出自粛要請(～5/6)【市】小中学校の休校延長(～5/6)	公民館が休館(～5/7)になる 館ではコロナ対策の検討・準備や、事業の見直し、休館中にできることに取り組む
		9		18歳以下(大人同伴の場合も含む)の利用不可再延長(～5/31)
	5	4	【国】緊急事態宣言延長(～5/31)	公民館休館延長(～5/15)
		11	【市】小中学校で週1回程度の登校開始	
		16		6月からの利用停止解除に向けた、打合せ・会議等のみ使用可。(～5/31)
		21	【府】緊急事態宣言解除 5/23から施設等の利用制限を緩和	
		23		18歳以下(大人同伴の場合も含む)の利用制限継続。(～6/14)
	6	1	【市】小中学校再開(6/15まで分散登校)	使用室定員の制限(約半数)を設け、コロナ感染防止対策を講じた上での利用再開
		中旬		山手地区公民館の公民館まつり、浜手地区公民館のふれあいまつりの開催中止を決定
	7	31	【府】大阪市内の感染拡大に伴いイエローステージへ移行 施設等の利用制限についてはさらに緩和(8/1～)	使用室定員の制限(約半数)を設け、コロナ感染防止対策を講じた上での利用を継続
		10	12	使用室定員の利用制限を7割程度に緩和
		12	【府】大幅な感染拡大を受けレッドステージ移行を表明	
R3	1	13	【府】2回目の緊急事態宣言 (1/14～2/7)	
		14	【市】公共施設の利用時間制限 (1/18～2/7)	
		18		午後8時以降の利用制限・使用料の按分徴収(当面の間) ※2/28府の緊急事態宣言解除まで
	2	2	【国】緊急事態宣言延長(府：～2/28)	
		7		第9回貝塚公民館大会を、オンラインで三館をつないで開催

公民館タイムズ



8月のコミュニティ機材貸出

8月中は申込みが多いため、コミュニティ機材の貸出しは3館分を中央公民館で一括受付・抽選を行います。かき氷機や鉄板など機材の貸出を地域活動などで希望する方はお越しください。
▷日時 4月26日(日)午前10時(時間厳守)

中央公民館

☎072-433-7222

心身に障害のあるかたへ

挑戦講座「夢にチャレンジ」

みんながやりたい事にチャレンジしよう!
▷日時(全11回・要申込) 4月19日～3月13日、第3土曜午前10時～正午▷内容 陶芸・料理など▷材料費(1回) 100円～500円

介護について語り合う場

みんなで支え合う介護について考えます。気軽にご参加ください。
▷日時 4月27日(月)、6月22日(月)午後1時30分～3時▷場所 講座室▷協力 貝塚市介護者家族の会

GWピアノリレー

老若男女、どなたでも参加できます。
▷日時 5月3日(日)午前9時～午後4時▷場所 視聴覚室▷定員 28人(要申込・定員になり次第締切、1人15分)▷参加費 無料

第37回市民民謡まつり

▷日時 5月10日(日)午前11時開演▷場所 コスモシアター中ホール▷入場 無料▷出演 貝塚市民謡連盟



* 子育てサークル体験会 *

貝塚子育てネットワークの会乳幼児部会では、子育てサークル体験会を行います。いっぱい遊べて、お友達がたくさんできる子育てサークル! 今しか味わえない子育てを楽しんでみませんか。

どんぐりようちえん

▷日時 4月21日(火)▷場所 カに公園(雨天時は浜手地区公民館ホール)▷内容 タンボールすべり、芝生でござろ

ありんこ

▷日時 5月14日(木)午前10時～11時(雨天時は21日に延期)▷場所 貝塚市青少年野外広場(四中横)▷内容 ミニ運動会▷持物 水筒・着替え・弁当

プレーパーク

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした、子どもたちの冒険あそび場です。
▷日時 5月9日(土)・10日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)
▷場所 貝塚市立青少年野外広場(四中横)▷参加費 100円

【市民企画講座】

子どものいきる力を育むために親ができること

▷日時(全2回) ①5月19日②26日、火曜午前10時～正午▷内容 ①講義「子ども自ら育つ力を親が学ぶ」中島みちる②体験「生の文化にふれよう」沖繩三線あかばな(演奏)▷場所 視聴覚室ほか▷定員 55人(定員になり次第締切、保育は要相談)

クラシックコンサート

「Music JOURNEY～オリンピック開催国を巡って～」
▷日時 5月17日(日)午後2時開演▷場所 コスモシアター中ホール▷参加協力券 1,000円▷出演 貝塚市クラシック音楽家協会

ふれあい料理ボランティア募集

障害のあるかたと一緒に料理をする講座のボランティアを募集しています。講座日に体験、または見学ができます。気軽に和やかな雰囲気を見に来てください。
▷日時 5月15日、6月26日、7月31日、金曜午前9時30分～午後0時30分(要申込・各講座日の1週間前締切)▷持物(体験希望の場合) エプロン・三角巾・ふきん

さくらんぼ

▷日時 5月18日(月)午前10時[6月19日(金)も体験可]▷場所 保育室▷内容 かんたんな工作、絵本、手遊びなど

ノントン森のようちえん

▷日時 6月3日(水)・10日(水)午前9時30分▷場所 せんごくの杜▷内容 親子で自然遊びを楽しみます

3館合同

ふれあい料理

ボランティアにサポートしてもらいながら、料理を楽しみます。
▷日時 5月～3月、午前10時30分～午後0時30分①中央公民館：第4金曜②浜手地区公民館：第2月曜(8月休み)③山手地区公民館：第3金曜(8月休み)▷対象 心身に障害のあるかた▷材料費 1回350円

レッツTRY(中高生の活動支援事業)

公民館では、音楽やダンス、創作活動などを応援します! まずはお近くの公民館へ相談に来てください。

山手地区公民館

☎072-446-0090

おさんぽかばさん

子どもを自由に遊ばせよう! 後半は、みんなで手作りおやつを食べましょう。
▷日時(全5回) 5月12日～6月9日、毎週火曜午前10時～11時30分▷対象 乳幼児と保護者▷場所 水筒寺客殿▷参加費(1回) 大人100円・子ども50円(最終日は1人100円)▷持物 人数分のお皿・フォーク・スプーン、保護者のカップ、子どものお茶、手拭きタオル▷締切 4月30日(木)

フアアクラブ

子育てに悩むお母さんと、その子ども(小学生)たちの居場所です。月1回、親子でクッキングや工作をしましょう。
▷日時(全4回・8月休み) 5月16日～9月19日、第3土曜午前10時15分～午後1時▷対象 発達障害かな?と悩む親と小学生▷講師 松

本啓子さん(学校心理士)▷定員 12組(多数の場合は抽選)▷材料費(親子) 1,600円▷締切 4月30日(木)

将棋倶楽部

将棋をやりたい子、あつまれ～。子ども同士・地域のボランティア(大人)さんと対戦できるよ。
▷日時(全11回) 5月16日～令和3年3月13日、第3土曜午後2時～3時30分▷対象 小学生▷定員 10人(多数の場合は抽選)▷参加費 無料▷締切 4月30日(木)



浜手地区公民館

☎072-431-0926

ロビーコンサート

春の訪れ～はばたく二色パークタウンのホープ～
▷日時 5月14日(木)午後0時15分～1時▷出演 佐々木涼輔(声楽：テノール)・岸元大周(ピアノ)

報告

劇団すずしろ 貝塚公演「みら・くる」

1月26日、箕面市のシニア劇団「すずしろ」の劇を上演しました。100年に一度島に続く道が海上に隆起するという伝説の町で、その日100歳を迎えるというお爺さんを取り巻く人々の悲喜こもごもを描いた喜劇仕立ての作品でした。要所所で笑い起こり、時にはしんみりするなど、参加されたみなさんは劇の世界に浸っていました。観劇後は団員との懇談会も開催し、いろいろな質問が当たり感想を伝えたりするなど交流ができました。



古武術を活用した 身体にやさしい動きを学ぼう! (実技)

2月17日「古武術介護」で有名な岡田慎一郎さんを迎え、講習会を開催しました。上半身・下半身・体幹それぞれの骨や筋肉のつくりを知ることで痛くならなく疲れにくい動かし方ができるようになることを、実際に体を動かしながら学びました。股関節をうまく使って動くこと腰への負担が減ることや、重い物を抱えるとき腕から背中まで運動させると楽になるなど、参考になることがたくさんありました。「肩周りが軽くなりました」「介護する側、される側両者にとって楽な介護になれば良い」などの感想が寄せられました。



善兵衛ランド

☎072-447-2020



星までの距離はどのくらいあるのでしょうか。とても遠いので、距離を表すには「光年」などの単位が使われます。1光年とは、光が1年間に進む距離のことで、約9兆4600億km、ロケット(秒速30km)で行っても1万年ほどかかる距離です。たとえば、今、南の空で白く輝くおとめ座のスピカまでの距離は260光年なので、今見ているのは260年前の光だということになります。

太陽以外で、星(恒星)までの距離が一番近いのは、ケンタウルス座の1等星リギル・ケンタウルスで、その距離は4.3光年とされています。ケンタウルス座は上半身が人間、下半身は馬というケンタウルス族をかたどった星座で、狩猟がうまく、ほこりの高い種族だ



といわれています。この時期ケンタウルス座は、おとめ座のずっと南(下)の方にあります。残念なことに、沖縄以外の日本では、上半身の部分が地平線以上にやっと見えるだけです。そして、1等星リギル・ケンタウルスは、もうひとつの1等星ハダールとともに、足の先にあり見ることはできません。また、そのすぐ隣には、有名な南十字星(みなみじゅうじ座)があり、そこにも1等星が2個輝いているはずですよ。

★月の観察
5月28日、30日が観望に適しています。
★惑星の観察
星間は金星が観察できます。下旬には水星も星間を観察できます。
★5・6月の休館日
水曜、5月1日～8日、11日～14日※5月29日、6月30日は、集会所と多目的室のみ利用できます。

スポーツ

硬式テニス

シングルス大会

▷日時 ①女性：6月6日(土)、②男性：7日(日)午前8時(雨天時6月13・14日)▷対象 市内在住・在勤(学)のかたと連盟会員▷定員計40人▷参加費(大会当日納付) 1,500円(中学生1,000円)

▷申込 総合体育館へ(郵送不可)▷締切 5月16日(土)午後5時

教室受講生追加募集
申込随時。途中受講者は残回数分のみ徴収します。詳しくは連盟ホームページをご覧ください。

▷募集コース 土曜ジュニア・土曜一般初級、日曜初級・中級、木曜初級▷対象 市内在住・在勤(学)のかた

◆いずれも▷場所 ふれあい運動広場テニスコート▷問合せ先 テニス連盟(高瀬)☎090-1892-6878

たわわ

いろいろの店の営業時間変更
4月より、土曜・日曜・祝日は午前9時～午後1時となりました。(平日は午前9時～正午)
問合せ先 農業庭園たわわ(月曜定休)☎072-446-8000または080-3789-7280(午前9時～正午)

図書館 ☎072-433-7200

移動図書館「ひまわり号」巡回日

★5月13日(水)
半田桜塚住宅 14:00～14:45
府宮三ツ松第2団地 15:00～15:45
★5月20日(水)
サンシティ貝塚5番館前 15:00～16:00
★5月21日(木)
ワクリ-カ/A棟前 15:15～16:00
★5月27日(水)
黒原会館 15:10～15:40
※変更になることがあります

生きものだいすき!「アカエイ」



水ぬるむ五月の海辺は昼間に潮が良くひきます。渚で足首まで水に浸かり、砂底で魚を探すと、注意しないと危険な生きものの一つがアカエイです。

平たい座布団のような体形で、細長い尾を持ちます。背面には眼とそのすぐ後ろに、呼吸のために海水を取り込む噴水孔があり、腹面に鼻孔(鼻の穴)と口があります。そして、尾の根本付近にある棘は有毒かつ、のこぎりの歯のようにギザギザで、刺されると抜けにくく強烈な痛みをもたらします。しかし触ったりしない限り、自分から人を刺すことはありません。市場では食用としても売られ、エイのなかでは最も美味といわれています。

問合せ先 自然遊学館☎072-431-8457

公民館タイムズ



3館合同

●8月のコミュニティ機材(かき水機・鉄板など)貸出抽選日変更
8月中は申込が多いため、3館分(中央・浜手・山手)を中央公民館で一括受付・抽選します。地域活動などで貸出しを希望する方はお越しください。
▷日時 6月7日(日)午前10時(時間厳守)

●公民館ロビー展示
あなたの作品を展示しませんか。個人・グループを問いません。気軽にご相談ください。



山手地区公民館

☎072-446-0090

市民合唱募集

山手地区公民館30周年事業～歌と語りで綴る愛物語～「お夏清十郎」を10月16日(金)午後7時開催予定です。村人合唱団として参加しませんか。
▷練習日時(全10回) 7月3日・17日、8月7日・21日、9月4日・18日・25日、10月2日・9日・15日、金曜(10月15日のみ木曜)午後7時～9時▷場所 ホール▷対象 簡単なお芝居ができて、練習日に参加可能な大人▷定員12人(多数の場合はオーディションあり)▷締切 6月9日(火)

台湾をより身近に

台湾料理を作ったり台湾の話を聞いて台湾文化を学びましょう。
▷日時 6月21日(日)午前10時～午後1時▷場所 料理室▷講師 蘇意雲さん▷内容 玉子入りトルティーヤ(台湾の朝食)、焼きビーフン、プリン入りミルクティー▷対象 大人(親子参加可)▷定員20人▷材料費500円▷締切 6月7日(日)



浜手地区公民館

☎072-431-0926

子育てサロン☆ほっとスペース

親子の自由な居場所です。
▷日時 第2・4火曜午前10時～正午▷対象 0歳～未就園児と保護者

11時30分▷出演 Beatles Band "Beasmile" (ピースマイル)※1カ月前より各公民館に整理券あり

小さい子どもと一緒に楽しめる日曜文化サロン

ビートルズナンバーを聴いてみよう!
▷日時 5月24日(日)午前10時30分～



パパサロン

さつまいもや野菜を植えよう!
▷日時 5月24日(日)日曜文化サロン終了後～正午▷対象 未就学児と父親▷参加費 無料▷申込 窓口、電話で▷締切 5月17日(日)午後5時※申込がない場合はフリーサロンとしてプレイルームを開放します

中央公民館

☎072-433-7222

子育てネットワークの会共催講座

	対象	日時	内容	
園児部会(保育付)	園児をもつ親	6/5(金)	こどもの発達を刺激するあそび 講師：滝口みどりさん 幼児期の子どもの大切なこと 講師：幼稚園教諭	
		6/29(月)		10:00～12:00
小学生部会(保育付)	小学生をもつ親	5/29(金)	座談会 新学年・子どもたちどんな感じ? うちの子なんてこうなん 講師：中川智子さん(精神保健福祉士) 子どもに寄り添ってどうしようか 講師：池原素さん(NPO福祉広場相談室)	
		6/21(日)		13:30～15:30
		7/12(日)		
中高生部会	中高生をもつ親	6/4(木)	13:00～15:00 子どもに合った進路の見つけかた 講師：水野保さん(進学アドバイザー)	

▷保育定員 各15人(定員になり次第締切、おやつ・保険代必要：園児部会350円、小学生部会350円)▷場所・申込・問合せ先 中央公民館

◆その他、乳幼児部会では子育てサークルが随時活動しています。見学自由です。詳しくはお問合せください。

◆第64回中央公民館まつり《5月23日(土)・24日(日)》とまつりバザー《5月17日(日)》は中止になりました。
問合せ先 中央公民館☎072-433-7222



公民館タイムズ



3館合同

来て、見て、知って公民館ってこんなところ

地域の学びの場

公民館は生活の中の「困ったな」「どうなっているんだろう?」「誰かに聞いてみたい」ことを、一緒に解決するための学びの場です。

まちづくりの拠点

公民館は住民の自由なまり場です。地域の町会・自治会の会議や学習の場所としても利用できます。

人がつながる場

公民館は乳幼児から高齢者まで、誰でも利用できます。講座やイベントで新しい友人ができたり、クラブ・サークル活動を通じて、一緒に活動する仲間に出会えます。

公民館が地域に出かけます

公民館は、町会館・自治会館・学校・福祉施設など、みなさんの地域へ出かけていきます。(移動公民館)
公民館クラブも地域に出かけ、演奏や発表などを行い、公民館が地域づくりのお手伝いをします。

詳しくは下記QRコードからご覧いただくか、各公民館にお問合せください。



(中央公民館)
☎072-433-7222



(浜手地区公民館)
☎072-431-0926



(山手地区公民館)
☎072-446-0090

中央公民館

☎072-433-7222

セタ・ピアノリレー

どなたでも参加できます。

▷日時 7月5日(日)午前9時~午後4時▷場所 視聴覚室▷定員 28人(要申込、定員になり次第締切 一人15分、空きがあれば連続可)▷参加費 無料



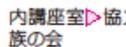
赤ちゃんルーム

0歳児をもつ親子と妊婦さんの交流のひろばです。

▷日時 6月22日、7月13日・27日、第2・4月曜午前10時~11時30分▷場所 館内保育室

介護について語り合う場

みんなで支え合う介護について考えます。気軽に参加ください。
▷日時 6月22日(月)午後1時30分~3時▷場所 館内講座室▷協力 貝塚市介護者家族の会



夏のプレーパーク

「自分の責任で自由に遊び」をモットーに『火・水・木・土』などの素材と道具で、子どもがやりたい!!と思うことを自分の手で実

現できる場です。
▷日時 7月23日(木)~25日(土)午前10時~午後4時(雨天中止)▷場所 青少年野外広場(四中横)▷参加費 100円

クラブ体験講座

茶道体験
~お茶を楽しみませんか~
▷日時 7月7日(火)・14日(火)午後7時~9時▷材料費 1回500円▷協力 茶道クラブ

浜手地区公民館

☎072-431-0926

ロビーコンサート

新型コロナウイルス感染防止のため、9月10日からの開催を予定しています。広報か い づ か 8月号でお知らせします。

ババサロン たなばた飾り作り
~笹に短冊や飾りを作ろう!~
▷日時 6月28日(日)午前10時~正午▷対象 未就学児と父親▷参加費 無料▷申込 窓口・電話▷締切 6月21日(日)午後5時



中央公民館クラブ紹介①(クラブ協議会所属)

☎072-433-7222

あなたも一緒に活動してみませんか!見学もできます

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容	
創作	ろうの花	2・4(火) 9:00	200	自分だけの花を作ってみませんか 材料費別(初回ろう代2,000円必要)	月曜民謡	月3回(月) 19:00	2,500	少人数ですが、和気あいあいとやっています	
	火曜陶芸	1~4(火) 19:00	3,000(3ヵ月)	個性と趣向をいかした作品づくりに励んでいます。	クラゲクサークラブ	2・4(月) 19:00	1,000(2ヵ月)	初心者も含め、合奏やソロを学び楽しんでいます。	
	どろんこ(陶芸)	1~4(木) 10:00	2,500	先生が基礎から丁寧に教えてくださいます。素敵な作品ができますよ!	コールシエル	1~4(火) 10:00	2,000	ステージで唄うのは気持ちが良いものです。あなたも!	
	唄外工房・唄ッ	1(木)・3(金) 12:30	2,000	古い布が新しいオリジナルの服や小物に大変身	室内楽	(火)・(金) 19:30	1,000	第1・3火曜ガリコーター、金曜は弦楽アンサンブルです	
	彫金	2・4(金) 12:30	750	世界で1個自分だけの作品は楽しいですよ!	詩吟	1・3(火) 19:00	4,000	詩のもっている情感をこめて声高らかに...	
	レザークラフト	1~4(土) 12:30	500	アクセサリや小物雑貨など1日でできる物もあります	コール・ブリー	2・4(木) 9:30	3,000	美しいハーモニを求めて日々がんばっています	
	木工クラブ	1~4(土) 18:30	500	ミドリだんじりなど製作方法で完成まで数年かかることもあります	貝塚トモクラブ	1・3(木) 13:00	2,000	高名な先生に童謡や歌謡曲の指導を受け楽しんでいます	
	土曜陶芸	1・3(土) 9:00	500	チャレンジ精神のある初心者の多い集まりです	箏曲クラブ	2・4(木) 19:00	2,000	日本文化に触れて楽しくおけいこをしています	
	やさしい仏像彫刻クラブ	1・2・4(日) 12:30	3,000	心安らぐ仏さまを彫ってみませんか 材料費別	和和ケル	2・4(金) 10:00	2,000	初心者も含め、みんなで楽しくウクレレを弾いています	
	書画	月曜絵画	1~4(月) 10:00	1,000	個性的で独創的な絵を追求し、春・秋の写生会などを開催しています	ラ・ボール	1~4(金) 13:00	2,000	童謡を歌ってみませんか。楽しく、時にはきびしく練習しています
木曜書道		1~4(木) 13:00	2,000	かな・漢字・実用書道を楽しみながら練習しています	ガラクタ	1~4(金) 19:00	1,000	ジャズから歌謡曲まで軽音楽を楽しむクラブです	
水墨画		2・4(金) 10:00	2,500	初心者のかたも基礎から学べます 会員募集中です	おけいこふありあ	2・4(金) 19:00	3,000	土でできた楽器で、素朴な音色のアンサンブルを楽しんでいます	
絵手紙		2(土) 10:00	1,000	絵に言葉を添えて四季を楽しみませんか	熟年30-50の貝	1・3(土) 10:00	2,000	55歳を超える集団が唄うことで健康維持を	
パソコンほか	コスモ写真クラブ	2・4(日) 13:30	2,000(年間)	写真を通じて友達や仲間の家族的な指導で初心者も安心	おけいこ'nd連絡会	(月~土) 16:30	400	青春の思い出は、ロックから	
	コスモパソコン	2・4(火) 19:00	2,000	パソコンに慣れ親しみ、実用面で大いに利用しよう!をモットーに活動	語学	二一八才中国語	2・4(月) 13:30	2,500	だれにでも始められます。日常の中国語会話を一緒に楽しみませんか
	貝塚ガリ研究会	2・4(土) 12:30	3,000	パソコンの初心者のかたを対象に楽しく学習しています	木曜英会話	1~4(木) 19:00	4,000	時々テキストも使い、各自のレベルで楽しんでいます	

※材料費などが別途必要な場合があります。内容は変更になる場合があります。中央公民館の他のクラブは次回紹介します。詳しくはお問合せください。

公民館タイムズ



3館合同

夏タイムズ

毎年小学校に配布している「夏タイムズ」は、今年はありません。こども講座については、今後企画して「広報かいづか」でお知らせします。

浜手地区公民館

☎072-431-0926

ババサロン「水遊びを楽しもう」

ババと一緒に水遊びや外遊びを楽しもう。

▷日時 7月26日(日)午前10時~正午▷対象 未就学児と父親▷締切 7月19日(日)

山手地区公民館

☎072-446-0090

ロビーコンサート

延期となっているロビーコンサートは、9月の開催を目指しています。みなさん楽しみに待っていてください。

中央公民館

☎072-433-7222

アタマもからだもシャキッと元気体操

家でもできる! 体力・筋力・気力もUP!

▷日時(全2回) 7月30日、8月6日、木曜午後2時~4時▷講師 高橋智子さん(健康運動指導士)▷定員 20人(多数の場合抽選)▷締切 7月20日(月)▷持物 動きやすい服装、タオル、水分



中央公民館クラブ紹介(クラブ協議会所属) ☎072-433-7222

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容
体・技・器	大人のHIPHOP呼びかけ	1~4(月) 10:00	2,000	ダンス曲に合わせて楽しく踊りませんか。心身ともにリフレッシュ!
	ハワイアン(ワグナ)	1・3(火) 13:30	3ヵ月 4,500	ハワイアン曲に合わせて楽しく踊っています
	楽しい踊り	1・4(日) 13:00	1,500	かくし芸に挑戦してほす。気のたえない楽しいクラブです
	民舞コスモス	1・2(木) 9:00	4,000	健康のため仲間と楽しく踊っています
	つむぎ会	1・3(金) 13:30	1,000	楽しい雰囲気の中で長く踊りの練習をしています
	ストレッチ	1・3(金) 19:30	1,100	楽しいトークと音楽に合わせて全身のストレッチ。体も心もい気持ち!
	子どもHIPHOP	1~4(土) 9:00	2,500	小学生から中学生まで楽しく踊っています!
	土曜民謡	1~3(土) 13:30	2,000	元気で楽しい仲間たちが集まって賑やかに踊っています
	太極拳	1~4(土) 13:00	1,000	健康と美容に効果があり、若者男女に人気があります
	人形劇あひる	1~4(木) 10:00	200	どこへでも人形つれて出かけます。夢を届けませんか
演・音・劇	マジック	2・4(金) 19:00	500	男女が集まり、賑やかに楽しく学んでいます
	茶道	1~4(火) 19:00	1,000	経典な作法ではなく、真心で人に接することが第一
伝・統	パンづくり	1(火) 10:00	1,000	フランスパンから菓子パンまで色々なパン作りが楽しめます
	なごみクッキング	3(火) 10:00	1,000	おひくろの味も体験しながら、新メニューにもチャレンジ!
料	おやじのジップ 絆カク	2(木) 9:30	1,000	親父同士で簡単な家庭料理を作って食べて楽しんでいます
	体にやさしい料理	2(木) 19:00	1,500	産産の旬の野菜を使った献立で心にも体にもやさしい料理を作っています
子・生・活	第3土曜の会	3(土) 14:00	1年 2,000	相互に懸念やテーマを決めて知識を深めています
	あこーる	3(土) 19:00	なし	身近な問題から、女性の生き方を考えていきます



山手地区公民館クラブ紹介(活動協議会所属)

☎072-446-0090

あなたと一緒に活動してみませんか! 見学もできます

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容	
創	パッチワーク	1・3(火) 10:00	1,000	材料費別。小物作りを楽しんでいます(ガッソ・ミグ・ネー・ド・イなど)	書・画・器	書を読む	1・3(火) 19:00	3,000	気楽な遊びの中に楽しさが書を作り出し、喜びが生じます
	ろうの花	2・4(木) 12:30	1,000	材料費別。四季折々の花をあなたの手で作ってみませんか		水墨画	2・4(木) 13:00	2,000	お手本を基に楽しく活動しています。現在クラブ員募集! 見学も大歓迎!
	手編み工房	1・3(金) 10:00	3ヵ月 4,000	材料費別。かぎ針から棒針まで色々な物を楽しんでいます。初心者でも簡単に編めます		絵手紙	2(火) 13:30	3ヵ月 2,000	思いを手紙にこめて、季節の草花を描いたり、カレンダーなどを作ります
	陶芸(昼)	1~3(金) 12:30	3,300	手作りの器は、作る・見る・使う楽しさがあり、自分をもつめる一時となります		ジャムおばさん	1(木) 9:00	1,000	材料費込。みんなでワイワイ楽しく、おいしいパンを作っています
	陶芸(夜)	1~4(金) 19:00	10,000	創る楽しさ、暮らしを彩り、使う喜びを一緒に味わいませんか!		ヨガ(朝)	1~4(月) 10:00	1,000	各自の体調に合わせて、無理のない実技練習をしています
	木工	1~4(土) 12:30	なし	各自が自由創作活動をしています		月曜卓球	1~4(月) 12:30	1,000	健康維持をモットーに頑張っています。若返り法として最適です。60歳以上対象
	表装研究会	1・3(火) 13:00	3ヵ月 10,000	自分の書画でも表装すれば素晴らしいくなります		ヨガスマイル	1~3(火) 9:30	1,000	みんなで和気あいあいとがんばっています
	親子でリトミック	1~3(月) 10:00	1,100	歌に合わせて踊ったり、楽器を使って演奏したりします。誕生日会、クリスマス会もあります		シルバー卓球	1~4(火) 12:30	1,000	60歳以上健康志向の卓球クラブです
	ククルウクレレ	2・4(火) 10:00	2,000	新規メンバー募集中です。楽しく楽しんでいきましょう		男のヨガ	1~3(火) 14:00	2,000	男性ばかりです。年齢に関係なく心身共に元気に楽しんでいます。クラブ員募集中
	オルオルウクレレ	2・4(火) 13:30	2,000	小さなウクレレで大きな夢を!		ヨガ(夜)	1~4(火) 19:00	1,000	皆で楽しく頑張っています。まだ余裕があります。入部するなら今がチャンスです
音	おたあすなろ会	1~3(火) 13:00	2,000	和気あいあいと楽しく、新曲にチャレンジしています。女性ばかりです	体操クラブ フェリ	1~4(木) 10:00	1,000	ラジオ体操、筋トレ、ストレッチ、フォークダンスなどを楽しく活動しています	
	コーラス山の手	2~4(木) 9:30	2,000	歌うことが大好きな人は、是非一度、見学に来てください	フラワーB&B	1~4(木) 12:30	2,000	踊る喜びと楽しさの、新しいスポーツ感覚で、最も効果的に体力づくりが出来ます	
	童謡を歌おう	2・4(木) 13:15	1,000	エネルギーに楽しく元気に歌っています。「いらっしやい、いらっしやい」	剣舞舞道	2・4(金) 13:00	500	時節に合わせての舞踏です。楽しい練習が自然に足腰を支えにします	
	津軽三味線	2・4(木) 15:30	5,000	特に楽しく、そして楽しくのびる津軽三味線の音色。初心者でも3ヵ月で上手に弾けるようになります	金曜ストレッチ	1~4(金) 14:00	1,500	健康で明るく日々を過ごせるよう頑張っています	
	沖縄三線あかばな	1~4(金) 19:00	2,000	三線の音色が好きな仲間が楽しい。沖縄民謡などを楽しく練習しています	太極拳	1~4(土) 9:30	1,500	生活習慣病も、太極拳をすればダイエットも。初心者大歓迎!	
	邦楽カク 桜(華)	2~4(土) 12:30	1,000	華・三絃・十七絃とで簡単な曲を選んで合奏(時には尺八の参加あり)を楽しんで練習	土曜ダンス	2・4(土) 12:30	1,500	皆で楽しく社交ダンスを踊っています。興味のある方は見に来てください	
	女声コーラス「ソウ」	1(月) 10:00 3(月) 19:00	1,500	クラシックから童謡までいろんなジャンルの曲を歌っています。歌の好きな方募集	文化サロン(茶道・いけばな)	1・3(月) 12:30	3ヵ月 7,000	茶道・いけばなを中心に活動しています	
	バンド連絡会	各グループで調整	500	公民館で活動するバンドの集まり。定期的に会費、ライブを行い交流を図っています	花を楽しむ会	2(木) 19:00	100	材料費別(300~800円)。身近な花を生活に	
	英会話(昼)	1~4(木) 13:20	4,000	和やかな雰囲気の中、上手下手を問わずゲームやテキストを通じて学習しています	朗読劇グループ	1~4(月) 12:30	3,000	心にひびく言葉のやりとりを楽しんでいます。毎年定期公演を行っています	

※クラブ紹介の内容は変更になる場合があります。詳しくはお問合せください。浜手地区公民館のクラブは順次紹介していきます。

公民館タイムズ



山手地区公民館

☎072-446-0090

Eメールはこちらで▶



公民館へGO!

～小学生(高学年)の宿泊体験～
公民館で宿泊して、買物・食事作り・スイカ作り・花火など企画しています。集団生活を通して楽しい思い出をつくりましょう。
▶日時 9月5日(土)午後3時～6日(日)午前9時▶対象 小学4～6年生▶定員 15人(多数の場合は抽選)▶参加費 500円▶持物 洗面用具、エプロン、三角布、着替え、寝ぶくろ(あるかた)▶申込 窓口・電話・Eメール▶締切 8月17日(月)午後5時

ロビーコンサート(要申込)

～あなたのこころに～
～あなたの童謡コンサート～
▶日時 9月15日(火)午後0時30分～1時30分▶出演 貝塚市クラシック音楽家協会▶定員 40人(定員になり次第締切)▶申込 8月20日(木)午前9時～31日(月)午後5時に窓口・電話・Eメールで

高齢介護課共催講座 ノルディック・ウォーキングで健康寿命をのばそう

2本のポールを交互に地面について歩きます。姿勢も良くなり、ひざ・腰への負担軽減、介護予防にもなります。
▶日時(全5回) 9月25日～10月30日、金曜午前10時～正午▶対象 市内在住・在勤の成人(初めてのかた優先)▶定員 20人(多数の場合は抽選)▶参加費 無料▶申込 窓口・電話・Eメール▶締切 9月7日(月)午後5時

はじめての人形劇

幼児から楽しめる人形劇です。
▶日時 9月27日(日)午前10時30分～11時30分▶場所 館内ホール▶入場 無料▶出演 人形劇団クルテル▶演目 ①○・△・□～などにあそぼ②赤いめんどり▶定員 50人(多数の場合は抽選)▶申込 窓口・電話・Eメール▶締切 8月31日(月)午後5時



クラブ体験講座「英会話」

ニュージランド出身の講師と楽しく会話しながら自然と英会話力が身につきます。
▶日時 8月27日(木)午後1時20分～3時20分▶定員 5人(定員になり次第締切)▶参加費 無料▶申込 窓口・電話・Eメール▶協力 英会話クラブ

浜手地区公民館

☎072-431-0926

展示会「明るいおばけやしき」

小学生や大人ボランティアが作ったいろいろなおばけが並んでいるよ。ぜひ見に来てね。
▶日時 8月22日(土)・23日(日)午前10時～午後4時(23日は午後2時まで)▶場所 講座室▶入場 無料

ロビーコンサート(要申込)

マリンバ デュオ コンサート
▶日時 9月10日(木)午後0時15分～1時▶場所 館内ホール▶定員 40人(定員になり次第締切・市内在住のかた優先)▶申込 8月17日(月)～9月3日(木)に窓口・電話で▶出演 谷口かなさん・横田悠哉さん(マリンバ)
※ロビーコンサートの企画委員を募集しています。詳しくはお問合せください。

げんきに子育て

乳幼児期を親子で楽しく過ごすコツをみんなでおぼましよう。
▶日時(全6回) 9月18日～10月23日、金曜午前10時～正午▶対象 乳幼児を持つ親▶定員 12人(定員になり次第締切)▶保育定員 8人(おやつ代250円必要)▶申込 8月18日(火)から窓口・電話で



コードモ防災塾

近年大型化している「台風」について、実験をしながら学びます。
▶日時 9月20日(日)午後1時30分～3時▶対象 小学4年生～中学生▶定員 20人(多数の場合は抽選)▶参加費 無料▶締切 9月13日(日)午後5時

いきいき歌体操

喉と体を同時に刺激して、健康促進を目指しましょう。
▶日時(全3回) 9月1日・15日・29日、火曜午前10時～11時30分▶対象 60歳以上の市内在住のかた▶定員 30人(多数の場合は抽選)▶締切 8月25日(火)

浜手歌声サロン

ピアノのメロディーに合わせてみんなで歌いましょう。
▶日時 9月24日(木)午後1時30分～3時30分▶場所 館内ホール▶定員 40人(定員になり次第締切)▶申込 8月24日(月)～9月17日(木)に窓口・電話で
※リクエストカード(2曲まで)は浜手地区公民館にあります。

中央公民館

☎072-433-7222

介護について語り合う場

介護の悩みや疑問は一人で抱えこまず、皆で話し合ひましょう。気持ちを楽にして来てください。
▶日時 8月24日(月)午後1時30分～3時▶場所 講座室3

クラブ体験講座

陶芸 どうろんこ(要申込)
陶芸の楽しさや自分で器をつくる工程を体験してみませんか。
▶日時(全2回) 9月10日・17日 木曜午前10時～正午▶材料費 500円▶持物 エプロン

第42回 貝塚少年少女合唱団 定期演奏会

子どもたちが元気いっぱいに日ごろの活動成果を発表します。
▶日時 9月13日(日)午後1時▶場所 コスモシアター中ホール▶入場 無料(新型コロナウイルス感染症予防対策のため、入場制限をさせていただきます場合があります)



浜手地区公民館クラブ紹介①(利用者連絡会所属)

あなたと一緒に活動してみませんか! 見学もできます

☎072-431-0926

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容
創作	陶芸 こねこね	1・2・4(月) 9:00	1,200	月3回。1回は先生の指導、残り2回は自由な作品作りを楽しんでいます
	光 水彩画クラブ	1・3(火) 13:00	2,000	水彩画製作を通して地域の交流を図り楽しく静物、スケッチなどを楽しんでいます
	油絵クラブ	2・4(火) 13:00	2,500	油絵は描くたびに深みがあり楽しいですよ
書画	火曜 ペン習字・書道	1・3(火) 19:00	1,500	書いている間は何かも忘れて没頭しています。皆さんも体験してみませんか
	書道 木曜会	1~3(木) 13:00	1,500	皆さん、漢字、仮名、日常必要な慶弔辞など、学んでいます
	シュガー(お菓子・パン作り)	2(火) 10:00	1,500	パンとお菓子づくりを楽しんでいます
料理	おやじの料理	3(日) 9:30	1,000	男も料理をして楽しむ時代です
	コーラス サラダボール	1・3(土) 10:00	2,000	幅広いジャンルの歌を楽しく歌ってストレス解消! 明るく楽しいクラブです。
	ハモカ・アソビブル アンダンテ	1・3・4(木) 13:00	500	アンサンブルの楽しさを味わいましょう。現在15人在籍しています
音楽	浜手DJクラブ(60歳以上)	(土)9:00 2(金)19:00	2,000	5人で1グループ。5グループが月1回のレッスンを楽しんでいます
	リリィ1, 2, 3	3・4(木) 10:30	900	音楽を使って、手遊びや体を動かして親子で楽しく遊んでいます
	T 2 R (キッズダンス) (幼稚園年長～中学生)	1・3(土) 13:40 1・3(土) 15:40	1,500～	楽しく、リズムに合わせて元気よく踊るクラスです 音に合わせて、かっこよさをモットーに踊るクラスです さらにかっこよく、レベルアップを目指すクラスです
体操・舞踊	踊るママ御殿	1・3(日) 10:00	1,000	子連れのできる大人のヒップホップです
	太極拳	1・3・4(火) 19:00	2,000	楽しくゆったりと気の流れを良くする健康体操。初心者大歓迎!
	太極拳II	1・3(木) 13:00	1,000	転ばぬ先の太極拳 太極拳は足・腰を強くします!
卓球	ストレッチ体操浜風	1・3(金) 10:00	1,000	脳トレ・筋トレ・ストレッチ。音楽に合わせて楽しく元気に健康づくり
	卓球コロコロ	2~4(月) 9:00	2,000(年会費)	相手の気持ちを考え楽しくラリーを続けていきます
	リリィ1(卓球)	1~3(土) 19:00	2,000(年会費)	和気あいあいと楽しんでま〜す
舞踊	カトリダンス	3(木) 19:00	1,200	初心者でもかんたんに踊れる楽しいダンスです
	浜手/ルビック/ウォーク	2・4(火) 14:00	4,000(年会費)	健康保持と体力増進を目指し、その輪を広げる活動を行います
	Enjoy English in Hamate	1~3(火) 10:00	2,000	陽気な先生を中心に初・中級英会話をコーヒータイムをはさみ賑やかにしています

※内容は変更になる場合があります。詳しくはお問合せください。
※浜手地区公民館クラブ紹介②は次回紹介します。

公民館タイムズ



3館合同

特技登録制度「まちのすくれもの」をご活用ください

まちのすくれもの登録者を、公民館などのクラブや地域の諸団体・自主グループの学習会などに紹介します。特技登録の新規受付も随時行っています。詳しくは各公民館へお問合せください。
例) 地域ふれあい喫茶・子ども会のお楽しみ会での演奏者、市民企画講座・PTA・家庭教育学級の講師など

中央公民館

☎072-433-7222

赤ちゃんルーム

▷日時 第2・4月曜午前10時～11時30分(9月14日:水あそび、28日:手作りおもちゃ)▷場所 保育室▷対象 平成31年4月以降生まれの子どもと親、妊婦のかた▷申込 電話・窓口

第53回 貝塚市美術協会展

▷日時 9月19日(土)・20日(日)午前9時～午後5時(20日は午後3時)▷場所 視聴覚室▷内容 油絵・水彩画・日本画・陶芸・彫刻・絵手紙・染色・版画など▷入場 無料(感染症対策のため入場制限をする場合があります)

ノルディック・ウォークを体験しよう



▷日時(全6回) 10月15日～11月19日、木曜午後1時30分～3時30分▷場所 コスモシアター周辺・二色の浜公園(予定)▷講師 大阪府ノルディック・ウォーク連盟▷定員 20人(多数の場合は抽選、初めてのかた優先)▷締切 10月6日(火)午後5時

保育つき講座「おや子教室」

子育てのあれこれと一緒に学び、日頃の悩みを解消!
また、アロマづくりやヨガ体験

などでリラックスして、子育て中のひととき、ホッとしませんか。
▷日時(全6回) 11月10日～12月15日、火曜午前10時～正午▷場所 講座室▷対象 乳幼児とその親▷保育定員 15人▷講師 仲山幹子(まちのすくれもの登録者)・平山公子(ヨガ講師)・すくすく子育て応援隊ほか▷費用 300円(おやつ代)※材料費は実費▷締切 10月20日(火)

クラブ体験講座「ラ・ボール(女声合唱)」

一緒に活動しませんか。
▷日時(全4回) 10月2日～23日、金曜午後1時30分～3時30分▷内容 女声合唱のための曲集(木下敬子作曲集)

子育てサークル体験会

- ①ノントン森のようちえん
▷日時 10月の毎水曜、午前9時30分～正午▷場所 せんごくの杜(雨天中止)▷内容 森の散策
- ②さくらんぼ
▷日時 10月9日・23日、金曜午前10時～11時30分▷場所 視聴覚室▷内容 さくらんぼ体操と親子で楽しめるゲーム遊び
- ③ありんこ
▷日時 10月15日(木)午前10時～11時30分(雨天の場合は10月29日)▷場所 青少年野外広場(第四中学校横)▷内容 ひろばであそぼう
- ④どんぐりようちえん
▷日時 10月20日(火)・23日(金)午前10時～11時30分(雨天中止)▷場所 市民の森(二色の浜公園内)▷内容 小さい子どもあそべるボールあそび・木の実とり

報告

NEWつるかめ大学開講しました

6月15日、2カ月遅れで第56期つるかめ大学が開講しました。毎年、約80人もの高齢者が集まり賑やかにスタートを切るつるかめ大学。しかし今年は新型コロナウイルスの影響で全員が集まることはできませんでした。全体を2つに分け、講座の時間も短縮して行いました。「開講を待っていた」「みんなの顔をみて安心した」と、久しぶりに会う笑顔には笑顔がこぼれ、マスク越しに再会を喜びました。前期はわずか5回の開催でしたが、健康体操でなまった体をう-

んと伸ばしてリフレッシュしたり、貝塚の水について学んで、災害時への備えを再確認するなどいつもの学習風景がもどりつつあります。
「この時期だからこそつながり合い乗り切ろう」を前期テーマに、新しい生活様式の中でも絆を大切にしています。



山手地区公民館

☎072-446-0090

おさんぽかばさん



同年齢の子どもを持つママたちの交流の場です。子どもを遊ばせながら楽しくおしゃべりしませんか。マスク、ヘアゴムなど手作り小物のワークショップをします。
▷日時(全5回) 9月29日～10月27日、火曜午前10時～11時30分▷場所 水間寺客殿▷対象 子育て中のかた、ママだけでも大歓迎▷材料費 1個100円(何を作るか選べます)▷申込 不要

Eメールはこちらで→



クラブ体験講座「ヨガ」

ヨガを通して一緒に健康づくりをしませんか。30～70代と幅広い年齢層の会員が、ヨガで自分の身体と向き合う時間を過ごしています。

▷日時 10月6日(火)午前9時30分～11時30分▷定員 20人(定員になり次第締切)▷費用 無料▷持物 ヨガマット(なければバスタオル)、汗びきタオル、お茶▷申込 窓口・電話・Eメールで▷協力 ヨガスマイルクラブ



浜手地区公民館

☎072-431-0926

親子対象にプレイルームを開放

▷日時 開館日の午前9時～午後6時で団体の利用がない時
※新型コロナウイルス感染症対策のため、利用は1時間に3組までです。
※子育てサロン☆ほっとスペースは開催を見合わせているため、こちらをご利用ください。

パパサロン

段ボールでだんじりを作ろう
▷日時 9月27日(日)午前10時～正午▷対象 未就学児とパパ▷定員 8組(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話で▷締切 9月20日(日)午後5時
※申込がない場合はフリーサロンとしてプレイルームを開放します

ロビーコンサート

ピアノであそぼう!
クラシックからポップスまでいろいろな曲を演奏します。
▷日時 10月8日(木)午後0時15分～1時▷場所 館内ホール▷出演 宮崎剛さん▷定員 40人(定員になり次第締切・市内在住のかた優先)▷申込 9月14日(月)～10月1日

(木)に窓口・電話で

ダイエットボクササイズ

ボクシングのいろんなパンチの動きを、軽快な音楽に合わせて行います。
▷日時(全2回) ①10月19日(月)・26日(月)午後7時～8時②10月31日(土)・11月8日(日)午前10時～11時▷対象 市内在住のかた▷定員 各20人(定員になり次第締切)▷申込 10月1日(木)～窓口・電話で

人権講座

気づけば高まる人権意識

落語家の桂七福さんが、人権について身近な題材で話してくれまします。
▷日時 10月29日(木)午後1時30分～▷定員 40人(定員になり次第締切・市内在住のかた優先)▷申込 10月1日(木)～26日(月)に窓口・電話で



浜手地区公民館クラブ紹介②(利用者連絡会所属)

あなたも一緒に活動してみませんか!見学もできます

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容
演芸・演劇	朗読ぐる～ぶサルビア	2・3・4(金) 13:00	2,000(年会費)	ヒロシマ・ナガサキの被爆者の手記・詩を朗読します
	人形劇 きしゃぼっば	1～3(月) 10:00	200	子ども達の笑顔といっしょにふれあいます。仲間募集!
伝統文化	いけ花	2・4(金) 13:30	3,500(花代込)	四季折々の花をいけて、楽しんでいます
	茶道	1・3・4(木) 12:30	1,500	美味しいお茶とお菓子を一緒に楽しみませんか?
	二色囲碁クラブ	1～4(土) 12:30	2,000(年会費)	白石と黒石で19×19の碁盤での陣取りゲーム。老若男女、誰でも楽しめます
習字	木曜PCクラブ	1・3・4(木) 12:30	1,000	ワード・エクセル・パソコンでお絵描きをしています
	浜手川柳	1・3(金) 13:20	1,500	日頃のちょっとした感動を、五・七・五のリズムで表現してみませんか
学習	おとなのガッコウ	1(火) 19:00	500	煎茶を中心に日本や貝塚の文化などを学びます

※内容は変更になる場合があります。詳しくはお問合せください。

公民館タイムズ



浜手地区公民館
☎072-431-0926

パパパソコン
炭火で焼き芋！焼けるまでの間、新聞紙でテントハウスを作るよ！
▷日時 11月22日(日)午前10時～正午▷対象 未就園児とパパ▷定員 8組(申込みがない場合は、フリーサロンとして部屋を開放)▷持物 お茶、あればさつま芋1本▷申込 11月15日(日)までに、窓口・電話で

**クラブ体験講座
水彩画クラブ**
▷日時 11月17日(火)午後1時30分～3時30分▷内容 カレンダーに干支や好きな絵を描いてみよう▷定員 5人▷持物 色えんぴつまたは水彩絵の具一式▷申込 11月16日(月)までに窓口・電話で

※11月のロビーコンサートはお休みします。

山手地区公民館
☎072-446-0090
Eメールyamate@city.kaizuka.lg.jp

パソコンで年賀状を作ろう
▷日時(全4回・11月23日除く) 11月9日～12月7日、月曜午前10時～正午▷場所 講座室▷対象 市内在住・在勤のパソコン所有者▷定員 10人(多数の場合は抽選)▷参加費 無料▷申込 10月15日(木)～30日(金)午後5時に窓口・電話・Eメールで

公民館でピンポンを楽しもう
ホールを開放していますので、自由にお越しください。道具は用意しています。
▷日時(全8回・11月23日除く) 10月19日～12月14日、月曜午後3時30分～5時▷場所 ホール▷対象 市内在住・在勤(学)のかた



3館合同

★各公民館のホームページを見やすくリニューアルしました
★山手地区公民館まつり・浜手地区公民館ふれあいまつりを中止
山手地区公民館(10月18日)・浜手地区公民館(10月25日)の公民館まつりは、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、中止になりました。

市民企画講座「はやりのZoomを体験し、活用してみよう！」
遠隔会議システムZoomの利用や活用方法・注意点・便利機能を学び、新しい生活様式に生かしましょう。
▷日時(全6回) 11月10日～12月15日、火曜午後7時～9時▷場所 山手地区公民館・受講者宅▷対象 大人でインターネットを使用したことがある市内在住・在勤(学)のかた▷定員 5人(多数の場合は抽選)▷参加費 無料▷持物 Zoom利用が可能なパソコンまたはスマートフォン▷申込 窓口・電話・Eメールで▷締切 10月20日(火)午後5時

JAZZ ライブ in YAMATE
▷日時 11月22日(日)午後1時30分～3時30分▷場所 ホール▷対象 市内在住・在勤(学)のかた▷出演 中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ▷定員 100人(定員になり次第締切)▷入場 無料[整理券が必要]。10月15日(木)～30日(金)に各公民館で配布します

親子でつくる～世界でひとつのXmas～
クリスマス飾る素敵なアイテムを親子で手作りしましょう。
▷対象 市内の小中学生と保護者▷定員 各10組(1組3人まで、多数の場合は抽選)▷申込 窓口・電話・Eメールで▷締切 11月1日(日)午後5時

内容	日時	材料費・持物
①陶芸作品	11月22日(日)、12月6日(日) 午前10時～正午(全2回)	1,500円 ぞうきん1枚・エプロン
②竹ランタン	11月28日(土)午後1時～3時	300円
③鉢植えクリスマスツリー	11月29日(日)午前10時～正午	2,200円、筆記用具 30cm程度の持帰り袋

中央公民館
☎072-433-7222

クラシックコンサート「今こそ聞きたいクラシックの名曲たち」
▷日時 11月8日(日)午後1時30分
開演▷場所 視聴覚室▷出演 貝塚市クラシック音楽家協会▷定員 26人[多数の場合は、10月22日(木)抽選]▷入場 無料▷申込 10月8日(木)～10月20日(火)の午前9時～午後5時までに窓口・電話で(一人につき2人まで)※コンサートの様子は、後日YouTubeで配信予定です。



講座「気軽に書道」
初心者大歓迎！もう一度、筆を持ちたいかたも歓迎します。
新年のあいさつを自筆で書いてみませんか。
▷日時(全4回) 11月10日～12月1日、火曜午後1時～3時▷場所 講座室2▷対象 大人▷定員 12人(定員になり次第締切)▷持物 大筆・小筆・下敷き・文鎮・すずり▷材料費(4回分) 400円▷申込 10月10日(土)から窓口・電話で



介護について語り合う場
介護のことで悩んでいます

か。皆で話せば解決できることもあります。
気軽にご参加ください。
▷日時 10月26日(月)午後1時30分～3時▷場所 講座室3▷協力 貝塚市介護者家族の会▷参加費 無料

アロマ講座～1日の終わりに癒しのひとときを～
▷日時(全2回) 11月13日・20日、金曜午後7時～8時30分▷場所 視聴覚室▷対象 大人▷講師 上野千賀子さん(まちのすくれもの登録者)▷内容 ①アロマでウイルス対策の除菌スプレーを作ろう ②保湿効果のあるアロマソープを

作ろう▷定員 15人(定員になり次第締切)▷材料費(2回分) 1,000円▷申込 10月10日(土)から窓口・電話で

**クラブ体験講座(要申込)
貝塚ハーモニカクラブ**
▷日時 10月15日・22日、木曜午後1時～3時▷内容 ハーモニカの説明と簡単な楽譜の説明・吹き方の練習など▷持物 複音ハーモニカ(無い場合は見学になります)ニハオ中国語クラブ
一緒に中国を感じてみませんか！
▷日時 11月9日(月)午後1時30分～3時

●●●●●●●●●●子育てネットワークの会共催講座●●●●●●●●●●

- ◎申込は電話で、締切は各講座の前日までです。
- ◎各講座の保育定員 10人(各講座の1週間前締切)
- ◎保険・おやつ代(1回) 100円

- ◆園児部会「Happy Life」子どもと一緒に
▷日時・内容 ①10月29日(木)・「子どもの発達を刺激する遊び」滝口みどりさん②11月19日(木)・「性教育について～幼児期に伝えたいこと～」浅田昌代さん、いずれも午前10時～正午▷場所 ①②中央公民館
- ◆小学生部会 子育てのプレない恋をもつ
▷日時・内容 ①10月23日(金)・座談会「話してスッキリしませんか」②11月17日(火)・講座「みんなちがってみんないい」中川智子さん③12月17日(木)・「親が子どもにできることってなんだろう」先輩お母さん、いずれも午前10時～正午▷場所 ①③中央公民館②浜手地区公民館▷定員 ①22人②40人③30人
- ◆中高生部会 思春期を乗り切る！
▷日時・内容 ①10月27日(火)・座談会「中高生あるある ここから話せることをはなしてみよう」②11月24日(火)・座談会「もっと知りたい今どきの中高生」、いずれも午後1時～3時▷場所 ①②中央公民館▷講師 ①②川崎裕子さん▷定員 各30人

報告 **七夕・ピアノリレー「公民館に行こう」開催**

中央公民館では昨年に続き2回目となる「七夕・ピアノリレー」を1人15分の持ち時間で開催しました。
緊急事態宣言解除後の6月から来館者に七夕の短冊作成してもらい、完成した七夕飾りを視聴覚室にデコレーションし、終日開放するスタイルで開催しました。
サブテーマ「公民館に行こう」のタイトル通りに小学1年生から70歳代と幅広い層の参加があり誰もが集う公民館らしいピアノリレーになりました。
気軽にグランドピアノを弾きたい、家族連れによる小さな発表会、そして互いのピアノ演奏を聞

いて感想を述べあうなど参加者同士の交流も深まりました。
今後も四季折々を感じながらのピアノリレーを開催し、沢山のかがたが交流でき、元気になるような事業を開催していきます。
※次回は、12月20日「Xmasピアノリレー」を予定しています。



公民館タイムズ



中央公民館

☎072-433-7222

赤ちゃんルーム



気軽に参加できる親子の交流の広場です(要申込)。
▷日時 11月9日、12月14日・28日、第2・4月曜午前10時～11時30分▷対象 0歳児を持つ親子、妊婦のかた▷内容 おさんぽ・クリスマス会・お正月あそびなど

秋のプレーパーク

子どもたちの「やってみたい」を最大限叶えてあげながら一緒に遊びませんか。
▷日時 11月28日(土)・29日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)▷場所 市立青少年野外広場(第四中学校校横)▷参加協力費 100円

障害者施設合同作品展「にっこり展」



陶芸や絵画など、さまざまな力作が並びます。
▷日時 12月12日(土)～来年1月14日(木)※水曜・祝日・12月29日(火)～1月3日(日)は休館▷場所 中央公民館ロビー壁面▷入場 無料

X'masピアノリレー

どなたでも参加できます。
▷日時 12月20日(日)午前9時～午後4時(1人15分、空きがあれば連続可)▷場所 視聴覚室▷定員 28人(要申込、定員になり次第締切)▷参加費 無料

報告

アタマもからだもシャキッと元気体操

7月と8月の2回開催し、8月6日には視聴覚室にイメージキャラクターのつげさんもやってきて一緒に体操をしました。コロナや夏の猛暑で外出を控える人も多く、運動不足になりがちです。そこでこの講座では、家にある物を利用して手軽に運動する方法を学びました。水を入れたペットボトルを重りにしたトレーニングや、タオルと椅子を使ったストレッチのやり方をいろいろ体験しました。受講者の人達からは「外は暑いけど、家の中なら運動を続けら

れるわ」「タオルを使ったストレッチって、とても気持ちいいですね」「こんな簡単な道具と動きなら覚えられるわ」と好評でした。



写真入ります

浜手地区公民館

☎072-431-0926

クラブ体験講座

①太極拳II

転ばぬ先の太極拳!足、腰を強くします。
▷日時(全2回) 11月19日・12月3日、木曜午後1時～3時▷募集人数 10人▷申込 11月17日(火)までに窓口・電話で

②踊るママ御殿

大人のためのダンスです。子連れOK。
▷日時 11月29日または12月6日、日曜午前10時～正午▷募集人数 若干名▷申込 各回の開催前日までに窓口・電話で

ロビーコンサート(要申込)

クリスマスはやっぱりハンドベル

ミニ編成で、クリスマスメロレーをお届けします。
▷日時 12月10日(木)午後0時15分▷場所 2階ホール▷出演 ヘルトウッティ・ルピナス▷定員 80人(定員になり次第締切・市内在のかた優先)▷申込 11月16日(月)～12月3日(木)に窓口・電話で

公民館出前講座 和太鼓を楽しむ

和太鼓の力強い響きと演奏体験をお楽しみください。
▷日時 12月13日(日)午前11時～正午▷場所 北小学校体育館(駐車場)

はありません▷定員 100人(定員になり次第締切)▷出演 阪南太鼓「楽鼓(らくこ)」▷申込 11月12日(木)～12月11日(金)に窓口・電話で

パバサロン 牛乳パックでランブシェードを作ろう!

▷日時 12月20日(日)午前10時～正午▷対象 未就学児とパバ▷定員 8組(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話▷締切 12月13日(日)午後5時
※申し込みがない場合は、フリースalonとしてプレイルームを開放します。

クラブ活動の様子を発表します

「ふれあいまつり」に代わり、展示&映像で活動の様子を発表します。ぜひご覧ください。

11/12(木)～27(金)	書道木曜会
11/16(月)～30(月)	陶芸こねこね
11/27(金)～12/1(火)	いけ花
12/15(火)～1/5(火)	水彩画光
2/9(火)～20(土)	油絵
	陶芸こねこね
	太極拳
	太極拳II
11/1(日)～10(火)	アガツ(1-Eカ)
	カトリック
	サガボ-ム(1-C)
	踊るママ御殿

報告

展示会「明るいおばけやしき」

8月22日～23日、講座室に子どもや大人のボランティアが制作したおばけ作品を展示しました。みなさんに遊んでもらったアマビエのぬり絵や、仲良し小学生3人組が作った「サイレンヘッド」、親子で作ったおばけの貼り絵、ボランティアが作った風船おばけなど楽しい力作が並びました。遊べる作品コーナーでは子ども達が夢になって遊び、夏のひと時を楽しみました。

浜手歌声サロン

9月24日浜手歌声サロンを開催。ピアノの生演奏とボーカルの声にリードされながら、歌器曲や童謡など24曲をみんなで心地よく歌いました。コロナウイルス対策として定員を40人とし、マスク着用はもちろんのこと、窓を開けイスの距離を離すとともに、公民館利用者が作ってくれた大型パーテーションが舞台上にあることで安心して声を出すことができました。



山手地区公民館

☎072-446-0090

ロビーコンサート(要申込)
Autumn concert～心和むとき～
秋の嵐下がり、歌とピアノの音色をお楽しみください。



▷日時 11月17日(火)午後0時30分～1時30分▷出演 貝塚市クラシック音楽家協会▷定員 40人(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話・Eメールで

ほっと・ハートコンサート
～音楽を通じて平和・人権を伝えてみませんか?～

▷日時 12月11日(金)午後1時30分～3時▷出演 瑞音(みずね) [上田賢一さん(フルート)、濱口富子さん(アルパ/ハープ)]▷定員 40人(定員になり次第締切)▷申込 11月16日(月)以降に窓口・電話・Eメールで

報告

公民館へGO!～小学生(高学年)の宿泊体験～

9月5日・6日、公民館に宿泊して、夏の遊び(すいかたき、花火、きもだめし、スーパーボールなど)を楽しんで思い出作りとなるよう取り組みました。小学4～6年生11人が参加。ボランティアや活動協議会の協力で無事終了することができました。子どもたちは2チームに分かれ、協調性や思いやりなど、集団生活に必要な良い経験ができたと感じています。晚ご飯の買い出し途中で雷や大雨と遭遇、広いホールで寝袋初体験など、どれもが子どもたちにとって夏の良い思い出になった

ことでしょう。また子どもたちは、初対面で、不安や緊張もあったと思いますが、アンケートでは「楽しかった、また来年も参加したい」という感想が多数あり、後日公民館にお礼の手紙も届けてくれました。



公民館タイムズ



中央公民館 ☎072-433-7222

介護について語り合う場
認知症の基礎知識、施設のこと、家族・自分について、一緒に考えましょう。
▷日時 12月21日(月)午後1時30分～3時▷場所 講座室3▷参加費 無料▷申込 窓口・電話で

子ども講座「親子でつくろう！エコクラフト動物」
▷日時 12月26日(土)午前10時～正午▷場所 創作室▷対象 小学生と保護者▷協力 ろうの花クラブ▷定員 15組(定員になり次第締切)▷材料費 1人200円▷申込 窓口・電話で



ジャズライブ



新春恒例のジャズライブをお楽しみください。
▷日時 1月17日(日)午後1時30分▷場所 コスモシアター中ホール▷出演 中野ひろしとスイングガイズオーケストラ▷入場無料(要整理券)▷整理券申込 いずれも各公民館で一人4枚まで
①市民のかた: 12月10日(木)から
②市外のかた: 12月17日(木)から
▷定員 240人(定員になり次第締切)

浜手地区公民館 ☎072-431-0926

新春あそびたい会
ボランティアの皆さんが、コマ回し・折り紙・百人一首・手作りおもちゃや作品など楽しい遊びを教えてください。
▷日時 1月8日(金)午後1時30分～3時

ロビーコンサート(要申込)チェロとピアノで奏でる新春の響き
▷日時 1月14日(木)午後0時15分～1時▷場所 2階ホール▷定員 80人(定員になり次第締切)
▷出演 伊石昂平さん(チェロ)、伊石有里さん(ピアノ)▷申込 12月14日(月)～1月7日(木)に窓口・電話で

報告 **ロビーコンサート「ピアノであそぼう」**



10月のロビーコンサートは8日(木)に開催し、ピアニストの宮崎剛さんにご出演いただきました。新型コロナウイルス感染症対策として、2階ホールを使用し定員40人で行いました。1階ロビーでもテレビモニターに演奏の様子を映し出し、客席を用意しました。演奏曲は、ベートーヴェンのピアノソナタ「悲愴」、「ラプソディ・イン・ブルー」などのガーシュウィンメドレーでした。最後のリクエストコーナーでは、受付時に書いてもらった、様々なジャンルのリクエスト曲10曲を即興でメドレーにして弾いてくださり、楽しく素晴らしい演奏を聴くことができました。参加者からは「今日のコンサートを楽しみにしていたので聴けて感激した」との声が聞かれ、とても充実したコンサートになりました。

ふれあい料理講座

人数を半分に減らし、マスク着用・消毒・換気など新型コロナウイルス感染症対策をして調理しました。食事の際も、簡隔を空け間仕切りを設置するなど手間は増えましたが、みなさん再開を待ちかねていたようで、一緒に作った料理をおいしそうに食べていました。



山手地区公民館 ☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で



高齢介護課共催
介護予防のための編みあみ講座～手指と頭の体操～

①ペーパークラフトバンドでかごを作ろう
▷日時(全2回) 1月14日(木)・21日(木)午後1時30分～3時30分
②健康的な布ぞうりを作ろう
▷日時(全2回) 1月18日(月)・25日(月)午後1時30分～3時30分
◎いずれも
▷対象 市内在住・在勤のかた
▷定員 15人(多数の場合は抽選)
▷材料費 200円
▷締切 12月24日(木)



保育つき講座
ブレーキング母(ママ)のスミ
仕事をしながらの子育てを想像するだけで不安がいっぱい。忙しくて子どものこと、家のこと、お金のことはちゃんとしたい。手抜きじゃなく、自分らしく而立するヒントを一緒に学びましょう。
▷日時(全6回) 1月14日～2月25日、木曜午前10時～正午▷対象 乳幼児を持つ市内在住・在勤の母親▷定員 12人(定員になり次第締切)▷保育定員 12人(おやつ代250円必要・1歳未満は要相談)▷材料

費 実費▷申込開始 12月14日(月)
ロビーコンサート「新春を唄う」
年の初めのコンサートをお楽しみください。
▷日時 1月19日(火)午後0時30分～1時30分▷出演 岡部雅浪さん、今川知恵子さん(フルート)
▷定員 50人(定員になり次第締切)▷申込開始 12月14日(月)

報告 **おさんぽかばさん**

9月29日～10月27日の火曜に水筒寺客殿で実施しました。「おさんぽかばさん」は子育て中の親子の交流の場で、春と秋に水筒寺客殿や町会館など地域へ出かけて実施しています。今年は新型コロナウイルス感染症対策としてボランティアが作るおやつを提供をやめ、「手縫いのマスク」や「くるみボタン」のヘアゴムを作りました。0～3歳の親子の参加があり、子育ての話など、楽しくおしゃべりしながら作業を進めることができました。



参加したお母さんは「小さい子どもがいると家ではできないから楽しかった」と完成作品にとても満足していました。子どもたちも水筒寺の境内を散歩し、落ち葉拾いをしたり、メダカの池をみつけたり、毎回楽しみに来てくれていました。

オペレッタ(音楽劇)貝塚みずま「お夏清十郎」村人合唱団がんばりました!

10月16日(金)に「オペレッタ貝塚みずま お夏清十郎」が行われました。村人合唱団役として6月に市民オーディションを行い、13人のかたが選ばれました。7月から毎月2回練習しましたが、ほとんどのかたがオペレッタは初めてで、パートごとの練習にセリフや踊りが加わると、苦労されていました。9月からプロの声楽者が加わるとその迫りに圧倒され、合唱団の声が吸収されそうでした。舞台上では楽器の生演奏者も参加し、合同練習も数回行いました。本番終了後の感想では、全員「楽しかった!」の一言。また「コロナ禍の中、合唱はリスクが高く活動休止や分散練習を余儀なくされています。そんな中、今回の機会をいただいていたのは、とてもありがたく思っています。貝塚市民として地域の歴史を知り、この催しに参加できた事に感謝しています」という感想もありました。



公民館タイムズ



中央公民館

☎072-433-7222

ライトミュージックコンサート
ジャズのフルバンド演奏を気軽に
お楽しみください。

▷日時 2月14日(日)午後1時30分
▷場所 コスモシアター小ホール
▷出演 貝塚市軽音楽連盟▷入場 無料

※満席の場合は入場制限を行う場合があります。



昨年の様子

赤ちゃんルーム

親子の交流のひろばです。気軽に
ご参加ください(要申込)。

▷日時 1月25日～3月22日の第
2・4月曜午前10時～11時30分▷場
所 中央公民館保育室▷対象 0
歳の子どもと保護者、妊婦のかた
▷内容 節分・パレンタイン・ひ
なまつり・ヨガ・お楽しみ会など

ファミリー劇場(人形劇) 「おじさんとおきな木」

▷日時 2月28日(日)午後2時▷場
所 市民福祉センター4階大会議
室▷出演 劇団「なんじゃもん
じゃ」

▷定員 50人(要申込、1人につき
4人まで申込可。定員になり次第
締切)▷入場 無料

読字・日本語パネル展

▷日時・場所 ①3月4日(木)～
9日(火)浜手地区公民館1階ロ
ビー②3月12日(金)～16日(火)山
手地区公民館1階ロビー③3月19
日(金)～23日(火)中央公民館ロ
ビー壁面、平日は午前9時～午後
9時、土・日曜は午前9時～午後
5時▷入場 無料

貝塚市美術協会小作品展

▷日時 1月17日(日)～31日(日)午
前9時～午後9時(1月17日、18日
は休み)▷場所 中央公民館ロビー
壁面▷内容 油絵・水彩画・日本
画・陶芸・絵手紙・染色▷入場
無料

クラブ体験講座

何か始めてみませんか(要申込)。

- ①熟年コーラス 銀の貝
▷日時 1月23日、2月6日、3
月6日、土曜午前10時～正午▷内
容 身体をほぐす体操、愛唱歌や
簡単な2部合唱を歌う
- ②コスモ写真クラブ
▷日時 1月24日(日)午後1時30分
～3時30分▷内容 写真のあれこ
れ、応えます▷持物 カメラ、レ
ンズ(あれば)

中止になりました

報告

クラシックコンサート

YouTube



11月8日(日)午後1時30分から中央公民館視聴覚室において、貝塚市クラシック音楽家協会がお贈りするコンサート「今こそ聴きたいクラシックの名曲たち」が開催されました。

毎年この時期に開催しているコンサートですが、今年は新型コロナウイルス感染予防対策のため、定員26人と人数を制限して募集したところ、2倍以上の59人の申込がありました。

当日は抽選で選ばれたかたが、誰もが一度は聞いたことのあるピアノや声楽の名曲を楽しむことができました。曲の間には、貝塚市クラシック音楽家協会のかたが詳しい解説をしてくださり、「とてもわかりやすい」と好評で、演奏についても「良かった」「出演者の動きが感じられた」などの感想が寄せられました。

コンサートの様子は、YouTube(貝塚市クラシック音楽家協会チャンネル)でも配信していますので、ぜひご覧ください。



ノルディック・ウォークを体験しよう

公民館では、数年前から高齢介護課との共催講座としてノルディックウォークに取り組んでいます。

講座を始めた頃はボールを持って歩く姿が珍しく感じたようで「それは何をしているのですか?」「公民館で、こんな講座をしているのですか?」と外歩き中に聞かれることも多くありました。

講座ではボールの使い方や歩き方だけでなく、みんなで歩く楽しさなども体験しました。みなさん最初はボールと足の動きがバラバラでしたが、講座終盤には格好よくさっそうと歩いていました。

公民館には講座後にできたノルディックのクラブや自主サークルがあります。興味のあるかたは公民館までお問合せください。

第9回貝塚公民館大会

やっぱり好きやねん～コロナで知った公民館の大切さ～

いろいろな世代が集まって、互いを知り気づきを得て共有する場です。コロナ禍の中で感じた公民館活動への気づきを話します。

三館オンライン同時開催!

▷日時 2月7日(日)午後1時～▷定員 3館合計100人

▷アドバイザー 村田和子さん(和歌山大学教授)

▷申込 1月15日(金)～2月2日(火)に各公民館窓口または電話で

浜手地区公民館

☎072-431-0926

人形劇

乳幼児向けの人形劇です。

▷日時 2月20日(土)午前10時30分

～11時10分▷場所 2階ホール▷定員 60人(定員になり次第締切)▷申込 1月15日(金)～2月14日(日)

に窓口・電話で▷出演 人形劇き

しゃぼっぼ(浜手地区公民館クラブ)▷演出 「せぶんせブン7」

▷演出 「せぶんせブン7」

▷「だるまちゃん」シリーズほか

子育てサロンde造形あそび

「子育てサロン☆ほっとスペース」中に行います。

▷日時 第2・4火曜、午前10時

30分～11時30分(1月12日、2月23

日は休み)▷場所 プレイルーム

▷対象 就園前の子どもと保護者

▷内容 1月26日:お絵かきを楽
しもう、2月9日:洗濯ばさみを
使って遊ぼう、3月9日:シール
をはって遊ぼう▷申込 不要

+KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所として

ホールを開放します(申込不要)。

▷日時 1月17日、2月28日、3月

21日、日曜午後1時～4時

ロビーコンサート録画上映

自由にご鑑賞ください。

▷日時 2月12日(金)～14日(日)

正午～午後3時▷場所 1階ロ

ビー▷内容 1月「チェロとピア

ノで奏でる新春の響き」

報告

ダイエットボクササイズ

しっかり運動してストレス発散、シェイプアップ

に効果的なダイエットボクササイズを、10月下旬か

ら11月上旬に、月曜夜2回、土日2回に分けて行いました。

平日の夜や土日開催ということもあり、勤労世代も多く参加してい

たきました。初めはゆっくりボクシングのいろんなパンチの動きを覚え

ながら、徐々に軽快な音楽によって行いました。

「ダイエットボクササイズが初めて」「運動が久しぶり」というかた

がほとんどでしたが、講座が終了する頃には、ファイティングポーズも

様になり、講師のパフォーマンスや掛け声・音楽でモチベーションを

あげて運動することができたようです。



山手地区公民館

☎072-446-0090

Eメールyamate@city.kaizuka.lg.jp

水間末廣座

今年は三密を避け、ホールで開催

します。日本の古典芸能「落語」や

伝統手品の和妻のひつつ「浮かれの

蝶」をお楽しみください。

▷日時 2月28日(日)午後1時30分

～3時▷場所 ホール▷出演 桂文

昇さん(落語家)、松旭斎天蝶さん

(マジシャン)ほか▷対象 市内在

住・在勤のかた▷定員 100人(定員

になり次第締切)▷入場 無料

▷申込 1月15日(金)～窓口・電

話・Eメールで(整理券を一人4枚

まで山手地区公民館で配布)



報告

公民館でピンポンを 楽しませよう

人気が高まっている卓球を気軽に

に多くのかたに楽しんでもらいた

こうと、講座名には「卓球」ではな

く「ピンポン」を使用しました。

10月～12月の全8回、午後3時

30分～5時まで、申込みなしで自

由参加。卓球台を5セット用意

し、毎回8人ぐらい集まりました。

回を重ねるごとに交流も深まり

、メンバーチェンジしながら、

体力のあるかたは休憩もしないで

夢中で練習していました。

卓球クラブのメンバーがボラン

ティアで協力してくれ、玉拾いや

フォームへのアドバイスもしてく

れました。

今後新しいグループが誕生する
ことを期待しています。

ジャズライブ

11月22日に「ジャズライブin山

手」を開催しました。

中野ひろしwithスイングガイズ

オーケストラ総勢18人が、ステ

ージ上でスタンダード・ナンバーを

中心に演奏。中野さんが「この曲

知っている?」と観客に質問する

と、知っている人は拍手で合図す

るというやり方でソーシャルディ

スタンスを守りながら、ホール内

はゆったりとした時間が流れてい

ました。

公民館タイムズ



中央公民館

☎072-433-7222

NEWつるかめ大学受講者募集

学習と交流、レクリエーションや班活動など盛りだくさん。生活にはりが生まれる高齢者講座です。

▷日程(前期・全12回) 4月12日～7月12日、月曜午前10時～正午(5月3日・24日除く)▷対象 おおむね65歳以上のかた▷定員 10人(定員になり次第締切)▷申込 2月15日(月)～▷締切 3月14日(日)

2020中央公民館子ども講座

いずれも▷申込 2月25日(木)午前9時～(定員になり次第締切)

▷費用 無料

①和楽器の音色を感じよう!!

▷日時 3月25日(木)午前10時～正午▷場所 和室▷対象 小学2～6年生▷定員 10人▷協力 箏曲クラブ

②さをり織でコースターを作ろう

▷日時 3月26日(金)午前10時～正午▷場所 講座室3▷対象 小学1～6年生▷定員 15人▷協力 リサイクル工房リボン

③ダンボールでオリジナルの自動車を作ろう

▷日時 3月28日(日)午前10時～正午▷場所 視聴覚室▷対象 幼稚園児～小学6年生▷定員 30人▷協力 遊び隊

④楽しくおどろろHIPHOP

▷日時 3月29日(月)午後1時30分～2時30分▷場所 視聴覚室▷対象 小学1～6年生と保護者▷定員 6組▷協力 大人のHIPHOP チェクラッシュ

春一番コンサート

木管五重奏を中心としたアンサンブルです。

▷日時 3月21日(日)午後1時30分▷場所 視聴覚室▷出演 サザンウインドアンサンブル▷定員 35人(定員になり次第締切)▷費用 無料▷申込 2月12日(金)午前9時～電話で▷締切 2月26日(金)午後5時

山手地区公民館

☎072-446-0090

Eメールyamate@city.kaizuka.lg.jp

ロビーコンサート スプリングガーデンコンサート ～モノの庭から～

クラシックアンサンブルをお楽しみください。

▷日時 3月16日(火)午後0時30分～1時30分▷出演 待谷翠さん・奥村由起さん・松原裕子さん・西上裕恵さん(貝塚市クラシック音楽家協会)▷定員 40人(定員になり次第締切)▷申込 2月15日(月)～電話・窓口・Eメールで

クラブ体験講座

～なにかはじめてみませんか～

茶道クラブ

▷日時(全2回) 3月16日・23日、火曜午後7時～9時▷内容 お茶を楽しむ▷材料費 1回500円

介護について語り合う場

中央地域包括支援センターのかたに「今、介護で何が必要か」をお話していただきます。

▷日時 2月22日(月)午後1時30分～3時▷場所 視聴覚室▷協力 貝塚市介護者家族の会

講演会

「あそびのうまれる場所」

子どもにとってあそびは自由で楽しいもの。でも自由に遊びってどんなこと?

場があたたり、人がつながる遊び場づくりの実践を遊び心をもって学んでみましょう。

▷日時 3月4日(木)午前10時～正午▷場所 視聴覚室▷対象 どなたでも▷定員 50人(定員になり次第締切)▷保育定員 10人(定員になり次第締切、おやつ代50円)▷協力 貝塚プレーパーク実行委員会

貝塚青少年少女合唱団員募集

仲間とハーモニーをつくりませんか。ぜひ見学にお越しください。2月・3月は無料参加体験もできます。

▷活動日 毎日午前10時～正午▷場所 講座室▷対象 新年長児～中学2年生▷費用 1カ月1,500円(他にユニフォーム貸与代、合宿参加費など別途負担金あり)※園児は費用・時間が異なります。

いずれかの写真があればご提供ください

報告

アロマ講座

11月13日・20日

金曜午後7時～8時30分(全2回) 受講者18人

「1日の終わりに癒しのひとときを」をテーマに、1回目はアロマの効能や暮らしの中への取り入れ方を学び、マスクにも使える「ウイルス対策の除菌スプレー」を作りました。2回目は「保湿効果のあるアロマソープを作ろう!」と題してホットプレートを使用し、自分たちでデザインしたオリジナルの石けんを作りました。



受講者は自分の好きな香りを選びながら自然と会話も弾み、アットホームな雰囲気で終了しました。

～受講者の感想～

- ・除菌スプレーや石けん作りなどとても必要なグッズが作れて楽しかった。
- ・コロナ感染拡大の時期に「癒しのひととき」。とても楽しかった。
- ・コロナの時期に除菌効果のある精油を使ったり、いろいろなお話もうかがいアロマの知識があることは、生活に潤いが出ます。

報告

健康サロン

公民館ではコスモス市民講座のプログラムのひとつとして「健康サロン」を開催しています。

このプログラムは、地域の町会館に職員が出掛け、簡単な体操を指導し、町会館は会場準備や体操後の茶話会を担当します。

今年は予定していたサロンの中止が相次ぐなか、加神町会、東山町会で開催できました。特に加神町会では初めての開催で町会役員のかたは体温計や手指の消毒を準備し、みなさんが安心して参加できるよう工夫していました。

体操後の茶話会はとりやめ、参加者の一言感想では「久しぶりにみんなの顔が見れて良かった」「町会館だったから出てきたわ。運動もできてスッキリしたわ」など楽しめた様子うかがえました。



浜手地区公民館

☎072-431-0926

浜手 歌声サロン

思い出の歌、青春時代の懐かしい歌をリクエストしてみんなで歌おう!

▷日時 3月14日(日)午後1時30分～3時▷場所 ホール▷出演 深澤勝也さんほか▷定員 60人(定員になり次第締切)▷申込 2月14日(日)～3月7日(日)に電話・窓口で ※リクエストカード(2曲まで)は浜手地区公民館にあります。

浜手アフタヌーンコンサート プレリュード

～サクソフォン四重奏による～

浜手ロビーコンサートは、4月から「アフタヌーンコンサート」に変わります。

▷日時 3月18日(木)午後0時15分～1時15分▷場所 ホール▷出演 フラン サクソフォン カルテット(佐藤宏亮さんほか3人)▷定員 80人(定員になり次第締切)▷申込 2月22日(月)～3月11日(木)に電話・窓口で

クラブ体験「カントリーダンス」

カウボーイスタイルで一緒にカントリーダンスを踊りませんか。

▷日時 3月18日(木)午後7時～8時30分▷場所 プレイルーム▷定員 5人(定員になり次第締切)▷申込 3月16日(火)までに電話・窓口で

報告

出かける公民館 「和太鼓を楽しむ」



12月13日(日)北小学校室内運動場で「楽しむ和太鼓」公演を行いました。

舞台上には大小様々な種類の太鼓が並び「阪南太鼓楽鼓(ちっこ)」の力強い演奏に、コロナ禍で沈みがちになる気分も吹き飛び元気づけられました。

阪南市西鳥取公民館の「子ども和太鼓」によるかわいい演奏もあり、体験タイムには約20人が演奏に挑戦。リズム打ちや合奏を楽しみました。

参加者には「迫力ある太鼓の音を生で聞けてよかった」「元気がでた」「体験タイムが良かった」など、約1時間の公演をたっぷり楽しんでいただけたようでした。

公民館タイムズ



中央公民館 ☎072-433-7222

いすヨガ(高齢介護課共催)
いすに座ってできるヨガです。
▷日時(全6回) 4月16日・30日、5月14日、6月4日・18日、7月2日、金曜午前10時～11時30分▷場所 講座室3▷講師 津田美穂さん(まちのすぐれもの登録者)▷持物 タオル、水分▷定員 15人(先着順)▷申込 3月15日(月)午前10時～窓口・電話で

みんなでノルディック・ウォークグループを作ろう(高齢介護課共催)
▷日時(全5回) 4月12日～5月17日(5月3日除く)、月曜午後2時～4時▷場所 コスモシアター周辺・二色の浜公園▷講師 大阪府ノルディック・ウォーク連盟▷定員 20人(先着順)▷申込 3月15日(月)午前10時～窓口・電話で



ふれあい料理ボランティア募集
障害のあるかたと一緒に料理をする講座のボランティアを募集しています。講座日に体験、または見学ができます。
気軽に和やかな雰囲気を見に来てください。
▷日時 4月23日、5月28日、6月25日、7月30日、金曜午前9時30分～午後0時30分▷申込 各講座日の1週間前に窓口・電話で
※体験を希望されるかたは、エプロン、三角巾、ひきんをお持ちください。



GWピアノリレー
どなたでも参加できます。
▷日時 5月2日(日)午前9時～午後4時▷場所 視聴室▷定員

プレーパーク

子どもたちの「やってみたい」を最大限かなえてあげながら一緒に遊ばせませんか。
▷日時 3月27日(土)～4月2日(金)午前10時～午後4時(雨天中止)▷場所 市立青少年野外広場(第四中学校横)
▷参加協力費 100円

28人(要申込、定員になり次第締切一人15分、空きがあれば連続可)
▷参加費 無料▷申込 窓口・電話で

赤ちゃんルーム

▷日時 第2・4月曜、午前10時～11時30分▷場所 保育室▷対象 2020年4月以降生まれの子どもと保護者、妊婦のかた▷申込 講座終了後に次回分申込(新型コロナウィルス感染症対策のため事前にお問合せください)



日本語会話よみかき教室

いろいろな事情で学校に行けなかったかた、外国から日本に来て日常生活に不自由しているかた、公民館で学びませんか。
▷場所・日時 中央公民館(火曜午前10時～)、山手地区公民館(月曜午後7時30分～)、浜手地区公民館(日時は要相談)

市民企画講座 「りょうちゃんのおもしろ子育てトーク&ライブ」

▷日時 3月15日(月)・30日(火)午前10時～正午▷場所 職員会館・中央公民館視聴室▷講師 成田良治さん(よろず劇場とんがらし)▷対象 親子(大人だけでも可)▷定員 20組(最大40人、定員になり次第締切)▷参加費 無料▷協力 貝塚ファミリー劇場▷申込 窓口・電話で

第33回貝塚ファミリー劇場「こども市」

子どもが考え、工夫したお店がたくさん出ます!ぜひ遊びに来てください!
▷日時 4月18日(日)午前10時～午後1時▷場所 コスモシアター前庭(雨天時は、中央公民館2階)



浜手地区公民館

☎072-431-0926

浜手アフタヌーンコンサート

歌の春風～故郷に寄せて～
▷日時 4月8日(木)午後2時～3時▷場所 ホール▷出演 佐々木涼輔さん(テノール)、志賀俊亮さん(ピアノ)▷定員 80人(定員になり次第締切)▷申込 3月22日(月)～4月6日(火)に電話または窓口で
※浜手アフタヌーンコンサートは偶数月第2木曜に開催します。



「造形あそび」をします。
▷日時 第2・4火曜、午前10時～正午(時間内出入り自由)▷対象 0歳～未就園児と保護者▷申込 不要▷内容 3月23日:容器がいっぱい、4月13日:ボールコロコロ

シルバーライフ

高齢期をイキイキと過ごすため、仲間と一緒に学習や交流をしましょう。
▷日時(全21回) 5月13日～12月2日(8月を除く)、木曜午前10時～正午▷対象 65歳以上の市民▷定員 10人(定員になり次第締切)▷参加費 無料(材料費実費)▷申込 4月15日(木)までに電話または窓口で

子育てサロン☆ほっとスペース

0歳～未就園児と保護者のための自由な居場所です。時間内で

報告

シルバーライフ

今年度は、32人が班に分かれて活動しました。講座では「貝塚の歴史」「認知症予防の話」「簡単な手話」などについて学び、「グラウンドゴルフ」「歌声サロン」などで交流しました。



新春あそびたい会

1月8日(金)、小学校の3学期始業式の日に「新春あそびたい会」を開催しました。今年もボランティアさんが、ブンブンごま、恐竜おりがみ、人気アニメの刀作りなど、楽しめる遊びを用意して子ども達を迎えてくれました。



今回は密になるのを避けるために、スタンパラリーを実施し、各あそびコーナーを回れるようにしました。子ども達は順番に遊べて大満足の様子でした。思いっきり遊ぶことができたようで、本当によかったです。

山手地区公民館

☎072-446-0090

木工作「木のミニこいのぼり」

工具を使って一つの木製「こいのぼり」を作ってみませんか。
▷日時(1日のみ) ①3月27日(土) ②3月28日(日)、午前9時30分～午後0時30分▷材料費 1,000円(1家族に1つ作成)▷対象 市内在住の1～4年生の子どもと保護者▷定員 各4組(多数の場合は抽選)
▷協力 木エクラブ▷締切 3月15日(月)▷申込 窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で



高齢者講座「ことぶきクラブ」新規受講生募集



高齢期を生きいきと健康で過ごすために、自分たちのやりたいことを話し合ってすすめていきます。
▷日程(全28回) 4月6日～12月14日、火曜午前10時～正午▷内容 学習・交流・レクリエーションなど▷対象 65歳以上の市民▷定員 10人(定員になり次第締切)▷費用 無料(材料費実費)▷締切 3月25日(木)▷申込 窓口・電話で

令和2年度 施設利用統計（令和2年4月～令和3年3月）

<利用人員数・中央>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	0	7	322	470	202	373	696	577	538	182	233	260	3,860
事業	0	29	67	87	277	424	134	267	171	398	402	259	2,515
クラブ等	102	79	1,378	1,971	1,720	2,381	2,062	1,812	1,761	1,328	1,321	2196	18,111
一般利用	6	0	22	82	14	64	38	56	19	305	117	105	828
その他	0	37	160	210	113	55	226	382	168	51	181	176	1,759
計(人)	108	152	1,949	2,820	2,326	3,297	3,156	3,094	2,657	2,264	2,254	2,996	27,073

<浜手地区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	0	0	46	100	8	280	235	96	71	146	59	52	1,093
事業	0	0	33	108	216	193	158	61	121	165	160	175	1,390
クラブ等	97	16	974	1,149	1,010	1,318	1,387	1,307	1,458	968	1,029	1375	12,088
一般利用	0	0	5	17	54	71	29	150	12	42	167	129	676
その他	27	101	83	356	410	267	560	198	226	182	281	245	2,936
計(人)	124	117	1141	1730	1698	2129	2369	1812	1888	1503	1,696	1976	18,183

<山手地区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	0	0	125	133	47	199	314	357	123	154	92	222	1,766
事業	0	0	31	59	30	344	512	450	72	197	169	84	1,948
クラブ等	44	0	941	1,177	1,014	1,337	1,383	1,181	932	771	857	1,053	10,690
一般利用	33	18	686	548	594	522	935	1,139	407	248	358	1,607	7,095
その他	12	28	30	96	141	106	122	102	123	98	88	103	1,049
計(人)	89	46	1,813	2,013	1,826	2,508	3,266	3,229	1,657	1,468	1,564	3,069	22,548

<使用状況・中央>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
視聴覚室	3	13	50	50	54	56	65	56	46	43	33	52	521
講座室3	2	1	31	43	39	45	51	54	34	31	38	50	419
講座室2	2	3	35	41	34	45	51	42	38	30	41	44	406
講座室1	3	0	25	35	26	30	26	30	40	26	33	39	313
和室	2	1	12	20	21	16	23	28	21	13	11	18	186
創作室	3	0	23	32	24	33	32	30	30	19	19	31	276
料理室	0	0	7	17	9	13	12	14	13	6	8	17	116
保育室	1	0	12	28	32	29	33	26	30	25	22	35	273
青少年センター	3	0	0	16	19	17	21	15	15	12	10	19	147
文化会館	0	0	0	1	1	5	1	1	3	3	3	1	19
その他	0	2	4	1	0	1	0	2	1	1	1	4	17
計(回数)	19	20	199	284	259	290	315	298	271	209	219	310	2,693

<浜手地区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	1	0	26	31	35	46	53	31	33	27	36	43	362
プレイルーム	0	0	9	9	5	20	16	22	18	10	10	12	131
第1講座室	6	0	19	28	41	35	29	29	30	34	33	37	321
第2講座室	1	0	19	26	33	30	31	27	28	24	23	28	270
和室	0	0	7	9	6	18	19	15	9	12	10	13	118
調理室	0	0	2	9	4	8	10	10	10	6	9	6	74
ロビー等	0	0	6	11	8	12	15	15	11	9	12	10	109
計(回数)	8	0	88	123	132	169	173	149	139	122	133	149	1,385

<山手地区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	2	0	44	45	36	42	57	50	25	22	24	49	396
楽屋1	0	0	3	0	0	0	4	8	1	0	2	0	18
楽屋2	0	0	3	0	0	2	4	8	0	0	2	0	19
保育室	0	0	7	9	9	11	16	19	7	6	11	18	113
講座室1	3	1	21	27	26	32	34	27	18	23	24	32	268
講座室2	0	0	25	34	24	30	39	36	32	20	20	42	302
講座室3	3	1	20	18	19	16	22	26	17	16	22	23	203
料理室	0	0	1	2	2	5	2	5	2	1	1	3	24
視聴覚室	0	0	9	12	15	19	21	19	12	7	14	12	140
音楽室	0	0	0	3	5	15	6	10	7	6	6	11	69
創作室	3	0	14	14	15	16	19	15	14	14	21	15	160
和室	0	0	11	19	19	21	23	20	17	21	27	26	204
計(回数)	11	2	158	183	170	209	247	243	152	136	174	231	1,916

